

2019年度 事業計画書

(2019年4月1日～2020年3月31日)

社会福祉法人
聖隷福祉事業団

2019年度 事業計画書 目次

2019年度事業計画にあたって	…	5
聖隷福祉事業団 理念～目標体系	…	7
聖隷三方原病院	…	9
聖隷おおぞら療育センター	…	13
三方原ベテルホーム	…	15
聖隷浜松病院	…	17
聖隷淡路病院	…	20
聖隷横浜病院	…	22
聖隷佐倉市民病院	…	24
保健事業部	…	27
聖隷健康診断センター	…	29
聖隷予防検診センター	…	31
聖隷健康サポートセンター <i>Shizuoka</i>	…	33
地域・企業健診センター	…	35
浜松市リハビリテーション病院	…	37
聖隷袋井市民病院	…	39
在宅・福祉サービス事業部	…	41
<和合せいれいの里> 特別養護老人ホーム和合愛光園 和合愛光園デイサービスセンター 和合愛光園和合サテライト 障害者支援施設みるとす 障害者相談支援事業所くすのき 生活支援ハウスやまぶき … 44 聖隷ヘルパーセンター 聖隷ケアプランセンター和 地域包括支援センター和合 訪問看護ステーション住吉 聖隷チャレンジ工房和合 聖隷放課後クラブはなえみ和合		
聖隷めぐみ保育園	…	49
<聖隷ケアセンター初生> 和合愛光園初生サテライト … 51 聖隷デイサービスセンター初生 聖隷ヘルパーセンター初生		
<聖隷ケアセンター高丘> 訪問看護ステーション高丘 地域包括支援センター高丘 … 53 聖隷リハビリプラザIN高丘 聖隷ケアプランセンター浜松		
訪問看護ステーション住吉第二	…	55
聖隷デイサービスセンター住吉	…	56
聖隷コミュニティケアセンター	…	57
浜松市生活自立相談支援センターつながり	…	58

2019年度 事業計画書 目次

<聖隷厚生園信生> 聖隷厚生園信生寮 聖隷厚生園まじわりの家 障害者相談支援事業所信生 訪問看護ステーション細江 聖隷ケアプランセンター細江	… 59
<聖隷厚生園讃栄> 聖隷厚生園讃栄寮 生活訓練事業所ナルド 地域活動支援センターナルド 障害者相談支援事業所ナルド	… 62
聖隷厚生園ナルド工房	… 64
もくせいの里	… 66
いなさ愛光園	… 68
<聖隷ケアセンターいなさ> 地域包括支援センター細江 聖隷ケアプランセンターいなさ南部 聖隷リハビリプラザいなさ	… 71
<聖隷ケアセンター三方原> 訪問看護ステーション三方原 聖隷ケアプランセンター三方原 聖隷デイサービスセンター三方原	… 73
浜北愛光園	… 74
森町愛光園	… 77
<聖隷びゅあセンター磐田> 聖隷こども発達支援センターかるみあ 聖隷放課後クラブはなえみ磐田 相談支援事業所磐田みなみ 聖隷チャレンジ工房磐田 聖隷こども発達支援事業所かるみあ豊田 磐田市発達支援センターはあと 磐田市子育て支援総合センター「のびのび」 磐田市南部地域包括支援センター 磐田市南部障害者相談支援センター	… 80
<浅田地区在宅複合事業> 訪問看護ステーション浅田 聖隷ケアプランセンター浅田	… 83
静岡県立浜松学園	… 84
<浦安市高洲高齢者福祉施設及び 猫実高齢者デイサービスセンター> 浦安市特別養護老人ホーム 浦安市高洲高齢者デイサービスセンター 浦安市高洲地域包括支援センター 浦安市ケアハウス 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター	… 86

2019年度 事業計画書 目次

浦安愛光園	…	89
浦安ベテルホーム	…	91
浦安せいれいクリニック	…	93
聖隷ケアプランセンター浦安		94
聖隷訪問看護ステーション浦安	…	95
松戸愛光園	…	96
横須賀愛光園	…	99
宝塚すみれ栄光園	…	102
ケアハウス宝塚	…	104
結いホーム宝塚	…	106
宝塚栄光園	…	108
<聖隷ケアセンター宝塚第1> 聖隷ヘルパーステーション宝塚 聖隷逆瀬川デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンター宝塚 訪問看護ステーション宝塚 逆瀬川地域包括支援センター	…	110
<聖隷ケアセンター北神戸> 聖隷訪問看護ステーション北神戸 聖隷ケアプランセンター北神戸 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ北神戸	…	112
聖隷逆瀬台デイサービスセンター 聖隷デイサービスセンターあゆむ	…	114
聖隷デイサービスセンター結い	…	116
聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	…	117
花屋敷栄光園	…	118
ケアハウス花屋敷	…	120
<聖隷ケアセンター宝塚第2> 聖隷ケアプランセンター花屋敷 聖隷訪問看護ステーション山本	…	122
聖隷カーネーションホーム	…	123
淡路栄光園	…	125
<聖隷ケアセンター津名> 聖隷訪問看護ステーション淡路 聖隷ケアプランセンター淡路第二 聖隷ヘルパーステーション淡路	…	127
聖隷こども園夢舞台	…	129
奄美佳南園	…	131
春日保育園	…	134
のぞみ園	…	136
聖隷かがやき	…	138
<聖隷ケアセンター沖縄> 聖隷訪問看護ステーションゆい 聖隷居宅介護支援センターゆい 聖隷デイサービスセンターゆい	…	140
聖隷こども園わかば	…	142

2019年度 事業計画書 目次

聖隷こども園桜ヶ丘	…	144
聖隷こども園ひかりの子	…	146
聖隷こども園めぐみ	…	148
聖隷浜松病院ひばり保育園	…	150
聖隷のあ保育園	…	152
こうのとり保育園		154
聖隷こども園こうのとり東	…	156
聖隷こども園こうのとり豊田	…	158
野上あゆみ保育園	…	160
野上児童館	…	162
逆瀬川あゆみ保育園	…	163
御殿山あゆみ保育園	…	165
御殿山児童館	…	167
高齢者公益事業部	…	168
浜名湖エデンの園	…	170
宝塚エデンの園	…	172
松山エデンの園	…	174
油壺エデンの園	…	176
浦安エデンの園	…	178
横浜エデンの園	…	180
<聖隷藤沢ウェルフェアタウン> 藤沢エデンの園一番館 藤沢エデンの園二番館 藤沢愛光園		
聖隷デイサービスセンター藤沢	…	182
聖隷ケアプランセンター藤沢		
聖隷ヘルパーステーション藤沢		
聖隷訪問看護ステーション藤沢		
奈良ニッセイエデンの園	…	186
松戸ニッセイエデンの園	…	190
明日見らいふ南大沢	…	194
法人本部	…	196

総合力で地域共生社会の実現

理事長 山本敏博

1. 人材確保・育成と働き方改革への対応
2. 社会福祉法人の使命として地域共生社会の実現
3. 先駆的取り組みへの挑戦と健全経営
4. 災害対策への取り組み

■はじめに

2018年度は診療報酬、介護報酬、障害福祉等サービス報酬の3つの同時改訂がなされた。これらの改定と2019年10月の消費税増税によって2025年を見据えた「税と社会保障の一体改革」が完了する事になる。経済財政諮問会議における未来投資会議では2040年以降を見据え、多様な人材の活用、健康寿命の延伸と共に医療福祉の生産性の向上が掲げられ、AI、ICTやロボットの利活用と社会福祉法人の大規模化の推進を明記している。以前から私が年頭所感等で主張していた医療福祉の生産性の向上が、いよいよ国のテーマとして推進される事になった。大規模社会福祉法人としての聖隷の組織体制やガバナンスが我が国の医療福祉提供体制の模範となり、スタンダードとなっていくように我々の経験を活かしていく。

2019年は病院等の大型投資事業が竣工すると共に、改元、消費税増税、そして働き方改革の推進といった大きな環境変化が想定される。これらに対応しつつ、将来を見据えた、より質を高める事業年度としていく。

■人材確保・育成と働き方改革への対応

2018年4月にスタートした新人事制度により、多様な働き方・キャリア形成への柔軟な対応と処遇の向上が図られたことで採用競争力の強化を図ることができた。さらに、新たな管理職育成コースを導入し、戦略的に管理職を育成すると共に、特に女性の経営層の育成も積極的に行っていく。

また、働き方改革関連法に沿って、長時間労働の是正や有給休暇の取得などを推進していく。これまで短日・短時間勤務（ワークシェア）制度、育児休職の再取得など多様な働き方に対応してきた。また「ホワイト500」の取得など労働環境の充実も図ってきた。より働きやすい組織となることを目指して、子育てや介護、病気の治療などと仕事の両立ができる環境や、女性職員や高齢の方が働き続けられる環境の整備を行う。外国人、障がい者の活躍できる環境づくりについても引き続き取り組む。聖隷への期待と責任はますます高まる一方で、職員確保はより一層厳しい状況となっていくことが想定され、人材確保と育成に向けてさらなる取り組みを推し進めなければならない。

■社会福祉法人の使命として地域共生社会の実現

「地域共生社会」の実現には、高齢者は高齢者施設、障がい者は障がい者施設といった「縦割り」から、高齢者施設で障がい者を受け入れるような包括的な支援、総合的サービスの提供への

転換が求められている。医療福祉にまたがる聖隷の総合的な機能は地域共生社会実現の要となるものであり、総合力を高めるために聖隷内での連携や交流をより推進していく。さらには地域の会議体に積極的に参加するなど聖隷以外の法人や行政との連携体制をより積極的に構築していくことで、地域共生社会の基盤をつくっていく。また、さまざまな課題を抱えているにもかかわらず公的支援制度の受給要件を満たさない「制度の狭間」のニーズに対して対応をしていく。これらの取組を積極的に広報し、他の法人とも協力して社会福祉法人に対する理解を広げるよう努めていく。

■先駆的取り組みへの挑戦と健全経営

聖隷三方原病院地域障がい者総合リハビリテーションセンター、聖隷横浜病院新外来棟、聖隷佐倉市民病院新病棟および手術棟増築が2019年度中に竣工する。また、障がい者支援施設静岡県立浜松学園の指定管理者受託など新たな事業が開始される。いずれも地域のニーズと将来の事業展開を見据えたものであり、事業計画に沿って投資した経営資源を最大限に活用していく。聖隷は今まで地域で必要とされる事業であれば経営的に厳しい期間も各事業部が支えあうことで、聖隷全体で安定的な経営を継続してきた。これも聖隷の総合力により実現したものであり、事業部同士が協力して総合力を発揮できること、時代、地域ニーズに適切に変化できることは聖隷の極めて優れた強みである。

また、経営環境としては消費税増税という大きな変化がある。各種の契約や材料・備品等の購入について適正に対応をしていくと共に、消費税増税を財源とした幼児教育・保育の無償化、介護福祉士への処遇改善など政策的な影響についても適切に対応していく。

■災害対策への取り組み

2018年の西日本豪雨災害では倉敷市、呉市に介護福祉士、看護師を派遣し復興支援に協力することができた。台風24号では浜松地域の施設で停電や断水が発生し、ライフラインの重要性を改めて実感した。各施設単位で災害発生時の初動、発災後数日間の対応について再度確認し、防災対策の強化に取り組んでいく。聖隷全体としては、広域防災委員会が中心となり、被災地域外の施設が被災施設をどのように支援するかの検討を進める。

■結びに

中期事業計画2016-2020も残すところ2年となった。ビジョン2020の実現に向けた具体的な取り組みを行っていくとともに、さらに5年後の2025年を見据えた準備を行っていく。2019年はこれまでの振り返りと共に組織体制の見直しや、次世代へ向けた将来像の検討など「聖隷が将来どうあるべきか」「何をやるべきか」を考え、それを実現するための基盤を具体化する1年とする。

基本理念

キリスト教精神に基づく
「隣人愛」

使命

- ・いのちと尊厳のために
- ・利用される人々のために
- ・地域社会とともに
- ・未来を築く
- ・最高のものを

ビジョン2020

人・地域・社会・時代が必要とする
ヒューマンサービスを追求し、
新たな価値を創造する

中期事業計画

事業部中期事業計画

事業団年度目標

事業部年度目標

職員行動指針

わたしたちは、
ひとりひとりの
命と尊厳を守ります

わたしたちは、
サービスを求める
すべての人々に、
誠実かつ献身的に仕え、
その自立を支援します

わたしたちは、
「保健・医療・福祉・介護」
サービスを通して
社会に貢献し、
地域の人々との
強い絆を育みます

わたしたちは、
先駆的・開拓的精神で
新たなニーズの発見に努め、
常に課題に挑戦します

わたしたちは、
ひとりひとりが専門職としての
倫理と誇りを持ち、
最高の技術を提供します

次ページへ

【用語の定義】

○使命：職員は何を大切に考えて仕事をするか ○ビジョン2020：2020年にどのような組織であるべきか

ビジョン2020
人・地域・社会・時代が必要とする
ヒューマンサービスを追求し、
新たな価値を創造する

1. 最高の質を追求し提供する
2. 社会福祉法人としての使命を追求する
3. 職員は高い専門性と経営的視点を持ち、能力を発揮する
4. 多様な能力、価値観を持った人材や女性の活躍を推進する
5. 社会のニーズに応える先駆的な事業・サービスを創造する
6. 地域包括ケアシステムを構築し、シームレス^{※1}なサービスを提供する
7. 事業を継続し発展するためにサービス活動収益 年2.5%^{※2}成長を維持する

2016年度

2017年度

2018年度

2019年度

2020年度

1. 最高の質を追求し提供する	6. 地域包括ケアシステムを構築し、シームレス^{※1}なサービスを提供する
①利用者視点に立った良質なサービス提供の実践	①地域枠での聖隷独自の事業展開と事業部の融合
②人口動態の変化に伴うサービスの変革	②聖隷と他法人の連携による地域包括ケアシステムの構築
③最新医療・介護技術、システムの導入・構築	③地域包括ケアシステムにおける連携の仕組み作り
2. 社会福祉法人としての使命を追求する	7. 事業を継続し発展するためにサービス活動収益 年2.5%^{※2}成長を維持する
①社会福祉法人としての公益活動の推進・情報発信	<2020年度到達目標>
②新たな組織体制の追求	①サービス活動収益 対2015年度比 112.5%以上
3. 職員は高い専門性と経営的視点を持ち、能力を発揮する	②経常増減差額率 5か年累計平均 3.0%以上
①サービスの質を意識し、専門職としての知識・技術・価値の追求	③職員一人あたりサービス活動収益 対2015年度比 107.0%以上
②経営を担う人材、新たな価値を創造する人材の育成	④職員一人あたり経常増減差額 対2015年度比 112.0%以上
③中期事業計画を理解し、自ら考えて行動する人材の育成	⑤実質資金増加額 5か年累計 60億円以上
4. 多様な能力、価値観を持った人材や女性の活躍を推進する	⑥純資産比率(自己資本比率) 40.0%以上
①多様な働き方の創出	⑦人件費率 58.0%以内
②女性の活躍を推進するためのキャリア形成支援	⑧有利子負債比率(対サービス活動収益) 30.0%以内
5. 社会のニーズに応える先駆的な事業・サービスを創造する	※1 シームレス：地域において保健・医療・福祉・介護サービスを事業団内、他法人との連携により継ぎ目なく受けられること。
①効果的な投資による経営資源の最大活用	※2 成長率 年2.5%：新たな事業展開、医療・福祉人材の確保等を行う中で、安定的な経営を行うために年2.5%以上の成長が必要である。
②社会環境の変化を先取りした事業の展開	2020年度終了時、サービス活動収益対2015年度比112.5%以上
③地域に求められるサービスの提供	

(2015.11.27 理事会承認)

医療保護施設 総合病院 聖隷三方原病院

地域医療構想、地域包括ケアシステムが計画されて数年が経過する。しかしその進捗状況は順調とは言い難い。西部医療圏に限らず、県全体、国全体でも同様の傾向であり、診療報酬制度と もっと密接に連動させなければ、実現の道筋はなかなか見えてこない。地域の高齢化は年ごとに進んでおり、この速度に制度が追いつけないのが現状である。新専門医制度も 2019 年度で 2 年目を迎えるが、こちらでも大学志向、都会志向は続いており、病院独自の専攻医をなかなか確保できない状況である。さらに政府が進める働き方改革も、勤務医の仕事の中で、業務と研修とをどのようにして区別するのか、その指針となるものは、まだどの機関からも示されてこない。これらは、現場の努力だけではなかなか解決の糸口を見いだせないものばかりであり、行政側の動きを待つしかない状況である。

聖隷三方原病院の行う事業としては、2018 年度からの持ち越しとなるが、「地域障がい者総合リハビリテーションセンター」の建築がある。建物自体は 10 月頃に完成予定であるが、障がいを持った方々に喜んでもらえる運営ができること、社会復帰のお手伝いができることを最終目標にしている。建物だけではなく、そのソフト面の運営がより重要と考えている。さらに最近導入した最新医療機器（放射線治療装置、ハイブリッド手術室、手術支援ロボットなど）が地域の方々により良い医療をお届けできるよう、効率的に運用できる体制を 2019 年度は確立したい。看護師を教育する医療機関として、認定看護管理者の研修を 4 年前より行ってきた。2019 年度はさらに看護師特定行為研修の指定研修機関としての認可を目指したい。そしてこれらが職員の資格取得支援とさらには質の向上に繋がれば幸いである。また地域全体を考え、救急医療をスムーズに活用できるよう、また終末期を迎えた方々の希望する医療を叶えられるよう、地域におけるアドバンス・ケア・プランニング（ACP）の確立に地域全体の中の一員として協力したい。

【理念】

キリスト教精神に基づく「隣人愛」

【経営方針】

この地域にしっかりと根ざし、住民に信頼される病院づくり

【中期的な目標】

1. 安全で質の高い医療の提供
2. 人づくり文化の継承と働く支援
3. 地域における多施設連携の取り組みと社会貢献
4. 地域に望まれる病院機能の整備
5. 安定した経営基盤の確保

【事業・運営計画】

1. 安全で質の高い医療の提供
 - (ア)安全な医療の提供
 - ①医療安全管理体制の評価と充実
 - ②感染管理体制の評価と充実
 - (イ)質の高い医療の提供
 - ①各部門の専門特化した医療体制の確立
 - ②入退院支援の質向上
 - ③専門・認定看護師の活用
 - (ウ)新たな病院機能の提供
 - ①外傷センター設立
 - ②電子カルテシステムの安定稼働
 - ③地域障がい者総合リハビリテーションセンター運用開始
 - ④手術室機能の促進
 - ⑤外来・画像診断部門の再構築
 - ⑥診療における IT の推進
 - ⑦部署機能の適正化
2. 人づくり文化の継承と働く支援
 - (ア)医師・看護師・介護職の人材確保と定着
 - ①臨床研修医・専攻医採用の強化
 - ②看護師の安定した確保
 - ③介護職採用の強化
 - ④新専門医制度への対応
 - ⑤臨床研究支援の検討と構築
 - (イ)職員教育の充実
 - ①指導者育成の推進
 - ②キャリア形成への支援
 - ③OJT の強力な推進
 - ④看護師特定行為研修の指定研修機関の取り組み
 - (ウ)働き方改革関連法への対応
 - ①勤務環境改善への取り組み
 - ②各種法令の把握と取り組み
3. 地域における多施設連携の取り組みと社会貢献
 - (ア)地域医療構想への対応
 - ①病床機能の検討
 - (イ)地域包括ケアシステムの推進
 - ①福祉・介護施設との連携推進
 - ②アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の推進（※1）
 - (ウ)利用者サービスの向上
 - ①病院情報公開の強化
 - ②利用者満足度の向上
 - (エ)多様な雇用形態の促進
 - ①障がい者雇用
 - ②エルダー職雇用の推進
 - ③就労支援が必要な人達の雇用（※2）
 - (オ)病院ボランティアの充実
 - (カ)省エネルギー活動の継続
4. 地域に望まれる病院機能の整備
 - (ア)高度救命救急センターの体制充実
 - ①重症救急患者の受け入れ体制の充実

- (イ) 認知症疾患医療センターの体制充実
 - ① 他医療機関との連携システムの整備
 - ② 地域包括支援センター、福祉・介護施設との連携
 - ③ 相談支援体制の充実
 - (ウ) 精神科病棟の体制充実
 - ① 精神科合併症ユニットの体制充実
 - ② 精神科救急の体制充実
 - (エ) 災害拠点病院としての体制充実
 - ① 大規模災害に向けた地域連携
 - ② 防災対策の強化 (BCP 含む)
 - (オ) 地域がん診療連携拠点病院の体制充実
 - ① がんサポートセンターの継続的運営
 - ② 五大がん地域連携クリニカルパスの活用推進
 - ③ 新指針への体制構築
 - (カ) 地域医療支援病院の体制充実
 - ① 病診・病病連携の強化
 - ② 地域連携クリニカルパスの推進
 - (キ) 聖隷おおぞら療育センター体制充実
 - ① 組織体制の整備
 - ② 防犯対策の強化
 - (ク) 医療保護施設としての活動
5. 安定した経営基盤の確保
- (ア) 消費税増税に伴う各種対応
 - (イ) コンプライアンスに基づく業務改善の推進
 - ① 施設基準の精度管理
 - (ウ) コストパフォーマンスの向上
 - ① 生産性向上への取り組み強化
 - ② 職員の経営参画意識の向上

- (※1) ACP：患者本人と家族が医療者や介護提供者などと一緒に、現在の病気だけでなく、意思決定能力が低下する場合に備えて、あらかじめ終末期を含めた今後の医療や介護について話し合うこと
- (※2) 就労支援：子育て、介護、病気の治療などの環境におかれている人

【数値指標】

総収益	21,751 百万円	職員数	1,539 人
外来患者数	1,010 人	外来単価	18,000 円
入院患者数	全体 630 人 <一般 561 人・精神 63 人・結核 6 人>		
入院単価	全体 64,900 円 <一般 68,500 円・精神 30,000 円・結核 38,000 円>		
病床利用率	全体 82.5% <一般 87.7%・精神 60.6%・結核 30.0%>		
紹介率	70.0%	逆紹介率	100.0%

《医療保護施設・無料低額事業》

当院は、医療を必要とする要保護者に対して医療の給付を行うことを目的とする施設であり、また、経済的理由により適切な医療を受けられない人に対し、無料または低額で診療をおこなう事業を展開している施設でもある。2019年度も引き続きこのような方々に対して、積極的に手を差し延べ相談に乗り、必要な医療を受けやすい環境を整えていく。

《助産施設 聖隷三方原病院併設助産所》

助産事業は、シングルマザー等への経済的、精神的援助という観点においても意義のある制度である。2019年度も引き続き「みどりの通信」「院外ホームページ」等による地域への広報を図り、当制度対象者の利用しやすい環境を整えていく。

総合病院 聖隷三方原病院 聖隷おおぞら療育センター

聖隷おおぞら療育センター〈医療型障害児入所施設／療養介護（重症心身障害児施設）・短期入所（ショートステイ）〉

施設サービスの質の管理に重点を置き、病院機能との連携を強化して地域のニーズに対応できる利用体制の充実を図る。また、利用者に提供する日常活動やケア内容を安全で質の高いものとするために、組織体制と業務分掌の見直しを検討し、職員教育の充実、介護・看護職員の人材確保、利用者の生活の安全確保に向けた防犯体制強化に取り組み続ける。

ショートステイについても、安全で質の高いサービスの確保に努め、在宅の重症心身障害児者が安心して地域生活が継続できるように支援していく。

あさひ〈生活介護〉

利用者に対する医療的ケアの必要性が高まり、高度な看護・介護技術が必要となっている。また、生活支援の質をさらに高めるため、職員体制の充実や職員教育を積極的に行っていく。在宅重症心身障害者の生活を支える重要な役割を果たしていくために、安定的な運営を行っていく。

児童発達支援センターひかりの子〈児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援・障害児相談支援・特定相談支援〉

在宅の重症心身障害児を支える事業として通所利用の障害児への支援だけでなく、地域で生活する重症心身障害児支援を積極的に行っていく。地域の中核的な療育支援施設としての役割を果たしていくために、センター全ての事業が安全で質の高いサービスの提供に努め、安定的な運営を行っていく。

【経営方針】

聖隷おおぞら療育センターは、施設利用者に対し、障害に即した医療を提供するとともに、個の尊厳を護り、質の高い生活を提供します。

【事業・運営計画】

1. 安全で質の高い障害児者支援の実践
2. 全診療科協力のもとでの専門医療の提供
3. 職員教育の充実
4. 業務改革の更なる推進

【数値指標】

	入所	短期入所	ひかりの子	あさひ
サービス活動収益	1,973,000 千円	165,000 千円	78,500 千円	120,000 千円
職員数	196 人		14 人	21 人
入院患者・利用者数	135 人	—	—	—
入院単価（医療）	29,100 円	—	—	—
外来患者・利用者数	53 人	—	20 人	39 人
外来単価（医療）	5,100 円	—	—	—
単価（福祉）	8,710 円	27,500 円	14,610 円	12,580 円

聖隷三方原病院併設 介護老人保健施設 三方原ベテルホーム

2018年度は、介護報酬・診療報酬の同時改定に対応し、リハビリテーション体制の見直しやショートステイの受け入れ枠を拡大した。また、通所リハビリテーションの所要時間を6時間から7時間へ変更した。そして、2017年度に引き続き、緊急入所、緊急ショートステイの受け入れ、看取りの対応、医療依存度の高い方の受け入れを行った。このため、5月以降、超強化型の算定を維持することができた。

2019年度は、経営方針、組織体制の見直しを図り、さらに安定した経営基盤の構築とサービスを充実させて、地域の支えとなる施設を目指していく。また、聖隷三方原病院後方支援施設として、在宅復帰・在宅生活支援の役割を踏まえつつ、退院後「今後のことを検討する期間を持つ」場所としての利用や自宅退院が困難な場合の一時的療養を行う場所としての利用、あるいは次に利用する施設の待機場所としての利用など、様々なニーズに柔軟に対応していきたい。また、職員の労働環境改善において、看護介護記録の電子化に着手する。日々の記録から請求まで繋げ、業務の効率化、スリム化を図り、働き方改革を進めていきたい。無料低額事業においては生活困難者の経済的支援とともに、自立生活に向けて、他の社会サービスと連携した援助を行う。

【施設理念】

介護老人保健施設「三方原ベテルホーム」は、聖隷精神（隣人愛）に則って運営される地域社会の中の一施設である。保健・医療・福祉の総合性を大切にするとともに、そのなかで個性ある役割を担っていくものである。

【経営方針】

1. 利用者の「生きよう」という意欲を育む
2. それぞれの持てる能力を活かした自立を目指す
3. 個人として尊重され、快適に生活できる場を提供する

【中期目標】

1. 在宅復帰・在宅生活継続支援のさらなる強化
2. 安定した経営基盤構築への取り組み
3. 安全で質の高いケアの提供
4. 次世代を担う人材育成と働く支援
5. 地域社会に期待される施設づくり

【事業・運営計画】

1. 在宅復帰・在宅生活継続支援のさらなる強化
 - (ア) 訪問リハビリテーションの立ち上げ
 - (イ) 在宅復帰、在宅生活継続を常に意識したチームケアの提供
 - (ウ) 通所リハビリテーション稼働率の向上及びショートステイの満足度向上

- (エ) 入所サービスの充実
- (オ) 行政機関、施設、医療機関との連携推進と情報発信の強化
- 2. 安定した経営基盤構築への取り組み
 - (ア) 基本理念と経営方針の見直し
 - (イ) ベッド稼働率の向上
 - (ウ) 超強化型施設としての運営の継続
 - (エ) 新規利用者の獲得
 - (オ) 聖隷三方原病院後方支援施設としての連携強化
 - (カ) 職員一人ひとりの経営参画意識の向上
- 3. 安全で質の高いケアの提供
 - (ア) 個々の利用者にあったケアの提供
 - (イ) 看護介護課組織体制の変更
 - (ウ) フロア業務の統一化
 - (エ) 終末期を支える緩和ケアのさらなる充実
 - (オ) DCM を用いたパーソンセンタードケアの推進
 - (カ) 介護ロボット活用による安全な介護サービスの提供
- 4. 次世代を担う人材育成と働く支援
 - (ア) 看護介護記録の電子システム導入
 - (イ) 高い医療ニーズに対応できる人材の育成
 - (ウ) 働きやすい職場労働環境づくりの推進
 - (エ) OJT の推進強化
- 5. 地域社会に期待される施設づくり
 - (ア) 緊急入所、緊急ショートステイの受け入れ継続
 - (イ) 無料低額事業（生活困窮者支援）の推進
 - (ウ) 地域貢献活動の推進
 - (エ) 防犯対策・BCP（事業継続計画）の強化
 - (オ) ボランティア、学生実習、体験学習の受け入れ推進

《無料又は低額介護老人保健施設利用事業》

当施設は、経済的理由により適切な介護を受けられない人に対し、無料または低額でケアを行う事業を展開している施設である。2019 年度も引き続きこのような方々に対して、積極的に手を差し延べ相談に乗り、必要な介護を受けやすい環境を整えていく。

【数値指標】

	入所（短期入所含む）	通所リハビリテーション
利用者数	129 人（入所 120 人、短期入所 9 人）	31 人（介護保険 28 人、介護予防 3 人）
単価	14,380 円	12,000 円
サービス活動収益：	795,000 千円	職員数： 91 人（常勤換算）

総合病院 聖隷浜松病院

2018年度は退院支援を推進したことにより在院日数の短縮が進み、断らない医療提供体制は強化されてきた。高度専門医療の推進では、婦人科のダヴィンチ手術（ロボット支援腹腔鏡下腔式子宮全摘術）開始や IMPELLA（インペラ）導入など、高難度手術・治療にも力を入れ一定の成果をあげてきた。これらにより入院単価は大きく上昇した。また、災害拠点病院の指定により、DMAT を発足し災害時医療体制の充実に向けた整備を行うとともに、JCI 認証審査受審による第三者評価を受け、質の高い安全な医療を提供することに取り組んできた。

2019年度は病床稼働の偏在解消と稼働率向上に向け、効率的なベッドコントロールに取り組み、さらに新規患者の増加を目指し、地域・広域からの患者確保のための広報活動を強化する。10月からの土曜外来休診に向け外来枠の検討などの整備を行い、現状の外来診療機能を維持しつつ、医師を始めとした労働環境の改善を図り負担軽減を目指す。また、増税対策と費用コントロールにより安定した財務、働き方改革を視野に入れて、医師のタスクシフティングや業務改善の推進に取り組み、更なる効率化を目指す。『調和』を合い言葉に職員のチームワーク力を強化し、教育体制の充実とやりがい支援に力を入れる。

【病院使命】

“人々の快適な暮らしに貢献するために最適な医療を提供します”

【病院理念】

“私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ”

【運営方針 2020】

私達は常に信頼される病院であり続けます

■望まれる良質な医療を提供します ■地域とのつながりを大切にします

■良い医療人を育てます ■働きやすい環境を作ります ■健全な経営を継続します

【事業・運営計画】

「利用者価値」の視点（患者・職員の満足のために）

1. 利用者満足の向上

(ア) 病院の利用しやすさ向上	①駐車場待ち状況	20台以下
	②新入院患者数	1,790名以上/月
	③外来患者数	1,570名以上/月

「価値提供行動」の視点（病院機能・質の向上のために）

2. 地域に必要とされる高度・急性期医療の充実

(ア) 断らない医療の提供	①救急車受入れ制限時間	70時間以下/月
	②紹介患者断り率	3%以下
(イ) 効率的なベッドコントロール	①病床稼働率	91.5%以上
	②病棟別稼働率の差異（7:1病棟）	20%以下
(ウ) 入退院支援の充実	①入院前支援患者数	125件以上/月

(エ) 地域連携の強化	①紹介患者数	全体 1,950 件以上/月 中東遠地区 235 人以上/月
(オ) 災害対策	①防災研修 (e-ラーニング) への参加率	70%以上
(カ) がん診療の充実	①新規がん患者数	125 件以上/月
(キ) 手術室の効率利用	①8:30~19:00 手術室稼働率	59.4%以上
	②曜日別手術室稼働率の差異	8.0%以下
(ク) DPC 特定病院群の維持	①DPCⅡ期退院患者比率	52.0%以上

3. 医療の質と安全の保証

(ア) 患者安全目標の遵守	①患者誤認発生率 事象レベル 2 以上	0.004%以下
	②麻薬・ハイアラート薬品関連の I/A 発生率	事象レベル 2 以上の誤薬発生率 -
	③手指衛生実施率	医師 35% 看護 72% 医技・事務 35%以上
	④転倒・転落による負傷発生率	事象レベル 2 以上 2.5%以下

4. 働き方の推進

(ア) 効率的業務の推進	①超勤時間合計	2018 年度比 2%削減
	②クリニカルパス適用率	52%以上

「成長と学習」の視点 (人材確保・成長のために)

5. 明日を担う人材育成

(ア) 職員のやりがい支援	①目標参画面接実施率	看護部 100% 医技・事務 75%以上
	②パワハラ・セクハラの e-ラーニング受講率	75%以上
	③職員満足度調査	この病院で働くことにしてよかったと思う 64%以上 職場の人間関係に満足している 63%以上
(イ) 教育体制の充実	①学習会評価実施率	60%以上

「財務」の視点 (経営・運営の安定のために)

6. 目指す医療ができる安定した財務

(ア) 年度予算の達成	①収益 (サービス活動収益)	31,618 百万円以上
	②費用 (サービス活動費用)	30,734 百万円以下
	③利益 (経常増減差額)	1,000 百万円以上

【数値指標】

サービス活動収益	31,618 百万円		職員数	2,064 名	
入院単価	86,100 円	入院患者数	685 名	病床利用率	91.5%
外来単価	19,500 円	外来患者数	1,525 名	平均在院日数	10.6 日
地域医療支援病院紹介率	65.0%		逆紹介率		70.0%

【地域における公益的な取組】

様々ながん患者への支援活動

2018年度は幅広い世代に向けたがん患者への支援を実施した。就労・子育て世代・若年患者向け患者サロン（年4回）、ハローワーク相談（年12回）、社労士相談（年4回）を定期開催した。また就労支援では、患者・家族が治療と職業生活の両立ができるよう支援すべく両立支援コーディネーターの育成を図った。

2019年度はAYA世代サロンをさらに充実させる。就労支援においても市内がん拠点病院4施設との連携協力体制の充実を図るとともに、当院がイニシアチブをとって、行政・市民団体、企業等との連携を推進する。

聖隷淡路病院

2018年度は「飛躍の年」を掲げ、経営改善に加えて組織力の向上を目標に施策を取組んだ年であった。2016年度より続けてきた「目標進捗管理」の仕組みを“職場ごとの目標”に加えて、“職種、職場を超えたチームの目標”も設定し、職員一丸となって取組んできた。具体的にはリハビリテーション係と地域連携室がチームを組んだ脳卒中患者の受け入れや医師と看護部がチームを組んだボトックス注射や化学療法などが大きな成果を出した。

4月にはリハビリテーション科医師が赴任し、多くの嚥下機能評価や摂食訓練、手術後のリハビリテーション患者を受け入れることができた。これは高齢化が進む淡路地域において、当院の役割の拡大に繋がったと考える。また産科では6月に当院400人目の赤ちゃんも誕生した。

入外患者数は2017年度を上回り、これは院内の入退院調整の連携強化や兵庫県立淡路医療センター及び地域の診療所からの紹介件数増加、地域住民のニーズに即した救急・外来患者受け入れなどによる効果である。保健事業は、積極的な営業活動による協会けんぽ加入事業者契約の増加や内視鏡による消化器健診の件数増加など淡路島の予防医療に貢献が進んだと考える。

2019年度は変革の年と位置付けている。2014年度の新病院移転から5年が経過し、国立病院経営移譲20年を迎えた。経営改善も一歩ずつ進んでいる。次の5ヵ年に向けて病院ビジョン「継続、共生、団結～地域の人々のために～」を掲げて地域に出て行き、必要とされるサービスを担っていききたい。そのためには今まで培ったチーム力に更なる磨きをかけて、継続的に病院全体の変革と、質の向上に努めていきたい。

【施設理念】

『聖隷精神（隣人愛）を継承し、地域に根ざした医療・福祉に貢献する』

【経営方針】

1. 保健・医療・福祉の連携により地域のニーズに対応し、住民の健康と生命を守る
2. 職員の資質と組織力の向上に努め、安全で質の高い医療サービスを提供する
3. 地域と共に共存・共栄する為の運営を推進する
4. 継続的に運営し続ける健全な経営基盤を確立する
5. 自然環境、防災対策に配慮した運営を進める

【事業・運営計画】

1. 病院機能の強化
 - (ア) 一般病床・地域包括ケア病床の安定稼働に向けた取り組みを継続的に実行する
 - (イ) 在宅医療や人事交流など淡路地区聖隷施設と連携し、淡路島完結型医療を推進する
 - (ウ) 地域に出ていき、近隣開業医・病院・福祉施設と継続的に連携をする
 - (エ) 医局・医師個人のネットワーク・紹介会社等、あらゆる手立てを活用し医師招聘を行う
 - (オ) 医療機関・施設・住民別に顔の見える広報活動を行い、当院のブランド力の定着を図る
 - (カ) 地域住民（企業）の健康診断受診率を高め、保健事業の質的充実を図る

2. 質の高いチーム医療の推進と人材の確保と育成

(ア) チーム医療の推進と安心・安全な医療の提供

- ①各職種の専門性向上と診療部との連携により質の高いチーム医療を実践、評価する
- ②緊急手術に備えた体制整備と医療安全の管理体制、感染管理を実践する
- ③法人本部及び関西地区関連施設との連携を図り防災対策を強化する

(イ) 人材育成の推進

- ①事業団・病院理念の教育を推進しつつ、淡路に根付いた聖隷人を育成する
- ②役職者がお互いにマネジメント能力を向上させ、職員一人ひとりの成長を支援する

(ウ) 地域の医療人材の育成と地域雇用の推進

- ①実習病院の役割を担い、地域の医療人材の育成を積極的に行う
- ②魅力ある病院作りを行い、地域雇用の推進に努める

3. 利用者及び職員の満足度向上

(ア) 利用者からの意見を積極的に収集し、改善活動に取り組む

(イ) 職員が働きやすい労働環境を整備する

4. コンプライアンス経営とエコロジーの取り組み

(ア) コンプライアンス経営を実践し、健全な病院運営を行う

(イ) 省エネルギー、資源循環、社会貢献活動に積極的に取り組む

5. 健全な経営基盤の確立

(ア) 人財、物品、情報、時間管理等を実施し効率的な費用の削減に取り組む

(イ) 平均入院患者数 133 人/日、平均外来患者数 132 人/日達成に向けて取り組む

(ウ) 職員一人ひとりが仕事を通して経営参画意識を高め、経営改善に取り組む

6. 地域における公益的な取組

(ア) せいれい健康フェスタと市民公開講座の継続開催

(イ) 地域広報誌による健康啓発活動の継続実施

【数値指標】

サービス活動収益	2,043 百万円		職 員 数	194 名	
入 院 患 者 数	133 人/日	入 院 単 価	30,000 円	病 床 利 用 率	87.5%
外 来 患 者 数	132 人/日	外 来 単 価	9,500 円	平 均 在 院 日 数	20 日
紹 介 率	23%		無 料 又 は 低 額 診 療 事 業 割 合	15%	

《無料又は低額診療事業》

無料又は低額診療事業を行う施設の使命感を持ち、生活困難者の受入を継続する

聖隷横浜病院

7月に新外来棟が竣工を迎え、安全で良質な医療の提供を継続的にできる機能が整備される。2019年度は将来構想4本柱の集大成の年と位置付け、新外来棟の稼働をスムーズにスタートさせるため、職員一丸となって準備を進める。また充実した機能を有効活用し、地域及び利用者のニーズに応えるため医療提供体制の充実、増床計画の実行に向けた準備に力を入れ取り組んでいく。

【病院理念】

私たちは、隣人愛の精神のもと、安全で良質な医療を提供し、地域に貢献し続けます

【運営方針】

1. 急性期医療を中心に安全で良質な医療を効率的に提供します
2. 地域包括ケアシステムを推進し、高度急性期から在宅医療まで連続した医療を提供します
3. 病院理念を実践する人材を確保し、育成します
4. 職員が働きやすく、全ての利用者にとって最適な環境づくりをします
5. 職員一人ひとりが参画し、限られた資源を最大限に活用した健全な経営を目指します

【事業・運営計画】

<将来構想4本柱>

1. 救急診療体制の強化
 - (ア) “断らない”救急体制の維持
 - ①救急車搬入目標件数：年間5,400件、要請に対する受入率：90%
 - ②救急診療から適正な入院診療への移行：救急車からの入院率：40%
 - ③時間外救急診療体制の強化（担当医間の内部連携再編）
 - (イ) 脳血管疾患の受入体制強化（SCU増床（6床から9床））による脳卒中救急体制の強化
2. 高齢者医療の充実
 - (ア) 高齢者救急需要に柔軟に対応できるケア体制の充実
 - (イ) 認知症高齢患者に急性期医療を提供する診療支援体制の充実
 - (ウ) 敷地内開設の居宅介護支援事業所との連携を充実し機能強化型訪問看護の維持
 - (エ) 訪問看護事業と連携し、在宅医療への移行を推進
 - (オ) ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の積極的な推進
3. 将来を見据えた診療体制の再編
 - (ア) 救急総合診療センターの設置
 - (イ) 診療機能の充実により手術件数1,600件を実施（手術室実績）
 - (ウ) 回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟の開設に向けた増床整備
4. 地域連携部門の強化
 - (ア) 「地域連携・患者支援センター」の機能強化により前方・後方連携推進
 - ①診療所からの紹介件数：月間800件
 - ②後方連携を拡充し、回復期・慢性期施設への適切な時期に速やかな転院を実施

③患者支援センターの体制強化による入退院支援の充実

(イ) 戦略的な営業・広報活動を通し、新規患者の獲得、紹介医療機関の拡大

①新外来棟大ホールを活用し、地域に開かれた講演会、勉強会、院内学会の実施

(ウ) 地域の医療・介護・高齢者施設・在宅事業者との個別連携の推進

①サポートドクター登録医療機関からの紹介実績を検証し連携強化を推進

(エ) 関東地区の聖隷施設との多様な連携活動により「聖隷」の認知度を向上

<医療の質向上>

1. 組織的な質改善活動を継続し、医療安全の向上と院内感染対策の強化
2. BCP（事業継続計画）に基づく訓練実施と災害対策の確立
3. 祝日診療の実施による医療継続性の充実
4. 接遇の基本に立ち返り、利用者満足度を向上

<人材確保・育成>

1. 増床計画を見据えた人材の確保
2. 課題や問題点を見出し、自発的に取り組み、解決に導く職員の育成と評価
3. 職員のメンタルヘルス、健康管理の充実を図り、健康経営を推進

<環境整備>

1. 新外来棟への安全な引っ越しと有効活用
2. 既存外来棟の利用計画推進
3. “働き方改革”の推進と労働生産性の向上
4. 電子カルテシステム・各部門システムを活かし業務効率の改善と質の向上
5. 院内セキュリティシステム導入による安全な療養環境の整備
6. 継続的な省エネルギー活動の実施

<経営改善>

1. 新外来棟の投資資源を最大限活用し収益確保
2. 人員配置に見合った収益確保（人件費率 56%）
3. 消費税増税に伴う診療報酬・介護報酬改定への対応
4. DPC 入院区間を適正管理し、病床稼働率の安定化
5. 訪問看護におけるリハビリテーションサービスの充実により在宅医療の拡充

<地域における公益的な取り組み>

1. 生活困窮者の支援を行い、社会福祉法人としての使命を追求
2. 無料低額診療事業の基準 10%以上を維持

【数値指標】

サービス活動収益	9,075,000 千円	職員数	641 名
外来患者数	625 名	外来単価	14,600 円
入院患者数	285 名	入院単価	57,700 円
訪問看護介護保険単価	10,200 円	訪問看護介護保険訪問数	8,590 件
訪問看護医療保険単価	12,000 円	訪問看護医療保険訪問数	2,635 件
		救急車受入台数	5,400 台
		病床実稼働率	95%

聖隷佐倉市民病院

2018年度は、電子カルテ導入により医療安全の向上・情報共有の迅速化・業務の効率化を図ることができた。2019年度は、第4期工事完成後の病床再編成と増床・手術室の機能強化などにより、医療の質・利用者サービスの向上を図るとともに、経営の安定化に取り組んでいく。

【施設理念】

キリスト教精神に基づく『隣人愛』に立ち、患者本位のより良質な医療を求めて最善を尽くします

【経営方針】

1. 隣人愛の精神の継承と実践
2. 安全かつ迅速で適切な医療・看護の提供
3. 地域医療との連携、地域住民参画の医療
4. 創造的な変革を通し、効率的で安定した健全経営
5. 働きがいのある職場づくり

【事業・運営計画】

1. Next Stage に向けた安心・安全で質の高いサービスの実践
 - (ア) 利用者を選ばず、利用者から選ばれる病院づくりの追求
 - ① 病院コンシェルジュ機能の構築（来院時から始まるトータルサービスの提供）
 - ② 患者支援センターの運用確立（安心して入院できるサービスの提供）
 - ③ 断らない救急を目指すための迅速な受入体制の整備（オーバーナイトベッド・短時間で受入れられる仕組みの構築）
 - (イ) 職員間のコミュニケーションから実現する安心・安全な医療の提供
 - ① 職員間や部門間でのコミュニケーションをとりやすい仕組み作り・風通しのよい組織風土の醸成
 - ② インシデント報告の推進とアクシデントの未然防止
 - ③ ハラスメントをしない・させない・見逃さない職場づくり（他者尊重とハラスメント教育）
 - (ウ) 医療人としての質を高め、職員自身が Next Stage に立つ
 - ① コンプライアンスや医療人としての職業倫理を理解し、実践出来る人材育成の強化
 - ② 埋もれているオンリーワンの種の発掘（職員による企画提案制度の構築）
 - ③ 褒める組織風土の醸成（職員間で「感謝」や「褒める」を送り合う仕組みづくり）
 - ④ 職員モチベーション向上のための適正な評価法の検討
 - (エ) 事業部間の連携強化による新規事業の検討
 - ① 佐倉地域における高齢者公益事業部との連携事業の検討
2. 利用者のニーズに応えた病院機能の変革
 - (ア) 地域における自院の役割の明確化
 - ① 新病棟・増築手術棟の安定稼働と将来を見据えた病床活用の推進

- ② 健診から病院への連携を活かし、健康寿命延伸に向けた更なる予防医療事業の推進
 - ③ 緩和ケア病棟の受入れ体制の強化
 - ④ 院内における情報共有と連携により、利用者が安心して治療を受けることが出来るシステムの構築
- (イ) 利用者には選ばれる医療者接遇の向上
- ① 利用者の立場に立った受付機能の確立と質の向上
 - ② 利用者の笑顔につながるサービスを実践出来る職員の育成
 - ③ 院内連携体制の強化による患者サービスの向上
- (ウ) 高齢者が安心して療養できる病院づくり
- ① 退院に向けた院内連携の強化と地域内事業所との交流促進
 - ② 行政・他法人サービスの地域資源を活用した地域包括ケアシステムの推進
- (エ) SAKURA ブランドの情報発信
- ① 専門性が高いスタッフによる医療の提供と資格を活用した情報提供
 - ② 利用者獲得に向けた積極的な普及活動（営業強化、SNS での情報発信）
- ### 3. 多職種協働と専門性の強化
- (ア) 各センター機能の強化と評価
- ① 目標の可視化と取り組み内容の振り返りによるセンター機能の強化
 - ② 診療科・部門の枠を超えた疾患別センター機能（消化器センターなど）の検討
 - ③ 資格を活かした新しい機能・体制の開発
- (イ) 多職種間の連携強化
- ① 健診・外来・入院・在宅への流れの中での利用者情報の正確な把握
 - ② 専門性を持った職員のスキルを医療の質向上につなげる連携の促進
 - ③ 電子カルテ機能を最大限に活かした情報共有
 - ④ 相互評価・多面評価が出来る仕組みづくり
- (ウ) 次世代リーダーの育成
- ① 係長会（課長補佐含む）に診療部（医長）の参加を呼びかけ、次世代の横の結びつきを広める
 - ② 企画提案が出来る役職者の評価と積極的な人事異動による経験豊かなスタッフの育成
- (エ) 業務支援体制の拡充
- ① 医師・メディカルスタッフ・事務の専門性が発揮できる診療支援体制の構築
 - ② 日本語が話せない患者への対応にあたる職員の負担軽減につながる仕組みづくり
- ### 4. 医療を志す人がここで働きたい、働き続けたいと思える病院づくり
- (ア) 部門を超えた協力体制の強化
- ① チーム医療を提供できる職場間の業務カンファレンスの実施
 - ② 多職種が協力した研究や学術発表を支援する体制づくり
- (イ) 職員確保体制の強化
- ① 成果の見える指標の提示（自分たちの仕事の成果の可視化）
 - ② 職員へのポジティブフィードバック（満足度調査、表彰制度など）の推進

- ③ 評価の高いパート職員が継続的に勤められる制度づくり
- ④ 資格取得などのスキルアップを目指す職員をサポート出来る環境づくり
- ⑤ 院内保育体制の整備（病児保育、延長保育など）
- (ウ) 健康経営の推進
 - ① 働き方改革への対応
 - ② 超過勤務の軽減
 - ③ 有給休暇取得率の向上
- 5. 成長可能な経営基盤への改革
 - (ア) 利用者確保・増収策
 - ① データを活用した経営戦略の実践
 - ② 地域と共生する病診・病病連携システムの構築
 - ③ 救急車搬送患者の受け入れ体制強化
 - ④ 高齢者・障がい者などの通院困難者が受診しやすい環境の整備
 - ⑤ 経営改善に成功している他施設を見習った戦略の検討
 - (イ) 経営意識の向上
 - ① 効果的な人員配置（非常勤・派遣・委託も含めた）への取り組み
 - ② システムの効果的活用と物品管理体制の強化
 - ③ エコロジー活動への積極的な参画
 - (ウ) 資産の有効活用
 - ① 新棟完成後に出来る空きスペースの有効活用
 - ② 外来枠・手術枠・検査枠の効果的運用の構築
 - ③ 患者ニーズ・収入効果に見合った院内整備
- 6. 地域における公益的な取組
 - (ア) 生活困窮者の自立促進に向けたケースワーカーによる相談支援
 - (イ) 地域住民の病気予防・健康寿命延伸につなげるための市民公開講座の実施
 - (ウ) 認知症の方やその家族を職員が支援できるための認知症サポーター養成

【数値指標】

サービス活動収益	10,834,400 千円	職員数	788.0 名	紹介率	60%
外来患者数	853 名	外来単価	14,240 円	逆紹介率	100%
入院患者数	305 名	入院単価	55,350 円	病床稼働率	95.0%
健診受診者	174 名	健診単価	18,080 円	平均在院日数	17.0 日
訪問看護年訪問件数	5,760 件	介護保険単価	8,200 円	医療保険単価	10,500 円

せいい訪問看護ステーション佐倉

2018年度は、地域包括支援センターや民生委員との情報交換の場を増やし、臼井・千代田地区内で必要とされている支援のニーズを掘り下げ、きめ細かなサービスの展開を図った。引き続き、地域包括ケアシステムに参画できるよう人材育成を図り、居宅介護支援事業所の開設も視野に活動していく。

保健事業部

2018年度の保健事業部は「利用者様が安心して選び続ける保健事業部」「職員一人ひとりがやりがいや誇りを持って働く保健事業部」を経営方針として運営を行ってきた。2018年9月30日、浜松市に上陸した台風24号の被害により、災害対策への取り組みの重要性を再認識することになった。

「利用者の目線に立った質の高いサービスの提供」では、第三期となった特定保健指導の初回面接について、各センターの特色を活かして、実施数を2017年度より大幅に増やすことができた。「経営基盤強化のための取り組み」では、午後枠の有効利用やオプション検査の追加等受診者増対策を進めることができた。「人材の育成と確保」では、職員を対象に労働衛生教育（健康診断に関する基礎講座等）を開始した。「連携の強化」については、全国健康保険協会と連携し、宿泊型保健指導の実施、健康保険組合との特定健康診査や保健指導の受診勧奨を実施した。

2019年10月に消費税率の改定があり、混乱のない税率変更対応が課題となる年である。このような中、引き続き企業が健康経営を展開できる仕組み作りや産業保健を推進し、顧客企業と共に新たな取り組みを推進していく。また、自治体や医療保険者とは、特定保健指導の継続率と改善率向上を推進する。

事業部内においては、組織の再編、業務の集約・効率化を進め、コストセンター（仮称）を稼働させる。また、新たな事業展開として対外的な教育研修事業を開始する。

この実現のためには、利用者には保健事業部（各センター）を選び続けてもらうこと、そして職員一人ひとりがやりがいや誇りを持って業務に取り組むことが大切であり、各自が、利用者の目線で、経営に参画している組織を目指し、以下計画に取り組んでいく。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【経営方針】

1. ご利用者様が安心して選び続ける保健事業部
2. 職員一人ひとりがやりがいや誇りを持って働く保健事業部

【事業・運営計画】

1. 利用者の目線に立った質の高いサービスの提供
 - (ア) 年間50万件を超える健診データと蓄積された膨大なデータを利用し、検証する
(先駆的な検査、新しい健診コース、臨床研究)
 - (イ) 予約の取りやすさ・待ち時間削減など、快適な受診環境を整える
 - (ウ) IAレポートの分析と再発防止、災害対策への取り組みを行なう
 - (エ) 長期的な健康活動を目指し、子供から高齢者まで年代に応じた健康診断や健康支援活動の検討と健康増進のための啓発活動の推進
 - (オ) 第三期特定健康診査・特定保健指導の振り返りと継続率・改善率の向上

2. 経営基盤強化のための取り組み
 - (ア) 業務の集約化と効率化を進め、先進的な組織改革を実施する
 - ①本部機能を組織し、コストセンター（仮称）を稼動する（費用等を中央管理）
 - ②医務部会、分科会等を定期的に開催する
 - ③保健事業部全体での、高額機器更新計画の立案
 - (イ) 企業等の健康経営を支援できる産業保健体制を積極的に展開する
 - (ウ) 宿泊型健康応援プログラムを定期的で開催する
3. 人材の育成・確保と働き方改革への対応
 - (ア) 医師等人材確保に向けて、事業部全体で積極的に、情報発信する
 - (イ) 自ら課題解決できる人材とマネジャーの育成に取り組む
 - (ウ) 保健事業部、各センターの強みを明確にし、職員一人ひとりに浸透させる
 - (エ) 事業部内で行っている教育プログラムや研修制度を顧客団体や健診機関へ提供する
4. 健康経営の実践と発信
 - (ア) 「健康経営」を実践し、他企業へ「健康経営」の仕組み作りを提案していく
 - (イ) 働きやすい職場環境の整備
5. データヘルス計画に向けて
 - (ア) 利用者個人に対し、健康情報発信 Web サービスの展開を強化、継続した健康管理サービスを展開するとともに、利用者増を図る
 - (イ) 医療保険者、自治体等と連携し、保健事業部保有データを積極的に活用し、必要とされる分析データを提供する
6. 連携の強化
 - (ア) 関連団体（企業・医療保険者）、関連行政（自治体）との連携を積極的に進める
 - (イ) 事業団・グループ内事業部、施設との連携を進める
 - ①県内全域における健診から再検査受入れ体制を整える
 - ②渉外活動の連携と地区担当の検討
 - (ウ) 他業種企業との共同事業の検討（社員食堂の監修・商品開発）
7. 社会福祉法人の使命として地域共生社会の実現
 - (ア) 健診施設へのアクセスが困難な地域での健診実施や送迎を行う
 - (イ) 地域に密着した健康イベントなどの開催

【数値指標】 職員数 766 名

1 日ドック	宿泊ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導
64,759 名	339 名	280 名	473,179 名	11,594 名
婦人科健診	特殊健診	外 来	合 計	サービス活動収益
87,437 名	46,351 名	40,628 名	724,567 名	8,348,290 千円

聖隷健康診断センター

2018年度は、人間ドックや健康診断の利用者を増やすだけでなく、自治体や医療保険者から受診率向上や重症化予防の要望に応えるべく、第三期となった特定保健指導にも注力した。その結果、利用者数は上半期で対2017年139.3%の2,837人と大幅に伸びた。浜松市については初の事業で、成果に応じ報酬が支払われる成果連動型の宿泊形式指導を行った。今後は、より利用者の生活習慣に寄り添い、プログラム終了後も効果が継続するよう支援を図っていく。人間ドックの追加検査（オプション検査）では、アルコール分解酵素遺伝子検査を新規導入し、男女を問わず、133人が利用した。今後も利用者ニーズにあった新規オプションの提供を企画開発していく。また、スムーズな検査の実施及び利用者サービスの向上を目的としてコンシェルジュを配置し、検査順路の組替えや工夫を行い待ち時間軽減を図った。各所で成果を得ることができているが、滞在時間は大幅に削減できず、今後も随時見直す必要がある。

精密検査未受診者への受診勧奨は今後も継続し、受診率の向上を目指す。地域連携系の活動を通じ開業医との連携を密にさせ、受診日当日の精密検査の予約等、新たな健康診断の事後支援を実現する。

2019年度は、働き方改革にあわせ、職員が心身の健康を保ち、自身に余裕をもって働くことを支援し、生産性や効率性を高められる環境づくりの整備を図る。職員の労働時間の適正化、ワークライフバランスを考慮した勤務体制の検討を行う。その一つの指標として「職員満足度の向上」に注目し、職員が「やりがい」を感じる職場風土づくりをする。

地域で選ばれ続ける健診施設として、接遇の強化はもちろんのこと、利用者と『相互に利益を感じられる』事業を今後も展開したい。質の高い利用者目線のサービスの提供、及び保健指導・栄養指導・運動指導の更なる強化と連携を図り、利用者が健康を実現できるよう最適な健康支援を行う。また、大学や高校と連携した企画や高齢者向けプログラムは継続させ、年代を問わず施設利用が可能な地域密着の活動も取り組む。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【経営方針】

1. ご利用者様が安心して選び続ける保健事業部
2. 職員一人ひとりがやりがいや誇りを持って働く保健事業部

【事業・運営計画】

1. 質の高いサービスの提供
 - (ア) ホスピタリティ向上を目指し、全ての利用者が安心して受診できる環境をつくる
 - (イ) 接遇力の強化や待ち時間の軽減等、CSを向上させる運用の構築
 - (ウ) 保健サービスの効果を可視化し、有効性を追求する
 - (エ) IAレポートを活用し、リスクマネジメントを強化する

2. 人材（人財）の確保と育成

- (ア) 適正人員の追求と不足人員の確保
- (イ) 職員満足度を向上させる職場風土づくり
- (ウ) 後継者育成の促進
- (エ) バランスド・スコアカード(BSC)を活用した組織目標達成への取り組み
- (オ) 労働衛生機関の職員として必要な資格取得を推進し、活躍の場を広げる

3. 経営基盤強化のための取り組み

- (ア) 利用者に対し継続的な健康管理体制を築くため、事業所への産業保健活動を推進する
- (イ) 新しい検査の情報収集と対応
- (ウ) 他職種企業との共同事業を含めた、利用者ニーズに沿った商品の検討
- (エ) ICT を活用した事業の展開

4. 健康経営への取り組み

- (ア) 働き方改革推進による労働時間の適正化
- (イ) 職員のワークライフバランスを考慮した勤務体制の検討
- (ウ) 職員スペースの環境整備を充実させ、働きやすい環境作りに取り組む

5. 連携強化

- (ア) 事業部内組織改定
- (イ) 地域共生社会への対応として、保健サービスを軸とした事業部内外における連携強化
- (ウ) 「GENKI」の有効利用の推進
- (エ) 災害対策への取り組み

【数値指標】

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
27,306 名	280 名	50,920 名	4,942 名	23,407 名
特殊健診	外 来	合 計	サービス活動収益	職員数
2,790 名	19,706 名	129,351 名	2,561,820 千円	213 名

聖隷予防検診センター

2018年度は、事業の「選択と集中」をコンセプトに、「ニーズの高い事業への注力化」「利用者の要望に合わせたサービス・アメニティの強化」「職員満足度の向上（CS向上はESから）」を重点目標に事業を行った。「ニーズの高い事業への注力化」については、一日人間ドックを中心に婦人科検診・特定保健指導等に注力、2017年度を上回る実績を上げることができた。特に特定保健指導については健康診断当日の初回面談も開始、さらに多くの方に提供することができている。「利用者の要望に合わせたサービス・アメニティの強化」についても、利用者の声に真摯に向き合い、レディスフロア改修やドック食の見直し等を行った。レディスフロアはトモシンセンス導入と老朽化したエリアを一新したことにより、女性の方がさらに利用しやすい施設となった。ドック食についても7月に委託先の見直し・変更を行い、今まで以上に高い評価を得ている。このように事業は好調であったが、「職員満足度の向上」の視点では、ストレスチェック結果は改善したものの業務環境を大幅に改善できたとは言えず、引き続き課題となっている。

周辺地域の高齢化が進む中、私たちが健康寿命の延伸に寄与するためには、私たちの力を地域の力に変えていく取り組みが必要である。そのために2019年度も引き続き「選択と集中」をコンセプトとして、地域・企業健診センターや事業部、事業団内の施設等との連携による「プラスの融合」、そして「正しいことを正しく行う（精度管理・コンプライアンス遵守・職員の頑張りを評価）」を重点目標として、「利用者も職員も『また来たくなる』予検センター」を目指す。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【事業・運営計画】

1. 全ての職員がいきいきと働くことができる職場づくりの実践（健「幸」経営）

- (ア) 業務負荷軽減と効率化による生産性向上
- (イ) 職員満足度（ES）調査の実施および顕在化した課題への対応
- (ウ) ストレスチェックの組織集団分析に基づく事後措置の実施
- (エ) 職場環境の改善によるESおよび職員定着率の向上
- (オ) 定期健康診断後の再検査受診率100%

2. 良質な予防医療を永続的に提供するための安定した経営基盤の確立

- (ア) 事業・運営計画に合わせた適正な職員数の配置
- (イ) 地域・企業健診センターとのプラスの融合
- (ウ) 原価計算に基づく利用者ニーズにあった充実したサービスの提供
 - ① 一日人間ドックを中心とした新規顧客獲得
 - ② 初回利用者及び若年層をターゲットとしたリピート率向上策の実施
 - ③ 保健関連データを活かした新たな人間ドックプラン・オプション項目の検討
- (エ) 宿泊ドックに変わる新たなメニューの開発

- (オ) 職員一人ひとりの経営参画意識の醸成
- (カ) 経営指標、臨床指標等の実績の可視化と検証
- (キ) 効率的な保健事業部内の業務応援体制の構築
- (ク) 消費税増税による影響の精査と対応

3. 利用者目線に立った質の高いサービスの提供

(ア) 利用者満足度の向上（ワンランク上の「おもてなし」を目指して）

① 利用者の滞在時間短縮

スピードドックとリアルタイムドックの共存へ向けたトライアル実施

- ② 人間ドック・健康診断の予約を取りやすい環境整備
- ③ レディースフロアの有効活用と女性利用者満足度の向上
- ④ 利用者満足度向上につながる CS アンケートの実施と顕在化した課題への対応
- ⑤ 利用者目線に立ち課題を抽出しアメニティの充実を図る

(イ) 利用者、企業、行政等、全てのステークホルダーの課題を解決

- ① 契約先に対する法令遵守（法定健診項目の遵守）の案内と推進
- ② がん検診、特定健診未受診者の開拓
- ③ 生活習慣病の発症予防と重症化予防のための対策を拡充
- ④ 地域連携機能の構築と強化
- ⑤ 聖隷施設（他事業部・事業部内）との有機的連携

病院・高齢者施設等の利用者情報を活用した「医保」「介保」連携の推進

※「医保」…「医⇨病院」、「保＝保健事業部」 「介保」…「介⇨高齢者施設」、「保＝保健事業部」

4. 次世代を担う人財の育成

- (ア) ボトムアップの仕組みづくりと次世代の管理職の輩出
- (イ) 適正なフィードバックと評価による効果的な OJT の実践
- (ウ) 新規提案、改善プロジェクトの成功による人材の育成
- (エ) スタッフの習熟度「がんばり」の見える化

5. 地域における公益的な活動

(ア) 地域の児童・生徒が授業等で製作した作品等を展示する「けんこうギャラリー」の実施

【数値指標】

1日ドック	宿泊ドック	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
20,541名	339名	30,809名	3,350名	16,160名
特殊健診	外来	合計	サービス活動収益	職員数
1,891名	10,938名	84,028名	3,940,670千円	154名

聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*

聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*は、『経営基盤の強化』『質の向上』を重点課題とし運営を行ってきた。まず、取り組んだ課題は、利用者の入口となる予約体制の見直しである。過去のキャンセル状況を分析し、効率的にドックの稼動を高められる枠の調整を行った。その結果、利用者は2017年度比2.5人/日の増加となり、経営基盤に大きく寄与する事ができた。しかし、受け入れ人数をオーバーする日も生じており、予約精度を上げつつ稼動を高めていくことが今後の課題となった。併せて巡回健診の受診者増、特定保健指導への積極的な取り組みも経営改善に繋がった。

利用者ニーズに合ったサービスを追求すべく、人間ドック食の見直しを図り差別化できる体制を整え、顧客満足度(CS)の向上に前進した。しかし、業務拡大を実施した結果、職員への負荷が増す事となった。今後は、健康経営の実現に向け適切な業務環境を構築し職員満足度(ES)の向上にも強化していきたいと考える。

2019年度、聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*は2010年設立後、10年目の節目を迎える。選ばれ続ける総合保健施設として、静岡地区で根付き、最高の質の医療サービスを提供できるように“職員一人ひとりが自ら気づき考え行動する自立した組織構築”を目指していく。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【事業・運営計画】

1. 質の向上と情報発信力の強化

(ア) 利用者ニーズに合ったサービスの提供

- ①顧客満足度調査の実施継続と問題解決
- ②上部消化管内視鏡検査における受診者枠の調整
- ③午後ドック導入の検討
- ④先駆的な新規オプションの導入
- ⑤Webサービスの積極的な運用
- ⑥IAレポートの分析の徹底ならびに迅速な改善
- ⑦年齢層(定年退職者など)のニーズに応える仕組み作り

(イ) 質を維持するための設備投資

- ①計画的な医療機器設備更新
- ②立地条件を強みとする聖隷静岡健診クリニックへの定期的な設備投資

(ウ) ストレスチェックの検証・フォローまで含めた包括的なサービスの提案・提供を行う

(エ) 地域企業等依頼の講演会・取材への積極的な協力体制の構築

2. 経営基盤強化と新たなサービスの創造

(ア) 巡回健診を充実させるための営業活動とサービスを実施

- ①被扶養者向けファミリー健診の拡充と広域事業展開
- ②企業向け当日特定保健指導への対応など利用者の要望に応える体制整備
- ③労働安全衛生法の検査項目を省略している企業に対する、コンプライアンス遵守の案内
- (イ) より多くの利用者を受け入れるためのサービスの向上
 - ①予約体制の調整
 - ②リアルタイムドックの効率性の追求
 - ③精密検査受診率向上のための対策の実施
 - ④利用者閑散期ドック受診への誘導

3. 人材育成・確保

- (ア) 次世代を担うリーダーとなり得る人材の育成
- (イ) 専門職としてのスキル向上にむけた学会発表・認定取得への支援体制
- (ウ) 職員確保体制の強化

4. 健康経営の実現

- (ア) 職員一人ひとりが働きやすく、魅力を感じる施設づくりを目指す
- (イ) 職員満足度調査の分析並びに職員定着率の向上
- (ウ) 職員超過勤務時間の削減
- (エ) 衛生委員会を中心に、職員の健康意識を向上する
 - ①職員ドックにおける結果説明受診率 100%とする
 - ②職場別ストレスチェック分析、並びに職場環境改善の提案・実施

5. 連携の可視化

- (ア) 静岡県立大学・厚生労働省等への研究協力を継続し、地域公益活動の実績を作る
- (イ) 医師会・浜松医科大学・地元総合病院・行政との連携強化

6. 地域における公益的な取組

- (ア) 自治会の地域のイベントに継続して参加し、地域との繋がりをより密にする
- (イ) 過疎地域における健康診断の実施継続

【数値指標】 聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*

1日ドック	一般健診	特定保健指導	婦人科健診	特殊健診
16,912名	86,750名	3,092名	16,370名	3,910名
外来	合計		サービス活動収益	職員数
9,984名	137,018名		1,834,000千円	162名

医療事業収益内訳	聖隷健康サポートセンター <i>Shizuoka</i>	1,193,602千円
	巡回健診事業	306,324千円
	聖隷静岡健診クリニック	283,194千円

地域・企業健診センター

2018年度は「第3期特定健診特定保健指導への対応」「法令順守による一般健康診断省略検査項目への対応」「島田市がん検診等事業の継続受託」の3点を重点目標に事業を行った。

第3期特定健診特定保健指導への対応については、医療保険者との契約のもと、巡回健診時に当日特保と受診された全ての方に簡易な保健指導（ミニ保健指導）を実施した。医療保険者の課題である、生活習慣病に起因する重症化予防を目的としたこの取り組みは反響も大きく、予防医療の専門誌『へるすあっぷ21』でも特集として取り上げられた。

一般健康診断省略検査項目への対応については、渉外部門等の的確な営業活動が功を奏し、多くの事業所に対して法令に基づいた健康診断の提案・実施を行うことができた。

島田市がん検診等事業の継続受託については、プロポーザルに対し職員が職種を超えて力を合わせ対応、無事、継続受託することができた。このように、目標に向けて職員が一丸となって速やかに協力・連携体制をとることができることは、地域・企業健診センターの大きな強みであると考えている。また、12月に副所長として丹羽医師が赴任、今まで以上に肺がん検診の品質向上とフォローアップ体制の強化が可能となった。

2019年度については、既に複数の市町や大手企業から新規契約の要望を頂くとともに、国の「風しんに関する追加的対策」により抗体検査等の追加も予定されるなど、さらに利用者拡大が見込まれている。「CSの向上はESの向上から」を念頭に、職員の適正配置も行いながら品質の維持・向上を図っていきたい。

健診事業の品質については、医療保険者はじめ、利用者からの要望が年々上がっていると感じる。これは聖隷に対する期待の現れであると捉え、求められる要望を超える満足を提供できるよう、そして「正しいことを正しく行う」「職員もまた来たくなる職場」運営を目指していきたい。

【事業・運営計画】

1. 利用者様の目線に立った質の高いサービスの提供

(ア) 顧客ニーズに合わせた情報共有の仕組みづくり

健康診断の実施について適正評価する仕組みを構築し、PDCAを推進

(イ) 県内事業所におけるデータ一元管理の推進

(ウ) がん発見率等の検査精度の見える化と渉外活動の連携強化

(エ) 新規事業所に対する評価の実施

(オ) IAレポートの情報共有とISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）の継続的な推進

2. 経営基盤安定のための取り組み

(ア) 戦略的事業拡大「選択と集中」

①地域ニーズに応えるため、効率性を追求し、事業拡大を図る

健康診断コース実施について適正評価する仕組みを構築

②旧金谷庁舎跡地利活用事業への参画

- ③行政が推進する事業への積極的関与
 - 風疹対策の推進
 - ④全国健康保険協会と連携した未受診者対策の推進
 - ⑤被扶養者健診・ファミリー健診の拡大
- (イ) 事業・運営計画に合わせた適正な職員数の配置
- (ウ) 聖隷予防検診センターとのプラスの融合
 - ①施設間医師の連携強化による巡回健診医師派遣費用の適正化
 - ②効率的な事業部内の業務応援体制の構築
 - 車輛、検査機器・機材、ヒトの一元管理体制構築と相互支援の強化
 - ③未受診者、風疹予防接種対象者等の施設内への誘導
 - ④特定保健指導の当日実施及びミニ保健指導の拡充
- (エ) 労働安全衛生法に係る一般健康診断省略検査項目への対応
 - 生化学検査、血液検査、心電図検査等に係る法令順守の更なる推進
- (オ) 事業所ニーズに合わせた産業保健活動の推進

3. 人材の育成と確保

- (ア) 営業ツールの活用・評価
- (イ) 職員の継続的なモチベーションアップの支援
- (ウ) 施設内研修を開催して地域・産業保健活動の実践報告、渉外能力の向上を図る
- (エ) 他健診機関、他団体との情報交流による意識改革の推進

4. 健康経営の実践と発信

- (ア) 働き方改革の推進
- (イ) 職場環境改善のための外部移転の検討
- (ウ) 衛生委員会を活性化し、健康イベント等を積極的に開催
- (エ) 働きやすい職場作りの実践・充実

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 各地域の健康フェスティバル等への参画
- (イ) 静岡県健康福祉部、商工会議所等と連携した健康経営支援活動の推進

【数値指標】

一般健診	婦人科健診	特殊健診	合計	保健予防活動収益	職員数
304,700名	31,500名	37,760名	374,170名	2,330,320千円	175名

浜松市リハビリテーション病院

2019年度は、浜松市からの指定管理受託12年目、新たな5年契約の始まりとなる。

これまで当院は生活支援、生活の最前線の医療を展開し成果を上げてきた。近年リハビリテーション医学は、再生医療の進歩などと共にニューロリハビリテーションの視点が重要視され、急激な変化が訪れている。従来の労働集約型訓練だけでなく、効率的かつ効果的な治療法の導入・開発が急務となっている。職員一丸となり、『最新リハビリテーションの追求』をキーワードに、新たな時代の幕開けに相応しいリハビリテーション医療を展開していきたい。

【病院理念】

私達は、地域に根ざし、利用してくださる方々の尊厳と生活の質を尊重した、患者中心主義に基づく医療を提供します

【運営方針】

1. 多職種共働による、安全で科学的な根拠に基づく質の高い医療を提供する
2. 患者・家族のニーズに即し、個別性を重視した関わりを大切にする
3. 地域包括ケアを念頭に置き、幅広い連携体制を構築する
4. 健全な経営基盤を確立する
5. 職員の資質・技能向上に努め、人材確保とその育成に努力する

【回復期リハの基本姿勢】

地域と連携し“その人らしい”社会参加に向けて、個人の病態や生活環境に配慮したリハビリテーション支援を行う

【2019年度事業目標・年度重点施策】

1. 安全で質の高い医療の提供
 - (ア) リハビリテーション医療の質向上
 - ①多職種協働によるFIM利得の向上
 - ②在宅復帰支援の充実
 - ③倫理観を持った医療の展開
 - ④最先端リハビリテーション機器の導入検討
 - (イ) 医療安全管理・感染制御体制の確立
 - ①医療安全の確立
 - ②効果的な感染制御
2. 地域共生社会の実現に向けた、求められるサービスの充実
 - (ア) 特色ある医療提供体制の充実
 - ①えんげと声のセンター：進歩、普及、啓発

- ②スポーツ医学センターの充実
- ③高次脳機能センター：質の向上と拡充
- ④脊髄損傷医療提供体制充実のための検討
- (イ) 地域へ繋ぐサービスの提供
 - ①通所リハビリテーションの開設
 - ②訪問リハビリテーションの拡充
 - ③共通ツールを用いた地域連携の活性化
- 3. 人材の育成と労働環境の整備
 - (ア) 必要な人材の確保と定着
 - ①看護補助者の採用
 - ②専攻医・専門医の採用
 - (イ) 多様な人材の活躍
 - ①障がい者雇用の創出
 - (ウ) 働きがいのある職場作り
 - ①キャリア支援の充実
 - (エ) 安心して働ける職場作り
 - ①長時間労働の削減
 - ②職員を守る組織・職場環境の提供
- 4. 安定した経営基盤の確立
 - (ア) 年度予算の達成
 - ①病床利用率・リハビリ提供単位数の達成
 - (イ) 医療・介護・福祉施設間連携の強化
 - ①連携施設との情報共有
- 5. 地域における公益的な取組み
 - (ア) 地域包括ケアシステムの主導
 - ①地域住民への介護予防指導教室の実施
 - ②いきいきトレーナー養成事業の継続
 - ③広域支援センターとしての啓発活動
 - (イ) 地域との災害対策・防災教育の強化
 - ①被災想定に即した防災訓練の実施

【数値指標】

サービス活動収益	3,409 百万円		常勤職員数	384 名	
入院単価	37,687 円	入院患者数	213 人／日	病床利用率	94.7%
外来単価	7,088 円	外来患者数	196 人／日		

聖隷袋井市民病院

中東遠医療圏においても地域医療構想の推進に向け、病床機能の分化・連携や地域における今後の医療提供体制のあり方などについて検討を進めている。開設から6年経過し聖隷袋井市民病院は、急性期病院の退院患者の受け皿としての機能、在宅復帰における地域診療所との連携機能等、当院の立ち位置が明確になり、機能の充実を図ってきた。

開設7年目を迎える2019年度は、訪問リハビリテーション事業の開始と病院機能評価の受審や電子カルテ導入など、地域ニーズに即した医療の提供と効率的な運営を目指していく。

【施設理念】

『私たちは、患者と同じ視線を持ち、地域に信頼される病院を目指して歩み続けます』

【経営方針】

1. 地域ニーズに対応した安心・安全で質の高い医療サービスの提供
2. 急性期病院・地域診療所との懸け橋となる連携体制の構築
3. 在宅復帰や療養施設への入所を支援し、地域全体として切れ目のない医療の提供
4. 安定した経営基盤の確立
5. 働きがいのある職場づくりと人材育成

【事業・運営計画】

1. 地域ニーズに対応した質の高い医療サービスの提供
 - (ア) 高齢者人口の増加に伴う回復期・慢性期医療の充実
 - ①許可病床をフルに活用した効率的な病床運営
 - ②終末期医療・認知症ケアの質向上とチーム医療の推進
 - (イ) 安全で質の高い効率的な医療サービスの提供
 - ①医療事故防止と再発予防策の検討
 - ②感染管理体制の充実
 - ③電子カルテ導入と安定稼働
 - (ウ) 病院の質改善活動の推進
 - ①日本医療機能評価機構による病院機能評価の受審
 - ②利用者満足度向上への継続的な取り組み
 - (エ) リハビリテーション医療機能の充実
 - ①訪問リハビリテーションの開始と早期安定運営
 - ②早朝リハビリテーションの実績評価とADLの向上
 - ③回復期リハビリテーション病棟での重症患者の受入
2. 働きやすい職場環境と人材確保・育成
 - (ア) 医療需要の増加に対応する人材の確保
 - ①常勤医師の採用

- ②看護師、看護補助者等の定着
- (イ) 多様な人的資源の活用
 - ①病院ボランティアの活用
 - ②障害者雇用の推進
- (ウ) 専門職としての人材育成と質の向上
 - ①キャリア開発と教育体制の整備
 - ②指導者育成の推進
- (エ) 職員の働きやすい職場環境づくり
 - ①労働環境の整備
 - ②更なる業務効率化の検討

3. 地域包括ケアシステムの推進と連携体制の強化

- (ア) 地域完結型医療を目指した連携機能の充実
 - ①退院支援室による入退院支援・調整機能の充実
- (イ) 急性期病院及び地域の診療所、福祉施設との連携強化
 - ①地域連携パスの稼働率向上
 - ②共同利用件数増加に向けた画像診断装置の有効活用

4. 安定した経営基盤の確立

- (ア) 更なる経営改善の取り組み
 - ①病床稼働数の目標達成
 - ②新たな施設基準の取得
 - ③適正な在庫管理の導入
- (イ) 病院情報データベースの見える化と有効活用

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 袋井市総合健康センターとの共働と発展
 - ①認知症初期集中支援活動への看護師、リハビリ専門職、医療相談員等多職種チームの派遣
 - ②袋井市総合事業へのリハビリ専門職派遣

【数値指標】

サービス活動収益	1,535,000 千円	職員数	174 名
	患者数	単価	病床利用率
外来	64 人／日	6,300 円	-
入院	132 人／日	25,800 円	88%
再掲 (一般)	44 人／日	22,600 円	88%
(療養)	44 人／日	21,800 円	88%
(回復期)	44 人／日	33,000 円	88%

在宅・福祉サービス事業部

【中期事業計画における事業部理念】

地域への感謝と貢献

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【2019年事業計画事業部方針】

仕事を創る

近い未来を想像する、出来るかも知れないを実験する、出来ることを発見する

在宅・福祉サービス事業部は、高齢者福祉事業を主力に置きながらも、時代に先駆けて保育事業、障害者福祉事業の成長に力を注ぎ、新たな分野として発達障害や生活困窮者支援に取り組んできた。2019年度は、静岡県から指定管理を受けて障害者支援施設である静岡県立浜松学園の運営、都市型マンションの一階部分を購入して小規模保育所の運営、医療後の継続したリハビリテーションに特化したデイサービスセンターの開設、淡路市元庁舎を借り受けて通所と訪問事業の複合拠点の開設、全国初の取り組みとなる訪問看護ステーションと児童発達支援を併設したこども園の建設が始まる。これらの取り組みは地域共生、地域包括の理念に基づき、地域を軸に事業部組織をエリア毎に分けつつも事業の専門性を横断的に統括する統括所長を設け、タテヨコ、マトリックス組織にて地域で必要とされる福祉ニーズと対話を重ねて来た結果でもある。事業部組織の拡大は運営管理の視点からは、合理的に統一することが、リスク回避や管理のし易さの点において一般的な考え方である。しかし、組織における独自性や創造性を損なう危険性も考えて行かねばならない。福祉サービスは未だ成熟した段階にみならず、試行錯誤を繰り返しながらも、地域が求める福祉ニーズを見出し、挑戦していく事が求められるサービス分野である。これらの新たな視点を養うために、今まで取り組んできた職員の海外視察研修の取り組み、国を超えた外国人職員の受け入れ、施設や地区における福祉研究発表等を通してひたむきにあるべき地域福祉に貢献する姿勢を貫いて行きたい。

(新5ヶ年計画の策定に向けて)

福祉の仕事のステージが次の時代に向けて大きく舵を切り出そうとしている。

将来の視点は2025年から2040年の人口減少を想定した社会保障のカタチへと移った。仕事の構成員も専門職のキャリアアップを進めつつも、高齢者や外国人人材を活用した非専門職による労働力確保は全産業の共通の取り組みとして挙げられた。いわゆるIT化やAI活用は非専門職員を補完する上で大きく進められることになる。生産業と異なる意味においてロボット化が難しいと言われる介護業務は新たな労働力を確保した上で、新たな産業としての道を切り開こうとするものである。利用者の利益が損なわれることが無いようあらゆる職場と業務の流れについて見直しを行い、職員の専門性を伸ばしつつも非専門職員の活用を検討していく。健康寿命の延伸により高齢者の定義を70才まで元気に働ける存在として位置づけ、高齢者の労働に種々の施策が講じ

られようとしており、とりわけ働く場として介護の補助者と位置付けている点について事業団全体の議論を踏まえて活用の仕組みづくりを行っていききたい。

また経済のグローバル化が進む中で、通貨もフィンテックの推進によりあらゆる決済方法による合理化が進み、本人認証のシステムも技術革新されることが進められている。年間 400 億円にのぼる高齢者の金銭詐欺被害や年間 600 億円の休眠預金は、高齢者が扱う預金についての社会課題であり、福祉の現場においても利用者に金銭管理、財産管理は心を痛める事例を数多く経験している。事業部ではこれらの動きを学び、社会福祉法人後見人制度等、機会があれば先駆的に取り組みを行いたい。

また国が進めるペーパーレス化、購入等における非現金化（キャッシュレス化）にも具体的な取り組みを検討し、出来ることから実施していくものとする。

【2019 年重点目標】

1. 地域（エリア）別に福祉事業計画 2020 年～2025 年を策定する
2. 高齢者福祉計画、障害者福祉計画、子ども子育て支援計画等の行政計画に呼応する
3. 高齢者、障害者、外国人等が共に働ける場と機会を創る
4. 業務の段階的集約化を進め、ペーパーレス、キャッシュレス化に取り組む
5. 更なる業務の ICT 化、IOT 化に取り組み、利用者の利益を守り、働き方を変える

【2019 年主な事業】

1. 関東

- (ア) 東京海上日動ベターライフサービス(株)と協働して稲毛海岸共同住宅地に介護コンビニ（ローソン、居宅介護、訪問介護、訪問看護）を開設する
- (イ) 浦安市の要請に基づき、障害者支援施設建設の計画を検討し一応の結論を出す
- (ウ) 松戸愛光園の 4 床増床（入所 3 床、ショートステイ 1 床）
- (エ) 聖隷訪問看護ステーション油壺を閉鎖し横須賀に統合、逸見サテライトの統合も検討する

2. 静岡

- (ア) 静岡県指定管理者として静岡県立浜松学園の運営
 - ① 障害者の新たな就労訓練の場として ICT 教室によるデータ整理、コミュニケーション倉庫管理、シーツ交換等の介護補助のトレーニングを通して介護補助員を認証
- (イ) 聖隷デイサービスセンター住吉を和合愛光園に統合し、和合愛光園にリハビリ強化型デイサービス「聖隷トライサポート和合」を開設
- (ウ) 聖隷ケアプランセンター浜松を聖隷ケアセンター高丘に移転し、活動エリアを変更
- (エ) 放課後児童クラブはなえみ高丘を放課後児童クラブはなえみ和合へ統合
- (オ) 聖隷浜松病院ひばり保育園の増改築を行い、乳児定員増、聖隷浜松病院職員の学童保育の広域化に伴う受入拡大
- (カ) 常盤町高層マンション一階部に小規模保育所「聖隷のあ保育園」（定員 19 名）を開設

- (キ)磐田市南部地域包括支援センター、磐田市南部障害者相談支援センターの受託運営
- (ク)聖隷こども園わかば、ひかりの子、めぐみの一号認定定員設定
- (ケ)磐田市富丘に訪問看護ステーション、児童発達支援事業所併設のこども園(定員 129名)の建設着工
- (コ)聖隷厚生園信生 1 階を増築し、訪問看護ステーション細江、聖隷ヘルパーセンター初生を統合し、障害者の訪問看護介護の充実を目指し、賃借によるグループホームを開設

3. 宝塚

- (ア)デイサービス事業の再編を行い、第二地区における山本デイサービスセンターの花屋敷栄光園への統合と看護小規模多機能への協議検討を進める
- (イ)逆瀬川デイサービスセンター虹の逆瀬台デイサービスセンターへの統合

4. 淡路

- (ア)淡路市元第二庁舎を借り受け、聖隷訪問看護ステーション淡路、聖隷ヘルパーステーション淡路、聖隷ケアプランセンター淡路、障害者相談支援事業所はぐくみを移転し、新たにリハビリ強化型デイサービスを開設する
- (イ)聖隷こども園夢舞台にて聖隷訪問看護ステーション淡路と連携した病後児保育を行う
- (ウ)淡路市より旧岩屋認定こども園舎の貸与を受け、淡路栄光園デイサービスセンターの移転、跡地利用のショート 8 床増床計画について淡路市、兵庫県との協議を進める

5. 奄美

- (ア)龍郷町において児童発達支援センター「聖隷かがやき」の新園舎による運営開始
- (イ)春日デイサービスの奄美佳南園への統合、児童発達支援事業所の開設協議

6. 沖縄

- (ア)読谷村と協力し合い、広域介護保険第 8 期介護保険計画(2021~2023 年)における看護小規模多機能及び小規模特養の開設に向けて協議を行い、2019 年度内に結論を出す

和合せいれいの里

特別養護老人ホーム和合愛光園
和合愛光園デイサービスセンター
障害者支援施設みるとす
障害者相談支援事業所くすのき
生活支援ハウスやまぶき
和合愛光園和合サテライト
訪問看護ステーション住吉
聖隷ヘルパーセンター
聖隷ケアプランセンター和
地域包括支援センター和合
聖隷厚生園チャレンジ工房
聖隷放課後クラブはなえみ和合
聖隷トライサポート和合

和合せいれいの里は、2017 年度本格的に高齢者・障害者・こどもの共生型複合施設群としてサービスの一体的提供を開始した。2019 年は放課後等デイサービス「聖隷放課後クラブはなえみ和合」の定員増、医療後の継続したリハビリテーションに特化したデイサービスセンター「聖隷トライサポート和合」の開設と、和合せいれいの里の理念にもある「必要とされる質の高い適切な支援を切れ目なく」を実現すべく職員一丸となって取り組んでいく。

また、ますます高齢化が進み介護人材不足が叫ばれる中、2019 年から働き方改革関連法が施行され、更に追い打ちをかけるのではと懸念する。専門職の不足を免れない中、利用者へ不利益が生じないよう運営を進めることは当然であるが、専門職の不足を非専門職で補う体制が必要である。専門職・非専門職の領域をしっかりと見極め、和合せいれいの里だからこそできる、高齢者・障害者の新たな働き方・活躍の場を創出し、共生型での支援体制を作り上げる年としていく。

【施設理念】

和合せいれいの里の全事業所および全職員は、和合せいれいの里の利用者一人ひとりがその人らしい生き方ができるよう常に利用者の視点に立ち、そのために必要とされる質の高い適切な支援を切れ目なく総合的に提供する。

【経営方針】

1. 高齢者・障害児（者）に対し切れ目なく質の高いサービスを提供する
2. 業務省力化と業務効率化を進めることでサービスの質も高める
3. 共生社会実現の為の連携関係を作り、利用者がその人らしく地域で暮らせるよう支援する
4. 新たな役割を担い、成長を実感できる体制強化と多様な人材の働き方を支援する
5. 防災・防犯対策の強化と地域との関わりを増やす
6. 地域における公益的な取組

【事業・運営計画】

1. 高齢者・障害児（者）に対し切れ目なく質の高いサービスを提供する

(ア) 特別養護老人ホーム和合愛光園・和合愛光園和合サテライト

- ①利用者理解を深め、ケアプランを生かし個々の状態に合わせたケアの提供
- ②専門職としての役割分担とケアサポーター導入
- ③入居待機者確保のため各機関への営業活動推進
- ④褥瘡予防を進め新規褥瘡発生率2%以下とする
- ⑤居宅介護支援事業所、医療機関等への定期的な空床状況の情報提供
- ⑥緊急ショートステイ・障害ショートステイ受け入れ

(イ) 和合愛光園デイサービスセンター・聖隷トライサポート和合

- ①リハビリテーション特化型デイサービス開始と既存デイサービスとの役割分担
- ②医療後の継続リハビリテーションの受け入れ体制づくり
- ③リハビリテーション特化型デイサービスにおける共生型サービスの検討と導入
- ④最新機器導入と機器活用での個別支援の強化
- ⑤障害者デイサービスとの共通活動の取り組み
- ⑥アセスメントに基づいたADLや認知症改善プログラムの実施

(ウ) 障害者支援施設みるとす

- ①「みるとす」（生活介護第1単位）
利用者の可能性を伸ばしたケアを考え実施していく
緊急受け入れが365日できる地域拠点施設としての体制づくり
- ②「みるとす」（生活介護第2単位）あすなろ
利用者個々が安心・安全に過ごせるよう障害特性の知識向上
土曜日営業の開始と利用者安定化のため、関係事業所への営業活動
こども園・保育園の子供たちとの交流推進

(エ) 障害者相談支援事業所くすのき

- ①年齢・障害種別の区別なく幅広い相談支援に取り組みケース拡大
- ②浜松市リハビリテーション病院との連携強化、基幹型相談支援事業所との連携

(オ) 聖隷厚生園チャレンジ工房

- ①就労移行支援事業所として支援体制を強化し、訓練・就職支援の実績向上
- ②聖隷キッチン和合の弁当製造・受注先の拡大と安定効率供給の確保
- ③新しい実践的な就労作業メニュー（ケアサポーター・メンテナンス業務等）の確立
- ④就労定着支援体制の強化と効率的な対応

(カ) 聖隷放課後クラブはなえみ和合

- ①はなえみ高丘との合併と定員増での支援体制の強化
- ②和合せいれいの里の環境をフルに活用した新たな支援体制と支援プログラム提供
- ③効率的な送迎体制の追求

(キ) 生活支援ハウスやまぶき

- ①特別養護老人ホーム職員との協力体制での運営を図る
- ②利用者が働くことも意識して支援する

(ク) 聖隷ヘルパーセンター

- ①介護技術を高め身体介護利用者受け入れを増やし身体介護比率 80%を目指す
- ②有償サービスの見直しと実施、利用者を増やす

(ケ) 訪問看護ステーション住吉

- ①和合せいれいの里の医療ニーズの高い利用者、障害児・者へのケア連携促進
- ②訪問看護 e-ラーニングの活用と職員のスキルアップ
- ③聖隷浜松病院との交流の継続
- ④浜松市リハビリテーション病院訪問リハビリテーションからの移行連携を進める

(コ) 聖隷ケアプランセンター和

- ①ケアプランセンター浜松移転後の支援体制づくり
- ②多様なニーズに対応できるケアマネジャーの育成

(サ) 地域包括支援センター和合

- ①地域包括ケアシステム深化のため地域ネットワーク強化、新総合事業の周知と取り組み
- ②包括職員体制と人材育成

2. 業務省力化と業務効率化を進めることでサービスの質も高める

(ア) 介護記録システムと障害支援システムの有効活用とペーパーレス推進、システム活用による業務の効率化を図る

(イ) 事業毎の送迎体制の見直しを行い効率的な送迎への取り組み

(ウ) 業務省力化を目指し新たな機器・ロボットなど新技术を調査し試行する

3. 共生社会実現の為の連携関係を作り、利用者がその人らしく地域で暮らせるよう支援する

(ア) 日常的に高齢者・障害者・こどもの交流をすすめ、お互いを支え合う体制づくりを行う

(イ) 法人内病院が推進する患者の地域移行促進の為、退院支援の業務連携を進めていく

4. 新たな役割を与え成長を実感できる体制強化と多様な人材の働き方を支援する

(ア) プリセプター制度、各テクニカルリーダーを効果的運用する為、目標参画システムに取り組み課題を盛り込み実施する

(イ) EPA 介護福祉士候補生及び新人職員育成計画の策定と計画に沿った教育の実施

(ウ) 認知症介護実践者（リーダー）研修の受講者の増加を図る

5. 防災・防犯対策の強化と地域との関わりを増やす

(ア) 定期的な防災訓練実施と訓練内容見直し、年2回の防犯想定訓練を実施する

(イ) 静岡県災害派遣福祉チーム登録要員の増員と福祉避難所としてのBCPマニュアルの再整備

(ウ) 和合サテライトでは地域の祭典や防災訓練等への参加と地域交流を図る

6. 地域における公益的な取組

(ア) 聖隷キッチン和合の学習支援事業への弁当配食・困窮家庭への食を介しての支援

(イ) 介護保険利用者負担軽減制度の実施

(ウ) 専門職としての技術・情報を地域へ出向き提供する

(エ) 河川里親制度に登録し隣接河川の環境美化活動

【数値指標】

■高齢者入所・和合サテライト・通所関係事業

	和合愛光園			和合サテライト	和合愛光園 デイサービスセンター			やまぶき 生活支援ハウス
	特養入所		短期		通所介護			
	従来型	ユニット型	従来型(障害)	ユニット型	一般型介護	予防	認知症対応型	
利用者定員	62名	40名	20名	29名	50名		12名	5名
利用者延数	22,692名	14,091名	6,771名	10,432名	7,245名	942名	3,179名	1,281名
一日平均利用者数	62.0名	38.5名	18.5名	28.5名	23.4名	3.0名	10.3名	3.5名
稼働率	100.0%	96.3%	92.5%	98.3%	53.0%		85.7%	70.0%
稼働延日数	366日	366日	366日	366日	309日		309日	366日
単価(一人一日)	11,780円	14,500円	12,200円	13,500円	10,263円	5,939円	13,300円	5,330円
サービス活動収益	278,091千円	204,348千円	79,543千円	140,839千円	82,507千円		41,659千円	6,829千円
正職常勤換算数	33.5名	24.2名	9.1名	13.6名	5.9名		1.8名	0.0名
パート常勤換算数	11.1名	4.8名	0.5名	4.1名	11.3名		4.3名	1.2名

■障害者入所・通所・相談関係事業

	聖隷トライサポート 和合		障害者支援施設 みるとす			相談支援 くすのき	
	一般型介護	予防	施設入所 生活介護Ⅰ	生活介護Ⅱ	短期入所	浜松市 受託	特定 児童
利用者定員	70名		20名	20名	2名	-	
利用者延数	6,247名	1,827名	7,233名	5,727名	1,071名	-	
一日平均利用者数	30.6名	9.0名	19.8名	19.7名	2.9名	-	
稼働率	56.6%		98.8%	98.7%	146.3%	-	
稼働延日数	204日		366日	290日	366日	-	
単価(一人一日)	6,240円	4,694円	17,947円	13,750円	8,750円	-	
サービス活動収益	47,553千円		133,415千円	79,742千円	10,113千円	9,084千円	13,668千円
正職常勤換算数	5.0名		14.7名	8.3名	-	2.0名	
パート常勤換算数	4.8名		3.0名	8.4名	-	1.8名	

■就労支援事業・放課後等デイサービス事業

	聖隷厚生園チャレンジ工房				聖隷放課後クラブ はなえみ和合	
	就労移行	就労継続B	就労継続A	就労定着	学校日	休校日
利用定員	15名	15名	10名	—	20名	
利用者述べ人数	1,977名	4,108名	2,530名	60名	3,526名	815名
一日平均利用者数	7.5名	15.5名	10.5名	—	18.1名	
稼働率	49.7%	103.3%	105.0%	—	90.4%	
稼働日数(延べ)	265日	265日	241日	—	196日	44日
単価(一人一日当り)	7,569円	7,801円	7,912円	—	10,500円	11,500円
サービス活動収益	22,181千円	52,523千円	51,328千円	1,775千円	47,894千円	
正職常勤換算数	7.5名				6.2名	
パート常勤換算数	14.9名				2.6名	

■訪問・居宅介護支援・地域包括支援事業

訪問看護ステーション 住吉	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数		単価		サービス活動収益	常勤換算職員数
	184.8名	1,066件	12,791件		9,827円		126,906千円	19.2名
聖隷ヘルパーセンター	介護給付		予防給付		単価		サービス活動収益	常勤換算職員数
	平均利用者数	訪問件数		利用者		介護(時間)		
		月間	年間	月間	年間		円	円
82.6名	962件	11,548件	59.5名	714名	3,804円	19,821円	70,409千円	10.6名
聖隷ケアプランセンター和	年間請求件数		平均単価		訪問調査		サービス活動収益	常勤換算職員数
	介護	予防	介護	予防	年間件数	単価		
	2,340件	216件	17,874円	4,121円	12件	4,000円	44,557千円	7.6名
地域包括支援センター和合	浜松市受託収入		予防プラン請求件数	うち再委託件数	予防プラン単価	サービス活動収益	常勤換算職員数	
	31,305千円		2,940件	2,130件	4,390円			
	日常生活支援総合事業の予防プラン							
	種別	予防プラン請求件数	うち再委託件数	予防プラン単価				
	ケアマネジメントA	2,034件	1,440件	4,390円				
ケアマネジメントB	300件	0件	2,256円					
ケアマネジメントC	30件	0件	2,195円					
						53,902千円	6.7名	

聖隷めぐみ保育園

和合せいれの里及び浜松市リハビリテーション病院の職員の子ども0.1.2歳児の従業員枠23名と地域枠7名の定員30名の地域型保育事業所として開設、運営して4年が経過した。2018年度も一年を通じて順調な運営を継続できた。今後も保護者の職場復帰がいつでもできるよう園の職員体制を整えること、子どもの成長発達を考えた子育てを家庭と連携を取りながら行っていく。

聖隷こども園めぐみが開設してから保育を共に考え、行事等実践してきたことが、2018年度は形となってきた。3歳以降の受け入れ先（連携園）として、さらに交流、連携を密にしていく。そして、和合せいれの里との連携も合同の行事を開催する等、日々の交流の中で深まっている。特にこの和合せいれの里内は、高齢者、障がい児者と、園児が共に生活しており、ノーマライゼーション社会を身近に体感できる環境にあるので、積極的に関わりを深めていきたい。そして、和合せいれの里の施設内の恵まれた立地を利用し、設置した遊具を活用し、自然環境の中で、子どもが心身共に豊かに成長するための保育を目指している。

【施設理念】

1. 子どもたち一人ひとりが愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
2. 和合せいれの里の豊かな自然と人との交流が、子どもの自己発信と創造性を育む。

【経営方針】

1. 保育の基盤をキリスト教に置き、子ども一人ひとりが心身共に豊かな成長発達ができるよう丁寧な保育を行う。
2. 定員30名という少人数の園の特性を生かし、乳児期の心身の発達に必要な養護が十分に行き届いた環境を整え、保育、教育が行われるよう職員間の連携を密にし保育の質の向上を図る。
3. 敷地内で身近に生活する高齢者、障がい児者、幼児、学童等の利用者との交流を日常的に行っていく。
4. 在園、地域の子育て家庭が豊かな環境で子育てできるように、保護者の就労、子育て状況を把握し、子どもの成長発達と併せて保護者支援を行っていく。

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上。利用者に質の高い保育・保護者支援を行う
 - (ア) 新規及び中途採用職員が多いので、聖隷でこれまで培ってきたキリスト教保育について学ぶ。保育のみならず行事一つひとつを丁寧に行っていく。
 - (イ) 園内外の研修に参加し、知識や技術の向上を図り、現場で活かしていく。
 - (ウ) 養護と教育が一体になった保育を、子どもの成長発達に関連付けて行うために、常に子どもを観察し、子どもを理解するよう努める。
 - (エ) 保育環境を子どもの発達と併せて見直し、保育内容と環境を常に見直す。
 - (オ) 子育て、(乳児)保育、教育に関する研修を園内で行い、また外部研修に参加し、研修内容を職員間で共有し、懇談会等でも保護者と共有し、子育て支援につなげる。

2. 日々の生活の中での利用者同士の自然な交流ができるようにする。
 - (ア) 施設内の利用者との交流が図れるように施設間での職員の連携を密にすると共に、自園の情報を発信し、交流を深める。
3. 保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくりを目指す。
 - (ア) 保育システムに慣れ、業務省力につなげる。業務省力になるのか精査し、改善する。
 - (イ) 園の行事、特にこども園めぐみと合同の行事等について、企画から反省までの流れをシステム化し、業務省力につなげていく。
 - (ウ) 職員間で互いにコミュニケーションを図り、報告、連絡、相談を徹底し、会議も時間短縮に努める。
 - (エ) 職員が働きやすい環境を整え、心身の健康維持に努める。
4. 地域における公益的な取組
 - (ア) 小学校の長期休み（夏休み等）の学童保育・学習支援を充実させる。
 - (イ) 地域の子育て家庭のニーズを探り、育児相談（電話、面談等）等、子育て支援に努める。
 - (ウ) 障がい者雇用を含め、地域社会で必要とされる事業への取り組みを行う。

【数値指標】

利用者数	定員	30名	0歳児	1歳児	2歳児
	4/1 入所予定 児童数	従業員枠	1名	6名	6名
		地域枠	1名	3名	3名
		年間入所延人数	60名	108名	108名
職員数		保育士			
		正規職員	5名		
		パート	5名		
		計	10名		

聖隷ケアセンター初生

和合愛光園初生サテライト
聖隷デイサービスセンター初生
聖隷ヘルパーセンター初生

2018年度は各事業に求められる事がより明確化された。2019年度はこれらを踏まえスムーズな事業運営を実施していく必要がある。各加算算定の根拠となる項目の正しい理解と実施が利用者への利益にもつながることを再度念頭に入れ進めていく。また、マンパワー確保が困難になってきている昨今、専門性をより強く生かし質の高いサービスを提供し続けるための新たな働き手、機器活用も進めていきたい。聖隷ヘルパーセンター初生が移転した後、ここでできる新たなサービスを検討し2020年に向けての準備の年であるとも考えており未来を想像し、できる事を発見できるよう進めていく。

【施設理念】

住み慣れた地域でその人らしい“暮らし”や“生きがい”を支え続ける

【経営方針】

1. 地域のニーズを的確に把握し「地域に根ざした、求められるサービス」を提供する
2. 業務の効率化をすすめ、より専門性の高い質の良いサービスを提供する
3. 職員一人ひとりがやりがいと達成感を感じ、お互いが協力し合える環境と、支援体制づくり
4. 地域における公益的な取組

【事業・運営計画】

1. 地域のニーズを的確に把握し「地域に根ざした、求められるサービス」を提供する
 - (ア) 積極的に地域の交流の場に参加しタイムリーにニーズを把握する
 - ① 地域の事業所の集まり、研修会等への参加・地域のお祭りや防災訓練への参加と交流
 - (イ) 通所介護における提供プログラムの充実と積極的な営業活動
 - ① 機能訓練の計画・実施・評価をスムーズに実施する
 - ② 求められる事を実施するだけでなく先に予想し提案していく
 - ③ 認知症に対する理解と知識を高め、個別に対応できるプログラムの作成と実施
 - ④ 計画的な営業活動
 - (ウ) 訪問介護事業におけるニーズへの対応の強化と新たな訪問エリアの開拓
 - ① 新たな有償サービスを提案し、プラスαのより充実したサービスの提供で利用者確保に努める
 - ② 拠点を細江地区に移すことでケアマネジャー、訪問看護、相談支援事業との連携がスムーズになり、よりタイムリーなサービス提供ができる
 - ③ 浜松市北区（細江町気賀）への新規利用者の開拓
 - (エ) 入所施設でより個別性に特化し、個々の生活に寄り添ったサービスの提供に努める
 - ① アセスメントを丁寧に行い各専門職、本人、家族と一緒にケアプランを作成しその人らしい暮らしを支援していく

- ② 医療ニーズに的確に対応できるよう介護職員の喀痰吸引研修を計画的に実施する
 - ③ 入居者確保のための営業活動
 - ④ 待機者の事前面接を随時実施し空床日数を無くすことで利用できるサービス機会を無駄にしない
- (オ) 聖隷ヘルパーセンター初生移転後の施設活用についての検討
2. 業務の効率化をすすめ、より専門性の高い質の良いサービスを提供する
- (ア) システムの有効利用によりペーパーレス、超過勤務時間の減少を図る
 - (イ) 機器の導入により安全で的確なケアを提供する
 - (ウ) ケアサポーターを活用し介護の専門性の高いサービス提供する
 - (エ) 「権利擁護」を意識したサービスの提供
 - ① 権利擁護、虐待防止に関わる勉強会、研修会を継続し職員が自分の問題と捉え考える力を持つ
 - ② 認知症に関する研修への積極的な参加（基礎研修・実践者・リーダー）
3. 職員一人ひとりがやりがいと達成感を感じ、お互いが協力し合える環境と、支援体制づくり
- (ア) 「心身に優しい」職場環境作り
 - ① 機器の導入で職員、利用者ともに安全で的確なケアを提供する
 - ② 管理者、職場長は職員の健康状態をタイムリーに把握し迅速な対応に努める
 - ③ 職場内でお互いが協力し合い有給取得5日以上とする
 - (イ) 各ラダーの運用と目標参画システムとの連動を確実に実施することで個々の目標を明確にする
 - (ウ) 自分の興味ある研修、勉強会への参加の推進
4. 地域における公益的な取組
- (ア) 浜松市のボランティア「ささえあいポイント」への参加
 - (イ) 実習生の受け入れの継続
 - (ウ) 介護保険利用者負担減額制度の実施

【数値指標】

	和合愛光園	聖隷デイサービスセンター初生		聖隷ヘルパーセンター初生（4月～6月まで）			
	初生サテライト	介護給付	総合事業	介護給付	総合事業	総合支援	有償等
利用者定員	29	50	(50)	—	—	—	—
利用延数	10,366	10,453	276	136	75	206	15
一日平均利用者数	28.4	33.8	5.4	—	—	—	—
稼働率（%）	97.9	78.4		—		—	—
稼働延日数	366	309		—	—	—	—
平均介護度	3.8	1.8	—	—	—	—	—
単価	14,230/日	9,230/回	33,500/月	4,210/時間	17,300/月	4,100/時間	3,250/時間
サービス活動収益(千円)	148,012	105,743		13,323			
職員数(正職)	14.9	6.8		1.2			
職員数(パート)	3.9	15.3		0.8			

聖隷ケアセンター高丘

訪問看護ステーション高丘
聖隷リハビリプラザ IN 高丘
地域包括支援センター高丘
聖隷ケアプランセンター浜松

【事業・運営計画】

1. 聖隷ケアセンター高丘内の連携を図り、センター全体として地域の中で、質の高いサービスを展開できる
 - (ア) 訪問看護ステーション高丘はリハビリテーション強化型ステーションとして内外に発信し続けると共に、7ステーションのリハビリテーションの基幹的役割が果たせるようになる。ケアプランセンターとの連携にて機能強化型ステーションを目指す
 - (イ) 聖隷リハビリプラザ IN 高丘はリハビリテーションに特化したデイサービスとして地域に根ざすとともに、共生型の機能訓練が出来るデイサービスを目指す
 - (ウ) 地域包括支援センター高丘は様々な相談に対応するとともに、地域課題を抽出し、センター内外に向けて情報を発信、地域づくりをすすめる
 - (エ) 聖隷ケアプランセンター浜松は高丘地域を理解し、交流を深め、多様なニーズに対応できるよう知識・アセスメントの向上を図る

2. それぞれの事業が、経営的に自立した上でセンターとして安定した経営基盤を築く
 - (ア) 高丘地区の特徴を活かした訪問の計画・実践を行うと共に、リハビリテーションに特化したサービスが主体であることを病院の退院支援・居宅介護支援事業所・相談支援事業所に発信していく
 - (イ) センター内4施設の人材・備品等を施設横断的に活用し、業務の効率化を図る
 - (ウ) センター内の事務機能を整理し、業務分担の再編成をしていく

3. 地域における公益的な取組
 - (ア) 地域に開かれた施設運営をする
(ロコモーショントレーニング事業の継続、センター祭り)
 - (イ) 地域包括支援センター高丘を中心に地域のニーズに合わせた活動に参加する
 - (ウ) 地域行事（防災訓練等）・学校行事に参加する
 - (エ) 各専門職の実習・職場体験、ボランティアの積極的な受け入れを行う

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション高丘）

平均利用者	月訪問件数	年訪問件数	単価（円）	サービス活動 収益（千円）	職員数 （常勤換算）
205人	1,068件	12,825件	9,250円	118,782千円	15.3名

通所介護事業（聖隷リハビリプラザ IN 高丘）

介護給付			予防給付		単価（円）		サービス 活動収益 （千円）	職員数 （常勤換算）
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	介護 （月）	予防 （月）		
29.8名	767.9名	9,215名	69.7名	836名	5,660円	33,543円	82,289千円	12.1名

地域包括支援事業（地域包括支援センター高丘）

浜松市受託収入（千円）	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価	サービス 活動収益 （千円）	職員数 （常勤換算）		
41,666千円	3,270件	2,310件	4,390円			51,266千円	7.9名
日常生活支援総合事業の予防プラン							
種別	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価	51,266千円	7.9名		
ケアマネジメントA	1,938件	1,218件	4,390円				
ケアマネジメントB	300件	0件	2,256円				
ケアマネジメントC	0件	0件	2,195円				

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浜松）

年間請求件数		平均単価		訪問調査		サービス活動収益 （千円）	職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価		
2,403件	318件	15,500円	3,951円	-件	-円	40,775千円	6.6名

訪問看護ステーション住吉第二

【施設理念】

利用者家族に寄り添い、利用者を主人公として自己決定を支援する。

【経営方針】

1. 聖隷浜松病院・地域の社会資源との連携をする事で、利用者により良いサービスを提供することができる
2. やりがいを実感できる人材育成

【事業・運営計画】

1. 聖隷浜松病院に密着したステーションとして、利用者への切れ目のないサービスを提供することができる
 - (ア) 聖隷浜松病院との連携の必要性を明文化し、スタッフへ情報共有をする
 - (イ) 法人外医療機関への連携は、窓口を決め連携を図る
2. 地域における公益的な取組
 - (ア) 災害時自助を推進する為、利用者と共に対応を考え具体的にイメージ化する
 - (イ) 地域の防災訓練・地域包括支援センター主催の行事に参加
3. 同建物内への移転と8月からの稼働
4. 教育体制の再構築を行い、スタッフのスキルアップを図る
 - (ア) 計画的な研修の参加と伝達講習
 - (イ) ナーシングスキルを活用の推進とラダーの継続
 - (ウ) カンファレンス・職場会の運営方法の評価
5. 聖隷デイサービスセンター住吉・聖隷浜松病院ひばり保育園との連携
 - (ア) 聖隷デイサービスセンター住吉との兼務を継続
 - (イ) 聖隷浜松病院ひばり保育園・聖隷デイサービスセンター住吉との防災訓練

【数値指標】

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
132人	717件	8,610件	9,583円	84,078千円	14人(11.9)

聖隷デイサービスセンター住吉

聖隷デイサービスセンター住吉は聖隷浜松病院ひばり保育園の拡大に伴い、2019年8月に和合せいの里へ移転する。移転後は、医療後の継続したリハビリテーションができる通所介護施設「聖隷トライサポート和合」へ名称を変更する。地域の社会資源及び事業団の各病院との連携を意識しながら新たなルートを構築し、現在利用中の利用者にとって魅力ある事業所として、地域から信頼され選ばれる事業所づくりを目指したい。

【住吉地区運営方針】

1. 訪問看護ステーション住吉第二、聖隷デイサービスセンター住吉、聖隷浜松病院ひばり保育園の各事業所が連携を強化し、ひとつの拠点として機能することにより地域に根付いた事業所を目指す

【事業・運営計画】

1. 聖隷トライサポート和合及び聖隷他事業所へスムーズな移行を行う
 - (ア) 各種サービスの組み合わせを行い、選ばれる環境を整える
 - (イ) 利用者、家族、ケアマネジャーへの説明会を実施し、聖隷トライサポート和合の認知度の向上を図るとともに移転における利用者、家族の不安軽減を図る
 - (ウ) 毎月利用時の様子及び空き情報を発信し、新規利用者の獲得につなげる
 - (エ) ボランティア親睦会を開催し、これまでの関係を維持していく
2. 介護保険内及び介護保険外サービスを組み合わせ、対応力の強化と安定した運営を図る
 - (ア) 介護保険外サービス（外出支援）を実施し、新たな特色を確立する
 - (イ) 各種加算の取得率90%を維持し、安定した運営につなげる
3. 地域における公益的な取組
 - (ア) 住吉交友会、住吉和合社会福祉協議会への職員派遣を継続し、移転後の関係性を構築する。

【数値指数】

介護給付			予防給付		単価（円）		サービス活動収益（4ヶ月）	職員数（常勤換算）
平均利用者数	月間利用者数	年間（4ヶ月）利用者数	月間利用者数	年間（4ヶ月）利用者数	介護（月）	予防（月）		
21.7人	569人	2,279人	21人	84人	9,723円	32,485円	24,882千円	12.5名

聖隷コミュニティケアセンター

【事業・運営計画】

1. 店舗運営の改善と見直し

- (ア) 店舗統合や営業時間変更を含め、店舗運営の見直しを行う
- (イ) 店舗販売及び病院・施設個人販売における決済方法についてキャッシュレス化の具体的な取組の検討を行っていく
- (ウ) POS システムを活用し毎月店舗経営状況の分析と評価を行い、改善に向け対応を行う

2. 業務効率化と経営安定化の推進

- (ア) 貸与業務支援ソフトを活用し、スケジュール管理を全体的に見直す。また外出先での事務処理作業が一部可能となる為、隙間時間を有効活用していく
- (イ) 貸与業務支援ソフトを軸に業務整理（ペーパーレス化）と、月4回のノー残業デイを実施し、2019年度より45時間/月、360時間/年の超過人数を0人にする
- (ウ) 自社資産ベッド約200台の稼働率を90%以上で継続していく
- (エ) 聖隷居宅支援事業所、地域包括支援センターとの連携を強化し、平均紹介率70%以上を達成する

3. 就労訓練事業の導入計画と実施

- (ア) 施設内にある福祉物品倉庫の移転と倉庫管理体制について、静岡県立浜松学園と連携して検討・準備を行う
- (イ) 介護レンタル商品だけにとらわれず家電製品等の貸与・消毒・保管を担える体制を作る

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 在宅事業所が行っている地域における公益的な取組に、福祉用具での協賛や職員の派遣等を積極的に行う

【数値指標】

年間 利用者数	年間 貸与売上	年間 販売売上	年間 住改修売上	サービス 活動収益
11,745 件	152,667 千円	316,470 千円	17,050 千円	486,187 千円

浜松市生活自立相談支援センターつながり

【事業計画】

1. 地域との連携強化・充実
 - (ア) 各地区の民生・児童委員会定例会に参加し、連携事例に関する情報共有を積極的に行う
 - (イ) 各地区の民生・児童委員会において、生活困窮事例の発掘を行う
 - (ウ) 支援終了者を対象とする企画に民生委員等の参加を呼び掛け、地域支援体制の一助とする

2. 拠点間の連携強化・充実
 - (ア) 委託事業2拠点化に伴い、連絡会等を定期的に行い事業内容の共有・徹底を図る
 - (イ) 合同企画等を通して浜松市の生活困窮者自立支援事業の普及・啓発をさらに強化する

3. 就労支援及び就労準備支援
 - (ア) 就労支援対象者のうち、年間120名を就職につなげる
 - (イ) 就職者のうち、正規雇用率30%、6ヶ月定着率70%を目指す
 - (ウ) 就労準備支援事業の対象者を年間15名とする

4. 実践の言語化
 - (ア) 自立相談支援事業従事者養成研修や各種学会において日頃の実践を発表する
 - (イ) 職能団体等が行う研修会に1人1回以上参加し、実践力の向上と全国レベルの把握を行う

5. 地域における公益的な取組
 - (ア) 学習支援教室の新たな開設について協議・検討する
 - (イ) 学習サポート卒業生を対象に高校定着・退学防止支援を行う
 - (ウ) キャリア形成支援の一環として「就労体験」を年4回行う

【数値指標】

	浜松市生活自立相談支援センターつながり	
	浜松市生活困窮者自立支援事業	学習サポート事業
利用者定員	-名	-名
利用者延べ人数	-名	-名
一日平均利用者数	-名	-名
稼働率	-%	-%
稼働日数(延べ)	-日	-日
単価(一人一日当り)	-円	-円
サービス活動収益(千円)	49,056千円	一千円
職員数(常勤換算)	10.9名	2.3名

聖隷厚生園信生

障害者支援施設 聖隷厚生園信生寮

まじわりの家

障害者相談支援事業所 信生

地域共生社会の実現には、住まいを取り巻く自治体、行政、医療、介護、相談支援の連携強化が重要なファクターとして位置づけられている。

2019年度の聖隷厚生園信生寮はピロティの改修により、訪問看護・訪問介護の移転が行われ、福祉・介護分野に加え医療・看護分野との連携強化を行い、在宅で暮らす方々が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、一体的なサービスの提供ができる仕組みづくりを行っていく。

また多様な障害種別・年齢層にも対応でき、より重度な利用者への対応が可能な施設として、信生寮・まじわりの家の受け入れ態勢を整備していくと共に、施設・在宅での生活が自立できるよう、機能訓練の強化にも力を入れていきたい。

2018年、聖隷厚生園信生は40周年を迎えることができた。多くの方々の協力と支援により、これまでの歩みがなされてきたことに感謝しつつ、これまで積み重ねてきた経験を活かし、これからも地域社会に必要とされる存在になれるよう、新たな1歩を踏み出していきたい。

【施設理念】

一人が癒されるために、一人があるべき姿に立帰るために
一人の生命が真にまもり生かされるために、そして地域のために

【経営方針】

1. 利用者の尊厳を守り、利用者主体の支援の提供
2. 地域共生社会の実現に向けた連携体制の構築
3. 人材育成と働きがいのある職場環境の整備と業務改善
4. 安定経営の推進と衛生管理体制の向上
5. 環境保護と地域における公益的な取組

【事業・運営計画】

1. 利用者の尊厳を守り、利用者主体の支援の提供
 - (ア) 利用者の主体性を尊重した実現性のある個別支援計画の作成
 - ① 体を動かすことや身体機能を維持するため、機能訓練の必要性をアセスメントし、個別支援計画を作成する
 - (イ) 自律性が回復し、自律的な力が発揮できるよう環境調整も含めた支援を提供する
 - (ウ) 利用者の高齢化、嚥下機能の低下に合わせた食事形態の見直しを行う
 - (エ) 虐待防止セルフチェック表（年2回実施）を活用し、人の尊厳を守る職場環境を作る
2. 地域共生社会の実現に向けた連携体制の構築
 - (ア) ピロティに移転する訪問看護ステーション細江・訪問介護と連携し、多様な障害種別・

年齢層にも対応でき、より重度な利用者への対応が可能な施設として、信生寮・まじわりの家の受け入れ態勢を整える

- (イ) 聖隷内外の障害者相談支援事業所、高齢者相談センター、ケアプランセンター等と連携し、地域共生社会の実現のため、障害者、高齢者を問わず、利用者が安全で安心して生活できるように、より有効に過不足のないサービスの提供を目指す
- (ウ) 聖隷厚生園ナルド工房等の就労継続支援事業との連携をし、介護補助業務を障害者が担えるよう協働する

3. 人材育成と働きがいのある職場環境の整備と業務改善

- (ア) 介護・看護等各部署の業務を勤務形態別に総点検し、各職種の役割を明確にし、業務改善を行う中で、介護補助者（高齢者・障害者）業務を構築する取組みを開始する
- (イ) 各職場長を中心に、職場特性や働きがいを考慮した職員育成に取り組む
- (ウ) 各専門職ラダーを活用し、目標参画システムと連動させ人材育成を図る
- (エ) 人事企画部人材開発課と連携し、EPA 介護福祉士候補生の就業・学習支援の強化を図る
- (オ) 腰痛予防に向けて職場環境の見直しを行う

4. 安定経営の推進と衛生管理体制の向上

- (ア) 効率的に記録ができるよう、フェイスシート等記録内容の整理を行い超勤の軽減を図る
- (イ) 保守点検及び修繕の効率化を図りコスト削減対策に取り組む
- (ウ) 消費税増額分を積算し、増額分のコスト削減を計画する
- (エ) 利用者・職員の集団感染、誤嚥、窒息、転倒等による入院での稼働率の低下を防ぐ

5. 災害対策と地域における公益的な取組

- (ア) 大規模災害への対応ができるように、災害時におけるマニュアルを見直し、地域の福祉避難所としての受入れマニュアルの整備を行う。食形態別の非常食献立、食数の確保を行う
- (イ) 特別支援学校や各種学校からの実習・福祉体験・利用体験等の受入れを行う
- (ウ) 在宅介護者の不安や負担の軽減を目指し、地域住民向けの「介護体験講座」を開催する等地域との連携を行う

【数値指標】

	信生寮			まじわりの家		信生	
	入所	短期	日中一時	生活介護	機能訓練	浜松市相談支援	指定相談支援
利用者定員	60名	10名	-	14名	6名	-	-
利用者延べ人数	21,993名	4,044名	3,143時間	4,128名	1,548名	-	-
一日平均利用者数	60.1名	11.0名	-	16.0名	6.0名	-	-
稼働率	100.2%	110.5%	-	114.3%	100.0%	-	-
稼働日数（延べ）	366日	366日	366日	258日	258日	-	-
単価（一人一日当たり）	17,436円	8,818円	-	16,334円	9,558円	-	-
サービス活動収益（千円）	383,477千円	35,661千円	3,432千円	82,224千円		9,072千円	10,619千円
職員数（常勤換算）	59.1名			15.1名		3.2名	

聖隷厚生園信生

訪問看護ステーション細江
聖隷ケアプランセンター細江

【事業・運営計画】

[訪問看護ステーション細江]

1. 聖隷厚生園讃栄・信生との連携を図り、障害部門への訪問看護を強化する
2. 聖隷三方原病院看護部と、より深い連携と協働を継続する
3. 三ヶ日地区に根付くために三ヶ日サテライトの活用を図る
4. 健康で、安心して仕事ができる職場環境を整える

[聖隷ケアプランセンター細江]

1. 障害相談支援部門と連携強化し、分野を問わない相談支援に取り組む
2. 医療依存度の高い利用者が安心して過ごせるよう、医療と介護の連携に取り組む
3. 年間通して新規利用者受け入れが行える体制を整える
4. 地域における公益的な取組として、防災活動に参加する

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション細江）

平均利用者	月平均訪問件数	年間訪問件数	単価	サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
182名	883件	10,596件	9,323円	101,256千円	13.3名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター細江）

年間請求件数		平均単価（円）		サテライト （三方原） 年間担当件数	サテライト （三方原） 月額	サービス 活動収益	職員数 (常勤 換算)
介護	予防	介護	予防				
1,512件	240件	15,377円	3,951円	96件	84,000円	25,206千円	3.8名

聖隷厚生園讃栄

聖隷厚生園讃栄寮

生活訓練事業所ナルド

障害者相談支援事業所ナルド

地域活動支援センターナルド

2019年度は、①求められる多様なニーズに応えられる専門性の強化、②施設入所者や通所者の日中活動の充実、③地域社会とのかかわりの機会をさらに増やすこと、以上3点をコンセプトに事業を推進する。特に精神科医療との連携や介護保険サービス従事者との連携を強化し、聖隷厚生園讃栄の既存事業の活性化や新たな価値を生み出し、地域貢献できる施設を目指す。

【施設理念】

一人が癒されるために、一人があるべき姿に立帰るために
一人の生命が真にまもり生かされるために、そして地域のために

【経営方針】

1. 利用者の“できること”を引き出す個別支援・集団支援の充実
2. 医療との連携をさらに強化し、利用者の健康維持向上を図る
3. 利用者も職員も心地よい住環境づくりに努める
4. 障害者がより自立した生活ができる地域支援体制を構築する
5. 地域における公益的な取組

【事業・運営計画】

1. 利用者の“できること”を引き出す個別支援・集団支援の充実
 - (ア) 全国救護施設協議会で作成された個別支援計画の様式を活用し、計画の中に1つ以上は利用者の“できること”を引き出し、利用者と振り返る機会を作る
 - (イ) 施設内作業では利用者の成果をフィードバックし、就労への意欲を向上させる
 - (ウ) 施設の余暇活動を充実させ、職員と利用者の関係性を深める機会を作る
2. 医療との連携をさらに強化し、利用者の健康維持向上を図る
 - (ア) 協力医療機関等との連携により、退院時支援を強化し、再入院を予防する
 - (イ) 訪問看護ステーションとの連携を強化し、在宅生活者へ精神科訪問看護導入を促す
3. 利用者も職員も心地よい住環境づくりに努める
 - (ア) 月1回以上、ケース担当者が利用者と一緒に居室の整理整頓を行う
 - (イ) 身体保清の支援を徹底し、利用者が健康で快適に過ごせるように努める
 - (ウ) 対人関係の中で起こる問題を利用者自らが解決し、社会生活技能を高める支援を行う
 - (エ) 共用部分の利用方法を見直し、利用者同士が交流できる家庭的な雰囲気を作り出す
 - (オ) 救護施設版福祉サービス第三者評価を実施する
 - (カ) 業務の効率化、省略化の方法を考え、試験的に運用を始める

4. 障害者がより自立した生活ができる地域づくりへの貢献

- (ア) 行政、病院等の関係機関へ利用案内を行い、全事業契約件数が2018年度比増を目指す
- (イ) 聖隷厚生園讃栄寮の居宅訓練事業を活用して、年間3名以上の地域移行を目指す
- (ウ) 聖隷内の各種在宅サービスとの連携体制をつくり、“老障世帯”への対応を強化する
- (エ) 共同生活援助事業（グループホーム）の新規開設を検討実施し、施設や精神科病院等退院者の地域生活を支える住居支援を行う
- (オ) 浜松市障害者対応事業の緊急一時受け入れを積極的に行う

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域の清掃活動や防災訓練に利用者と職員が共に参加して地域貢献に努める

【数値指標】

	聖隷厚生園讃栄寮		
	救護施設	救護通所	短期入所 (総合支援法)
利用者定員	60名	10名	4名
利用者延べ人数	23,790名	2,928名	1,080名
一日平均利用者数	65.0名	8.0名	2.9名
稼働率	108.3%	80.0%	72.5%
稼働日数（延べ）	366日	366日	366日
単価（一人一日当り）	9,655円		5,581円
サービス活動収益（千円）	257,977千円		6,028千円
職員数（常勤換算）	29.3名		

	生活訓練事業所ナルド		障害者相談支援事業所ナルド	
	生活訓練	生活介護	浜松市 相談支援	指定 相談支援
利用者定員	10名	10名	-名	-名
利用者延べ人数	1,727名	2,415名	-名	-名
一日平均利用者数	6.4名	9.0名	-名	-名
稼働率	64.0%	90.0%	-%	-%
稼働日数（延べ）	269日	269日	-日	-日
単価（一人一日当り）	8,897円	7,187円	-円	-円
サービス活動収益（千円）	15,366千円	17,358千円	9,072千円	15,458千円
職員数（常勤換算）	5.5名		2.9名	

聖隷厚生園ナルド工房

2018 年度は障害福祉サービスの報酬改定があり、就労支援事業においては工賃・賃金の向上、一般就労への移行促進に向けて、質の高いサービス事業所がより評価される制度改正となった。

2019 年度の聖隷厚生園ナルド工房においては、制度や法律、社会情勢に合わせた柔軟な対応をし、利用者がやりがいを感じられるような就労機会と工賃を提供できる事業所となることを目指す。職員は利用者の持つ能力がどのように仕事と適合するのか分析し、創意工夫した支援ができる力を身に付けていく。利用者が職員の支援を受けて長く働くことができる力を当施設で身に付けることで、「聖隷を選んでよかった、聖隷厚生園ナルド工房を選んでよかった」と利用者や関係機関から評価、信頼される施設づくりを目指す。

【施設理念】

働くことが『生きる喜び』となるように共に歩みます。

【経営方針】

1. 利用者が仕事にやりがいを感じられる就労機会と工賃の提供
2. 長く働く力をつける就労支援の実践
3. 地域における公益的な取組

【事業・運営計画】

《就労支援事業》

1. 利用者が仕事にやりがいを感じられる就労機会と工賃の提供

(ア) 【就労継続支援 A 型】

- ① 菓子製造部門において安定的な利益を確保し（月 20 万円）、利用者 2 名を定着させる
- ② 介護補助作業（ケアサポート）において、できている所をフィードバックし、利用者が仕事の達成感と自身の成長を実感でき、仕事に定着できる支援を行う

(イ) 【就労継続支援 B 型】

- ① 聖隷厚生園信生寮にて介護補助作業（ケアサポート）を導入し、就労機会を創出する
- ② 工賃月額 2 万円以上を達成し（月額作業収入 100 万円）、2020 年度の報酬ランクアップを目指す

2. 長く働く力をつける就労支援の実践

(ア) 【就労移行支援】

- ① 5 名以上の就職者を輩出、職場 6 ヶ月定着を支援し、定員の 5 割以上の定着率を維持する
- ② 作業チェック表に基づく能力評価を行う。できている所をフィードバックし、利用者の自信と仕事への意欲が向上する支援を行う

(イ) 【就労定着支援】

- ① 15 名以上の登録者を維持する・職場 3 年定着を支援する
- ② 利用者の課題共有のため企業担当者への訪問回数を増やす

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域住民のサークル・講座の開催に、喫茶を開放し障害者就労への理解と交流を図る
- (イ) お菓子教室を開催し、地域の方との職員、利用者との交流を図る

【数値目標】

	聖隷厚生園ナルド工房			
	就労移行	就労継続 B 型	就労継続 A 型	就労定着支援
利用者定員	10 名	15 名	10 名	20 名(利用者数)
利用者延べ人数	3,196 名	4,218 名	1,452 名	15 名(登録者)
一日平均利用者数	12.4 名	16.4 名	4.7 名	-名
稼働率	124.4%	109.4%	47.3%	-%
稼働日数(延べ)	257 日	257 日	307 日	-日
単価(一人一日当り)	11,698 円	7,496 円	7,526 円	30,947 円
サービス活動収益	37,388 千円	31,621 千円	10,928 千円	4,889 千円
職員数(常勤換算)	16.4 名			

軽費老人ホーム もくせいの里

2018年度、もくせいの里は設立40周年を迎え、記念式典の開催と記念誌の発刊を行った。設立当時の関係者の熱意を振り返り、守るべきは守り、変えるものは変えていく施設運営を心掛け、50周年に向けて様々な取り組みを実行していく。

人生100年時代とも言われ、生涯現役を目指した“働き方”や“地域との繋がり”が求められている。もくせいの里においても可能な入居者には就労や地域貢献の情報を提供し、活動をサポートする支援を試行する。

一方で、高齢化や重度化する入居者が安心して生活できるように、外部の事業所のサービスを有効に活用することも積極的に行っていく。2018年度に行った職員自己評価を分析したところ、組織として個別支援の充実と更なる職員の資質向上に取り組んでいこうという意欲がみられたので、これらも重点的に対応していく。

【施設理念】

入居者の自由と尊厳ある生活を支援し、穏やかで明るい生活作りをめざす。

【経営方針】

1. 職員間、法人内の他施設との連携を強化し、利用者がもくせいの里で自立した生活が送れるような支援を行う
2. 利用者に満足して頂ける質の高い食事提供を行う
3. 老朽化している施設の設備更新を図り、安心して利用できる施設を目指す
4. 地域との連携強化に努める

【事業・運営計画】

1. 利用者に合わせたサービスの提供
 - (ア) 記録ソフト「WINCARE」の活用による経過記録等の電子化・ペーパーレス化を進める
 - (イ) 介護度2までの利用者を受け入れられる体制づくりを行う。特に2019年度は聖隷厚生園信生寮1階部分に移転する訪問看護ステーション細江と聖隷ヘルパーセンター初生との連携を強化して要支援・要介護の入居者が安心して生活できる体制を整える
 - (ウ) 入居者が支援を受けるだけの存在ではなく、施設内や地域で貢献できるものがないか検討する。一例として、入居者が中心となり豚汁やカレーを調理するなど入居者同士や職員が一体感と達成感が持てるような企画を行う
2. 安心と安全を重視したサービス
 - (ア) 防災・防犯の訓練の中から2019年度は特に不審者侵入時や犯行予告があった場合の訓練を実施する
 - (イ) 配食サービス利用者の安否確認時の情報をケアマネジャーなどに確実に伝えていく
 - (ウ) ノロウイルスやインフルエンザの予防の知識習得と対策を入居者と職員ともに行う

3. 職員の資質の向上

- (ア) 認知症の理解や知的障害や精神障害などの障害特性を理解する機会を増やして、個別支援に活かしていく
- (イ) 利用者の状態に合わせた食形態の食事を提供する

4. 地域における公益的な取組

- (ア) ひとり暮らし高齢者・重度身体障害者等配食サービスを継続して受託する。多くの在宅障害者へ食事の提供ができるように、障害者相談支援事業所との連携を強化する
- (イ) 例年同様、高台幼稚園の園児が夏祭りの盆踊りに参加したり、幼稚園の運動会に入居者を招待してもらったりと、定期的な交流を行うとともに、もくせいの里として出来ることは何かを検討する
- (ウ) もくせいの里の入居対象となる低所得の高齢者の情報を把握している各機関に定期的な施設紹介を行う
- (エ) 湖東地区自治会が主催する公民館サロンデーの役員会に出席し、2019 年度も引き続き入居者の参加を促す。また、配食サービスの PR も兼ねた年 2 回程度のもくせいの里の食事の提供も行う

5. その他

- (ア) 複数年をかけて屋上の防水修理を行う
- (イ) 老朽化した食堂の 4 人掛けのテーブルやイスの一部買い替えを行うとともに、食堂のレイアウトを見直して、入居者の個別性に配慮したレイアウトにする

【数値指標】

	軽費老人ホーム	食事サービス	計
利用者定員	50 名	—	
利用者予算（延べ）	17,885 名	13,020 名	
利用者予算（日）	49 名	42 名	
稼働率（％）	98%	—	
稼働日数（延べ）	365 日	309 日	
単価（一人一日当たり）	6,112 円	680 円	
サービス活動収益（千円）	109,312 千円	8,856 千円	118,168 千円
職員数	12.4 名	3.6 名	16.0 名

いなさ愛光園

特別養護老人ホームいなさ愛光園

いなさ愛光園デイサービスセンター（通常規模型・認知症対応型）

いなさ愛光園ヘルパーステーション（訪問介護/居宅介護）

ほのぼのケアガーデン（認知症対応型共同生活介護）

聖隷ケアプランセンターいなさ

いなさ愛光園在宅介護支援センター

ひとり暮らし高齢者等配食サービス

1997年4月に開設して23年目を迎える。引佐町の高齢化率は33.93%（4,427名）となり、高齢者人口は5年前と比較すると400名増加している。中山間地域エリア（旧伊平村・旧鎮玉村）の高齢化率は40%を超える地区が増えている。また、引佐北部小中一貫校及びみさと幼稚園の子供の数も少しずつ減少している。「いなさ愛光園が中山間地域で継続し貢献することが使命である」をスローガンとして、これからも地域に信頼され、質の高い介護サービスを提供する福祉施設となるように運営をしていく。2014年に浜松いなさJCTや三遠道路が完成し、2019年3月に佐久間道路が開通したことから各サービスの新たな利用者の発掘に力を注いでいく。

【施設理念】

利用者の尊厳保持を援助の基本に据え、一人ひとりの利用者・家族の思いに応えられるケアを実践する

【経営方針】

1. 充実した個別援助を提供するため、いなさ愛光園全体が濃密な連携を図る
2. 地域において信頼されるサービスを提供するため、職員資質の向上に努める

【年度事業目標・年度重点施策】

1. 利用者ニーズや地域の福祉ニーズに柔軟に対応する
 - (ア) 利用者本位の福祉サービスを提供し、安心して快適な生活を支援する
 - (イ) 各サービス単位で利用者懇談会等を実施する
 - (ウ) 地域の関係者等との信頼関係作りに努め、福祉ニーズを共有する
 - (エ) 引佐町以外の地域の福祉ニーズを把握し、新しいサービスにつなげる
 - (オ) 利用者ニーズの共有を図り、チームでニーズの解決を目指す
2. 自立支援・重度化防止に努め、質の高いサービスを提供する
 - (ア) 専門職同士が連携して作成した計画に基づき、潤いのある生活支援をする
 - (イ) ADLの向上や生活の楽しみへの取り組みをする
 - (ウ) 看取り介護、喀痰吸引の体制の充実を図る
 - (エ) 認知症の方の心をつかむケア技法である「ユマニチュード」を取り入れる

(オ) ヒヤリハットの分析を行い、事故件数を減らすように取り組む

3. 専門性を高め成長が実感できる

(ア) 介護テクニカルラダーを有効的に利用し、新たな知識習得に努める

(イ) 相談支援スキルラダー、福祉施設看護ラダー、栄養部門キャリアラダーを運用し自己研鑽に努め、各々のスキルアップを支援する

(ウ) 利用者や家族に対する接遇やおもてなし力の向上に取り組む

(エ) 離職防止対策、無資格者対応として新人教育体制を2年間体制とする

(オ) EPA 介護者福祉士候補者の受入体制を作り、相互理解を深める

4. 持続可能な安定した施設運営をする

(ア) 各サービスの新たな利用者の発掘に力を注いでいく

(特養・短期等⇒愛知県北設楽郡東栄町、佐久間町、三ヶ日町)

(イ) 法人内の他施設と連携することで、利用者拡大に結び付ける

(訪問介護・通所介護等⇒聖隷ケアセンターいなさ、もくせいの里)

(ウ) 報酬改定に伴う新たな加算取得を検討する

(エ) 経費削減をすることで、消費税増税の対応をする

(オ) 建物修繕、設備更新及び車両更新を計画的に実施する

5. 地域における公益的な取組

(ア) 地域の高齢者の介護予防のために、サロン活動を運営支援する

(イ) 中山間地域を対象とした家族介護者教室の企画運営をする

(ウ) 福祉避難所として必要時に開所できるよう準備する

(エ) 社会福祉法人利用者負担軽減事業の実施をする

【数値指標】

高齢者入所・短期入所・通所関係事業・訪問介護・居宅介護・居宅介護支援・委託事業

	特養入所		短期入所	通所介護	
	従来型	ユニット型	ユニット型	通常規模型	認知症対応型
利用者定員	30名	40名	20名	35名	10名
利用者延べ人数	10,870名	14,411名	6,310名	8,811名	2,465名
一日平均利用者数	29.7名	39.4名	17.2名	28.4名	8.0名
稼働率	99.0%	98.4%	86.2%	81.2%	79.5%
稼働日数(延べ)	366日	366日	366日	310日	310日
単価(一人一日当り)	12,861円	14,084円	13,257円	9,008円	12,343円
サービス活動収益	139,984千円	203,009千円	83,650千円	79,372千円	30,426千円
職員数(常勤換算)	49.8名		14.9名	14.1名	5.6名
	認知症対応型 共同生活介護	訪問介護	居宅介護	居宅介護支援	
				介護プラン	予防プラン
利用者定員	9名	—	—	—	—
利用者延べ人数	3,245名	3,711名	180名	1,945名	465名
一日平均利用者数	8.9名	10.3名	0.5名	—	—
稼働率	98.5%	—	—	—	—
稼働日数(延べ)	366日	362日	362日	366日	366日
単価(一人一日当り)	13,840円	4,491円	2,800円	17,247円	3,652円
サービス活動収益	44,912千円	16,822千円	504千円	35,615千円	
職員数(常勤換算)	8.5名	4.1名		4.5名	
	配食サービス	在宅介護支 援センター	合計		
利用者定員	—	—	—		
利用者延べ人数	1,631名	—	—		
一日平均利用者数	5.6名	—	—		
稼働率	—	—	—		
稼働日数(延べ)	290日	366日	—		
単価(一人一日当り)	635円	—	—		
サービス活動収益	1,036千円	—	635,330千円		
職員数(常勤換算)	—	—	101.5名		

聖隷ケアセンターいなさ

地域包括支援センター細江
聖隷ケアプランセンターいなさ南部
聖隷リハビリプラザいなさ

2019年度、聖隷ケアセンターいなさは、浜松市の「70歳現役都市」宣言の基に、改めて地域のニーズ「高齢でも元気で現役」を意識し、それに応えられる活動の場所として各事業を実施していくとともに、支援が必要になっても暮らし続けられる地域づくりに貢献していく。

【拠点理念】

隣人愛の精神のもと、地域とつながり、共に生きる。

【運営方針】

旧引佐三町において、住民が、住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会の実現を目指し、地域で支援を必要とする要援護者及びその家族等の人権、自立心、価値観等を尊重し柔軟で包括的な支援を実施する。

【事業・運営計画】

旧引佐三町における地域包括ケア実現のために、拠点機能の強化をすすめる。

1. 医療と介護連携強化への対応

(ア) 利用者（患者）の意思決定支援に積極的に関わり、継続して地域支援体制を強化する。

職員の死生観、倫理観の形成を進め、「なおとらシート」の積極的活用を推進する。

①地域包括支援センター細江

引佐郡医師会、介護支援専門員や民生委員、住民への啓蒙啓発機会を活かし周知に努める。

②聖隷ケアプランセンターいなさ南部

利用者との契約時、モニタリング時、サービス担当者会時等に紹介、活用をすすめる。

③聖隷リハビリプラザいなさ

本人の意思決定を尊重できるように、契約時、サービス担当者会時等に確認する。

(イ) 在宅で健康が維持できるように多職種連携を推進し居場所作り等に取り組む。

①地域包括支援センター細江

地域の専門職の協力を得て、地域における介護予防事業を積極的に運営支援する。

②聖隷ケアプランセンターいなさ南部

聖隷三方原病院サテライト介護保険相談への協力や病棟カンファレンス参加を通じ、病院との関係作りを深め、エリア内の聖隷関連事業所と協力し、迅速な退院支援等を行う。

③聖隷リハビリプラザいなさ

- ・専門職の配置を強化し、算定可能な各種加算を確実に算定する。
- ・外出や買い物支援などの保険外サービス提供に積極的に取り組む。

2. 認知症要援護者、被虐待要援護者等への対応

(ア) 認知症要援護者への対応

センター全体の認知症対応力を高め、地域への支援体制を整える。

①地域包括支援センター細江

- ・認知症カフェを地域ごとにサロンなどで開催できるよう地域支援を展開する。
- ・学校等で認知症サポーター養成講座を開催し、若年者への認知症理解を広める。
- ・運転免許証の返納を支援するとともに、生活問題にならないように、地域での支援体制を整える。

②聖隷ケアプランセンターいなさ南部

- ・いなさ愛光園の各事業を積極的に活用し、認知症要援護者、家族支援を行う。特に、生活基盤の支え手として訪問介護事業がより展開できるように連携を強化する。

③聖隷リハビリプラザいなさ

認知症予防プログラムを開発し、軽度認知症利用者を積極的に受け入れる。

(イ) 被虐待要援護者等への対応

地域包括支援センター細江を中心に、エリア全体で虐待への理解を深め、ケースに合わせた柔軟な支援チームがエリアの聖隷事業所で編成できるようにする。

3. 地域防災力強化への対応

災害時の事業継続計画の運用を開始し、エリア内法人の事業所連携のあり方を継続協議する。

4. 地域における公益的な取組

(ア) ボランティアポイント事業への積極的対応をすすめる。

(イ) 元気高齢者の非専門職雇用を推進する。

【数値指標】

地域包括支援事業（地域包括支援センター細江）

市受託収入	予防支援等	内再委託件数	予防マネジメント単価	総収入	職員数（常勤換算）
47,903 （千円）	予防支援 32,88 件	2,148 件	4,390 円	77,565 （千円）	9.5 人
	マネ A 2,567 件	1,545 件	4,390 円		
	マネ B 1,755 件	— 件	2,190 円		

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンターいなさ南部）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	総収入(千円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
2,240 件	180 件	15,000 円	4,200 円	48 件	4,160	35,494 千円	5.7 名

通所介護事業（聖隷リハビリプラザいなさ）

介護給付			予防給付		単価(円)		総収入 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)		
27.5 人	708.1 人	8497.5 人	83 人	996 人	6,400 円	27,000 円	81,276 千円	18.1 名

聖隷ケアセンター三方原

訪問看護ステーション三方原
 聖隷ケアプランセンター三方原
 聖隷デイサービスセンター三方原

【事業・運営計画】

1. 浜松市北部エリアにおいて「必要とされる」ケアセンターになる
 - (ア) 介護・リハビリテーション・障害・小児ケアに関する相談窓口となる
 - (イ) 共生型サービス（自立訓練・機能訓練）に取り組む
 - (ウ) 緩和ケア認定看護師を中心として「意思決定」を支援する
 - (エ) 介護保険外サービスを継続して実施する（外出レクリエーション・買い物支援等）
 - (オ) 聖隷ケアプランセンター浜松の移転に伴い、東区を支援エリアに含めていくなど、支援エリアの見直しをする
2. 利用者一人ひとりの思いに沿ったケアを提供するための質の向上を目指す
 - (ア) テーマに沿った事例検討会を定期的開催し、振り返りをケアに活かす
 - (イ) コミュニケーション・アセスメント技術の向上を図る
 - (ウ) アウトカム評価を実施し、ケアに活かす
 - (エ) 日々の実践や成果をまとめ、事業団内外の学会で発表する
 - (オ) ICTを活用し効率的な業務改善を図る
3. 地域における公益的な取組
 - (ア) 健康秋祭り、家族会など地域の方が参加できるイベントを開催する
 - (イ) ロコモーショントレーニングサロン活動を継続する
 - (ウ) 地域の防災活動に参加し、ケアセンターとしての事業継続計画を作成する
 - (エ) ボランティアを積極的に受け入れる

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション三方原）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動収益	職員数(常勤換算)
156人	823件	9,875件	9,943円	98,250千円	15.7名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター三方原）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
2,201件	367件	15,580円	3,915円	24件	4,320円	36,582千円	5.9名

通所介護事業（聖隷デイサービスセンター三方原）

介護給付			予防給付		単価		サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(月)	予防(月)		
37人	971人	11,661人	60人	726人	6,034円	32,744円	94,587千円	16.2名

通所介護事業／共生型サービス（自立訓練・機能訓練）

1日平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動収益	職員数(常勤換算)
0.2人	4.0件	48.0件	7,440円	357,120円	16.2名

浜北愛光園

特別養護老人ホーム浜北愛光園 浜北愛光園デイサービスセンター
障害者相談支援事業所浜松東 訪問看護ステーション貴布祢
聖隷ケアプランセンター浜北 地域包括支援センター北浜
聖隷厚生園きらめき工房

2018年度は在宅・福祉サービス事業部のエリア体制が再編され、浜北愛光園は静岡第3エリアの拠点施設としての役割を担うこととなった。静岡第3エリアは、浜松市浜北区から南区、磐田市、森町と広範囲に渡っている。そのエリア内で、高齢者福祉事業と障害者福祉事業、施設サービスと在宅サービスといった制度の枠を超えた連携・連動を意識し、新たな事業を計画、実践した年度となった。この情勢下、浜北愛光園では、磐田市における訪問看護ステーションと児童発達支援を併設したこども園の開設を視野に、訪問看護ステーション貴布祢のサテライト事業所を磐田市内に開設した。更に、複合事業所が内在している利点を活かし、障害者ショートステイの利用拡大、医療的ケア児の受け入れ等、新たな地域ニーズの発掘、対応を進めてきた。また、サービスの枠組みの拡充とともに質の向上にも注視し、専門職が全ての業務を担う弊害や職員採用の困難さ等を踏まえ、必要な時間に必要な人材が投下できるように高齢者や障害者等をケアサポーターとし雇用し、プロとノンプロの業務を分離することで、業務の省力化・効率化の基盤を築いた。また、利用者満足度の向上や近い未来における組織運営の中核を育成すること等を目標に据えたプロジェクトを開始した。これらの取り組みの結果、職員が当たり前と感じていることが、利用者の当たり前と乖離していることを客観視でき、より利用者ニーズに沿ったサービスの提供へと軌道修正を図るに至った。

2019年度は、これらの動きを継承しながらも、地域ニーズの多様の変容を適切に予測、対応できるように、職員個々がより感度と精度を高めていくとともに、多様な人材を巻き込みながら質の高いサービスを創造できる仕組みを構築し、拠点施設としてエリアを下支えしていく。

【施設理念】

わたしたちは利用者と職員の「その人らしい自立（自律）」を大切にした施設づくりを追求します

【経営方針】

1. 地域共生の視点の下、複合施設としての利点を活かし、制度の枠を超えたワンストップ支援体制の構築、促進を目指す
2. 利用者、家族、地域に安全と安心を与え続けられるようサービスの質の向上に努める
3. 専門職のキャリアアップを促進しつつ、専門職以外の人材の活用や業務の省力化を図ることで、新たな働き方の創造を目指す。
4. 安定した運営が継続できるよう、適切な職員配置、コスト管理、設備改修等に努める
5. 防災・福祉拠点としての役割を果たし、地域貢献に取り組む

【年度事業目標・年度事業計画】

1. 制度の枠を超えた支援体制の構築

- (ア) 地域ニーズに合致したサービスを計画的に創造、拡充していく
(認知症対応型デイサービスの検証、きらめき工房の定員増、訪問看護の磐田市展開等)
- (イ) 高齢者福祉事業と障害者福祉事業、施設サービスと在宅サービスという制度の枠を超えたワンストップ支援体制を構築、促進するとともに、地域への周知に努める
- (ウ) 事業所種別を超えたカンファレンス等を重ね、地域課題を見通す能力を醸成する

2. 「安心して暮らし続けられる」取り組みの創出と定着

- (ア) 利用者や家族、地域の方々が求めていることと提供サービスとの差異を適時評価し、選択され続けるサービスに向けて修正を重ねることで、サービスの質の強化に努める
- (イ) リスクマネジメントを徹底し、介護者が原因となる事故の防止を図るとともに、利用者の状態変化に早期に気付き、対応することで状態悪化を抑制していく
- (ウ) 支援困難な方や医療ニーズの高い方、障害者等の受け入れを積極的に検討、実践していく。あわせて、利用率を意識した受け入れの徹底、サービス対象エリアの拡大を図る
- (エ) 個別性にクローズアップしたケアに努め、利用者の生きがいややりがいを創造する
- (オ) 利用者の生活を衣食住の根底から見つめ直し、より適切な認知症ケア、看取りケア等の提供に努める

3. 新たな働き方の創造

- (ア) 根拠を持ったケアが実践できるように、プリセプター制度等の OJT 体制を再構築する。
あわせて、資格取得や関連研修等の受講を促進し、専門性の向上を図る
- (イ) 専門職がプロとしてのケアに専念し、質の高いケアを提供できるように、業務の切り出しを徹底する。一方、プロ以外でもでき得る業務は、高齢者・障害者・子育て世代等のケアサポーターの雇用を促進する
- (ウ) 記録システムや福祉機器等の活用を図り、業務の効率化並びに業務負担軽減を目指す

4. 運営安定化の推進

- (ア) 適切な加算算定、及び効率的な職員配置が行えるように業務改善を図る
- (イ) 水光熱費、消耗備品の購入、及び外部委託業者の契約状況等を評価し、適正化を図る
- (ウ) 備品購入、設備改修の必要性を検証し、優先順位に応じた計画的な購入、改修を図る

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 静岡 DCAT メンバーを中心に地域の拠点施設として、町内会・自治会の防災訓練に参加し、地域の要支援者の避難訓練を実施する
- (イ) 浜北区障害者自立支援連絡会や各事業所連絡会を活用した合同研修会の企画、運営を通して、地域で専門職を育成することに貢献する
- (ウ) 介護未経験者や近隣企業等を対象に、情報発信、介護相談、研修会開催等を通し、介護に対する理解促進、介護離職防止等に貢献する

【数値指標】

■高齢者入所・短期入所・通所・相談支援関係事業

	浜北愛光園				デイサービス		障害者 相談支援 浜松東
	特養入所		短期入所		通所介護		
	従来型	ユニット型	従来型	ユニット型	一般型	予防	
利用者定員	50名	100名	20名	20名	40名		
利用延数	18,300名	36,600名	6,038名	5,309名	8,270名	391名	
一日平均利用者数	366名	366名	16.5名	14.5名	26.8名	1.2名	
稼働率(%)	100%	100%	82.5%	80.6%	66.9%		
稼働延日数	366日	366日	366日	366日	309日		
平均介護度	4.3	3.8	3.1	2.9	2.1		
単価(一人一日)	12,274円	13,727円	10,888円	14,195円	10,331円		
サービス活動収益 (千円)	224,617 千円	502,410 千円	65,747 千円	75,365 千円	89,485 千円		17,157 千円
職員数(常勤換算)	38.3	66.0	11.1	10.9	17.0		3.0

■訪問看護事業(訪問看護ステーション貴布祢)

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
660名	350件	4,201件	10,900円	98,307千円	13.2名

■居宅介護支援事業(聖隷ケアプランセンター浜北)

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
2,491件	247件	15,783円	3,951円	36件	4,320円	43,492千円	6.5名

■地域包括支援事業(地域包括支援センター北浜)

浜松市受託収入 (千円)	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価(円)	サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
30,000千円	3,252件	816件	4,390円	45,163千円	6.8名

■聖隷厚生園きらめき工房

	定員	利用 延べ人数	稼働率	稼働日数	単価	サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
就労移行	15名	4,055名	86.9%	311日	12,347円	50,068千円	16.7名
就労継続	25名	5,642名	72.6%	311日	9,468円	53,424千円	
生活介護	20名	2,900名	60.2%	247日	9,180円	26,622千円	
就労定着		94名		247日	25,500円	2,397千円	

森町愛光園

特別養護老人ホーム森町愛光園
森町愛光園天宮サテライト
森町愛光園デイサービスセンター
森町愛光園ホームヘルパーステーション
聖隷ケアプランセンター森町
森町愛光園在宅介護支援センター
聖隷放課後クラブはなえみ森町
聖隷相談支援事業所森町

森町愛光園を取り巻く地域環境は、少子高齢化の進行が深刻化している。森町の高齢化率は33.0%と高い中、2019年度から2023年度を計画期間として「森町地域福祉（活動）計画」が策定され、計画実行の初年度となる。森町愛光園は、高齢者福祉事業を中心に置きつつも、障害福祉事業の機能も有効活用し、森町全体の地域福祉の向上に寄与していきたい。また、森町は療育（子育て）支援や介護問題に限らず、災害対策・防犯対策等、生活問題としての課題もある中、地域共生社会に向けて、森町社会福祉協議会等と連携して、「共助」の一翼を担う組織として、地域貢献していきたい。

更に、地域が求める福祉ニーズを見出すため、公立森町病院や森町地域包括支援センターと連携し、高齢者・障害児者の在宅相談機能と施設の相談機能を強化していく。また、未就学児や特別支援学校卒業後のニーズへの挑戦のため、聖隷放課後クラブはなえみ森町の保護者、関係機関との協議の場を設ける。

最後に、森町愛光園は、森町に住む方々が“生まれてから最期を迎える日まで幸せに暮せる”ように、多様な福祉ニーズに応えることのできる事業運営を目指す。

【施設理念】

わたしたちは、ご利用者・地域・職員の「幸せ」のために最善を尽くします

【経営方針】

1. わたしたちは、利用者の尊厳を守ることを第一とし、一人ひとりのQOLの向上をめざし、誠実かつ献身的に仕えます
2. わたしたちは、福祉・介護サービスを通して、地域の人々が安心して住み続けられる社会づくりに貢献します
3. わたしたちは、質の高いサービス提供に必要な人材の確保と育成に努め、「安心と効率の追求」と「働きやすくやりがいのある職場環境」の両立を実現します
4. わたしたちは、これらのことに継続的に取り組み、創造性・持続性・実現可能性を高めてゆくことができる組織づくりを目指します。

【事業・運営計画】

1. 利用者の尊厳を守り、利用者主体の支援の実践

- (ア) 利用者一人ひとりの尊厳、プライバシーが守られるよう、接遇面の強化を図る
- (イ) 認知症の理解促進や看取りケア、重症化予防・健康管理、各種のリスク管理への取り組みを多職種協働で行う
- (ウ) 利用者一人ひとりが目標・役割を発揮でき、安心して利用できるケアの提供や環境作りを行う
- (エ) 給食委託業者との協働のもと、利用者個々へ配慮された、安全で楽しみのある食事の提供を目指す

2. 地域共生社会の実現に向けた活動

- (ア) 地域共生社会の実現のため、障害者総合福祉法・児童福祉法・介護保険法の理解を深め、各相談支援機関との連携を図る
- (イ) 隣接する森町立一宮幼稚園との交流事業を推進する
- (ウ) 聖隷放課後クラブはなえみ森町において、各小学校や天宮サテライトと連携・協働し児童の成長を支える
- (エ) 未就学児や特別支援学校卒業後のニーズに対する最善のサービスを模索し、安心して住み続けられる地域を目指す

3. 人材育成と働きがいのある職場環境の整備

- (ア) 各専門職ラダーを活用し、目標参画システムと連動させ人材育成を図る
- (イ) 介護支援システム等を活用し、業務の効率化に努め、働きやすい職場環境を構築する
- (ウ) 人事企画部人材開発課と連携し、EPA 介護福祉士候補生の就業・学習支援の強化を図る
- (エ) パート職員に対し、事業団統一資料を活用した教育を実施する
- (オ) 腰痛予防に向けて、介護ロボットの検証を推進する

4. 健全経営の推進と衛生管理・防災管理体制の向上

- (ア) 待機者が減少する中、積極的にアウトリーチを行い、情報収集・関係作りを行う
- (イ) 施設の老朽化が進む中、修繕計画、設備更新計画を在宅・福祉サービス事業部運営管理部と連携して推進する
- (ウ) 介護保険外サービスの開発を検討する
- (エ) 消費増税に適切に対応していく
- (オ) 利用者・職員の集団感染を防ぐとともに、誤嚥・窒息対応の勉強会を開催する
- (カ) 自然災害発生時に備え、地域との連携促進、ライフラインに支障が出た場合の対応方法の可視化を図る

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 森町役場、森町社会福祉協議会等と連化し、「森町地域福祉計画・地域福祉活動計画」の推進に寄与する

- (イ) 地域包括ケアシステム構築に向けたネットワーク作りのため、「森町在宅医療・介護連携推進事業」へ参画する
- (ウ) 地元小学校・中学校からの福祉体験、職業体験の受入や、高校や福祉系学校の介護実習、ボランティアの受入を行う
- (エ) 地域と施設が繋がりを持てるよう、福祉・介護相談や住民内覧会の開催を行う

【数値指標】

	特養		天宮サテライト	短期入所	通所介護		
	従来型	ユニット型	ユニット型	従来型	介護	予防	
利用者定員	60名	20名	29名	12名	42名		
利用者延べ数	21,612名	7,170名	10,372名	3,440名	8,125名	649名	
1日平均利用者数	59.0名	19.6名	28.3名	9.4名	26.3名	2.1名	
稼働率	98.4%	98.0%	97.7%	85.4%	67.6%		
稼働日数(延べ)	366日		366日	366日	309日		
単価(一人一日当り)	12,674円		13,872円	10,645円	10,376円		
サービス活動収益(千円)	364,806千円		143,884千円	36,619千円	91,044千円		
職員数(常勤換算)	39.9名	14.0名	21.5名	6.8名	14.8名		
	在宅介護支援センター	居宅介護支援		訪問介護			介護合計
		介護	予防	介護	予防	障害	
利用者定員							
利用者延べ数		2,016名	234名	4,415名	660名	352名	
1日平均利用者数				12.3名	1.8名	1.0名	
稼働日数(延べ)					360日		
単価(一人一日当り)		14,912円		4,043円	3,443円		
サービス活動収益(千円)		33,552千円		20,517千円	1,212千円	691,634千円	
職員数(常勤換算)	0.1名	5.0名		6.0名			108.1名
	放課後等デイサービス	相談支援事業		障害			合計
		特定相談	障害児				
利用者定員	10名						
利用者延べ数	2,490名	60人	63人				
1日平均利用者数	10.3名						
稼働率	103.3%						
稼働日数(延べ)	241日						
単価(一人一日当り)	10,232円						
サービス活動収益(千円)	25,479千円	1,851千円		27,330千円			
職員数(常勤換算)	5.1名	1.0名		6.1名			

聖隷ぴゅあセンター磐田

聖隷こども発達支援センターかるみあ

聖隷放課後クラブはなえみ磐田

相談支援事業所磐田みなみ

聖隷チャレンジ工房磐田

聖隷こども発達支援事業所かるみあ豊田

磐田市発達支援センターはあと

磐田市子育て支援総合センターのびのび

磐田市南部地域包括支援センター

磐田市南部障害者相談支援センター

2018年度、「聖隷ぴゅあセンター磐田」は保護者や子どもたちが“働くイメージ”を持てるよう就労棟・児童棟が意図的に触れ合う機会を設けた。また放課後等デイサービス事業では、待機児童への対策として定員を10名から20名に増加し、少人数での集団療育を開始した。児童発達支援事業ではアセスメント時に使用する客観的な指標の導入を行い、子ども理解に重点を置いた。

2019年度は、高齢者地域包括支援センター・障害者相談支援センターの受託開始、子育て支援総合センターのびのびの編入と新たな事業体を迎えスタートする。2020年度開園予定の富丘複合施設（仮称）の準備を行うとともに、磐田地区において何が必要とされているのか近い未来を想像できるよう保護者や利用者の声と向き合いながら、積極的に地域と関わる機会を増やしていく。そこで、①利用者満足度の高いサービスの提供、②地域からの要請に応じたサービス展開③生産性・効率性の向上と経営の安定化の3点に重点を置き、取り組む年とする。

【施設理念】

ご利用者が“その人・その家族らしく”「生きる力」を培い、地域の一員となるために、わたしたちはこどもから大人まで途切れの無い一貫した支援を提供します。

【経営方針】

1. 利用者満足度の高いサービスを提供する
2. 地域からの要請に応じたサービス展開
3. 生産性・効率性の向上と経営の安定化
4. 地域における公益的な取組

【事業・運営計画】

1. 利用者満足度の高いサービスを提供する
 - (ア) 子どもへの発達支援
 - ① 客観的な指標を基に、領域・キャリア教育を意識した療育プログラムを作成する
 - ② 子どもの能力・言動を引き出せるよう、職員が子どもの反応、行動を見る力を培う
 - ③ 季節や年齢に応じた行事、地域との関わりを大切にしたイベントを企画する

- ④ 職員はペアレントプログラムの視点を身に付け、様々な場面で活用する
- (イ) 家族支援の充実
 - ①保護者が子どもの特性と成長と将来について言語化できるような関わりを行う
 - ②家庭訪問・保護者懇談会・保護者満足度評価にて、保護者の思いや願いを引き出す
 - ③保護者同士がつながりを感じることができる行事、楽しめる行事を企画する
- (ウ) 高水準の就職実績と工賃実績
 - ①計画や実行を利用者と一緒に考え、成果をより実感できるようにする
 - ②就職者を輩出し、「働く」姿を具現化する
 - ③利用者が働く喜びとやりがいを体現し、やる気を高める就労モデルの実行
- (エ) 磐田市発達支援センターはあと
 - ①環境アセスメントを強化し、相談者・関係機関が実行可能な助言を行う
 - ②園・学校の「バックアップ機能」が果たせるよう、関係各課と連携体制を整える
- (オ) 磐田市南部地域包括支援センター・磐田市南部障害者相談支援センター
 - ①アウトリーチを基本とし、関係機関と顔の見える関係づくりを行う
 - ②領域に捉われず、地域課題にタイムリーに対応できる体制を整える
- (カ) 磐田市子育て支援総合センターのびのび
 - ①出会いの広場、父親支援、祖父母支援を通して、子育ての孤立感を防ぐ
 - ②ファミリーサポートセンター事務局として、職員対応システムを構築する
 - ③乳幼児一時預かり保育における柔軟な対応（時間外・延長）ができる体制を整える
- 2. 地域からの要請に応じたサービスの展開
 - (ア) 各事業体が捉える地域課題に対し、拠点としてできることを職員が考える場を設ける
 - (イ) スムーズな移行・統合となるよう富丘複合施設（仮称）の開園準備を行う
 - (ウ) 災害発生時の初動、発災後数日間についての対応について再考し防災対策を強化する
- 3. 生産性・効率性の向上と経営の安定化
 - (ア) 目標稼働率・2020年度稼働を意識し、新規受け入れ枠の検討を行う
 - (イ) 職員一人ひとりが主体的に行動できるよう、業務分掌・職場目標管理を行う
 - (ウ) 各職員の専門性が発揮できるよう、業務の流れを検証、再編する
- 4. 地域における公益的な取組
 - (ア) 研修講師・施設見学や実習・ボランティアを積極的に受け入れる
 - (イ) 地域イベントに参加し、情報発信を行う
 - (ウ) 磐田市と協議し、私立幼保に対するコンサルテーション・地域の事業所を対象とした勉強会を実施する
 - (エ) 磐田市子育て支援総合センターのびのびの休館日を活用し、発達が気になる親子の療育と集いの場を設ける
 - (オ) 地域の交流センターにおいて、他世代間の交流の場作り、みんなの居場所作りを行う

【数値指標】

	かるみあ 児童発達	かるみあ 保育所等	磐田みなみ (特定)	磐田みなみ (障害児)	チャレンジ 就労移行	チャレンジ 就労継続	チャレンジ 生活訓練	チャレンジ 定着支援
利用者定員	30名	—	—	—	14名	10名	6名	—
利用者延べ人数	7,168名	450名	—	—	4,612名	2,588名	326名	—
一日平均 利用者数	30.5名	—	—	—	17.0名	9.5名	1.4名	—
稼働率	101.7%	—	—	—	121.1%	95.1%	22.8%	—
稼働日数(延べ)	235日	235日	—	—	272日	272日	238日	—
単価 (一人一日当り)	14,412円	10,678円	—	—	7,520円	7,977円	7,641円	—
サービス 活動収益	113,921 千円	4,804 千円	1,384 千円	4,793 千円	61,680 千円	29,734 千円	2,515 千円	1,754 千円
常勤換算職員数	20.5名	1.2名	1.1名		6.3名	3.4名	1.3名	0.5名

	はなえみ 放課後デイ	豊田 児童発達	豊田 保育所等	はあと	のびのび	南部包括	南部相談
利用者定員	20名	10名	—	—	—	—	—
利用者延べ人数	4,640名	2340名	345名	—	—	—	—
一日平均 利用者数	19.7名	9.9名	—	—	—	—	—
稼働率	98.7%	99.6%	—	—	—	—	—
稼働日数(延べ)	235日	235日	—	—	—	—	—
単価 (一人一日当り)	9,994円	13,873円	—	—	—	—	—
サービス 活動収益	46,846 千円	33,750 千円	3,868 千円	32,454 千円	20,964 千円	22,008 千円	10,446 千円
常勤換算職員数	10.1名	5.8名	0.6名	8.0名	5.7名	3.0名	2.0名

浅田地区在宅複合事業

訪問看護ステーション浅田
 聖隷ケアプランセンター浅田

【事業・運営計画】

1. 浜松・磐田の南部地区の病気や障害を持った方々が安心して暮らせるよう、地域包括ケアシステムを意識した事業所づくりに取り組む
 - (ア) 浜松・磐田の南部地区の病院・地域包括支援事業所・障害者相談支援事業所に向けて、困難ケースの積極的な受入れをアピールする
 - (イ) 病院・他事業所と地域支援について話し合う場を設け、顔の見える関係作りを行う
 - (ウ) 末期や難病の新規依頼を全て受け入れ、浅田の2事業所が一体となり支援する
 - (エ) 利用者の意思を折あるごとに確認し、多職種間で共有し、チームでの支援に繋げる
2. 質の高い支援ができるよう、一人ひとりが在宅事業のプロフェッショナルになる
 - (ア) 各方面の研修に参加し、その学びを職場会や専門分野の勉強会にて報告する
 - (イ) 日々の体験の中で学ぶ姿勢（Do→Look→Think→Grow）を身に付ける
 - (ウ) 実践で感じた疑問・葛藤を言葉にし、倫理原則等で振り返り、倫理的感受性を高める
3. 地域における公益的な取り組みとして、地域とのつながりを強め、意識的に地域支援を行う
 - (ア) 地域の防災活動に参加する
 - (イ) 都盛町老人会にて保健指導や介護療養相談を実施する
4. 経営を意識して業務の効率化を図る
 - (ア) 質の向上や業務の効率化のために導入したツールを使いこなす
5. 防災への取り組みを複合事業所として実践する
 - (ア) 事業所内の防災体制を見直し、防災訓練を実施する
 - (イ) 独居や医療機器利用者のリストを作成し、緊急時連絡方法を確認する
6. 磐田での在宅福祉サービス事業の土台作りに、訪問看護を通して参加する

【数値目標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション浅田）

平均利用者	月平均 訪問件数	年間 訪問件数	単価	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
158名	822件	9,872件	9,623円	96,914千円	11.8名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浅田）

年間請求件数		平均単価（円）		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
1,064件	240件	14,500円	3,951円	0	0	16,872千円	3.0名

静岡県立浜松学園

静岡県立浜松学園は、1966年9月、浜松市豊岡町に「知的障害児入所施設」として開園。その後、1997年1月に浜松市都田町に移転し、「知的障害者授産施設」に種別を変更。2008年4月には、就労移行支援と施設入所支援を提供サービスとする新事業体系に移行し、「障害者支援施設」に種別を変更した。

このように、地域ニーズを汲み取りながら、運営され続けてきた静岡県立浜松学園は、指定管理者制度が導入され、2019年度から施設の指定管理者として聖隷福祉事業団が選定された。これらの長い歴史と重い伝統を不安や混乱なく継承し、安定した運営を行うことを第一義に据え、時代や地域ニーズの変容を適切に把握し、漏らすことなく対応していきたいと考える。

そのためには、一事業所にて完結するのではなく、多くの法人内事業所との連動を模索しながら、多種多様なニーズに対応でき得る力を強化し、総合的な事業展開への礎を築く一年としたい。主として、安全・安心な事業の継承、現状分析並びに将来に向けた取り組みの開始、地域ニーズの把握と新たな価値の創造の3つに重点を置き、聖隷福祉事業団だからこそ可能な静岡県立浜松学園の新たな形を創造していきたい。

【施設理念】

『働く』・『暮らす』 — その人らしい未来を描けるようともに歩む —

【経営方針】

1. 安全・安心に事業を継承する
2. 現状を分析し、将来に向けた取り組みを開始する
3. 地域ニーズを把握しながら、新たな価値を創造する
4. 地域における公益的な取組

【事業・運営計画】

1. 安全・安心な事業の継承
 - (ア) “生きる力”を身に付けることができるような支援に努める
 - ①リビングスキル（生活スキル）、余暇を楽しむスキルを身に付ける
 - ②選択する力や最後まで責任を持ち行動する力を培う
 - ③自分を大切にしつつ、人と関わるコミュニケーション力を培う
 - (イ) 家族支援の充実を図る
 - ①安心して学園生活から送り出すことができるよう、創意工夫した情報交換を行う
 - ②子どもの特性を理解し、自立に向け協働できる関係性を築く
 - (ウ) 目指す社会人像を利用者自身が明確にする
 - ①作業訓練を通して、利用者が自身の得手不得手を理解できるよう振り返りを行う
 - ②成果・難しさと楽しさを実感できるよう、グループワークにて協働作業を行う
 - ③利用者が“働くイメージ”、“就職して叶えたい夢”を共有できるよう体験活動を行う

- (エ) 対象者像の明確化、及び新規受け入れルートの確立を図り、稼働の安定に努める
- (オ) 職員一人ひとりが主体的に行動できるよう、業務分掌・職場目標管理を行う

2. 現状分析、将来に向けた取り組みの開始

(ア) 社会情勢に合わせた作業種目の導入

- ① パソコンやスキャナー等を活用した訓練種目を導入する
- ② 聖隷コミュニティケアセンターの倉庫管理、介護用品やレンタル物品の管理委託業務を行う。その上で、物流拠点となり得るような新規事業を検討する

(イ) 新たな働き方・働き場所の構築

- ① 地域の企業等との顔の見える関係を構築し、新たな職場を開拓する
- ② 法人内事業所との協力体制を整え、職場実習等を通して、新たな働き方を創造する

3. 地域ニーズを把握し、新たな価値を見出す

- (ア) 中学・児童養護施設卒業後の進路に困難を抱える児童に関する受け入れ体制を提案する
- (イ) 療育手帳 B3 取得児童の自立に向けて必要な支援を提供できるよう体制を整える
- (ウ) 運営協議会を設立し、地域の声を吸い上げ、新たな価値を見出す

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 施設見学や実習・ボランティアを積極的に受け入れる
- (イ) 災害発生時の初動、発災後数日間についての対応について再考し、防災対策を強化する

【数値指標】

	施設入所支援 (指定管理)	就労移行 (指定管理)	就労定着支援 (指定管理)	就労移行 (自主事業)
利用者定員	60名	60名	20名	20名
利用者延べ人数	4,689名	4,106名	60名	588名
一日平均 利用者数	12.8名	16.1名	一名	4.7名
稼働率	21.4%	26.8%	—%	23.3%
稼働日数(延べ)	365日	255日	一日	126日
単価 (一人一日当り)	4,542円	5,987円	12,827円	8,006円
サービス 活動収益	66,177千円	58,333千円	758千円	5,726千円
常勤換算職員数	8.6名	8.7名	一名	5.2名

浦安市高洲高齢者福祉施設及び 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

浦安市ケアハウス

浦安市高洲高齢者デイサービスセンター

浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市高洲地域包括支援センター

浦安市の高齢化率は2018年度に17%を越えた状況であり、他の地区と比較すると今後高齢者福祉が充実されることとなる。他の地区での既存サービスの実績を踏まえながらも、より新たなサービスを提供できる好機と捉え、また浦安市民から求められている障がい福祉への参入とともに提供すべき新規事業を検討・計画していきたい。一方、介護を主とした人材の確保は年を増すごとに厳しい状況が継続している。事業の継続と新規事業へ挑戦するために、専門職の育成と確保をした上で介護周辺業務の推進、介護支援システムによる業務の省力化を継続し、2019年度は介護ロボットの導入についても検討を開始したい。

【施設理念】

“私たちは、地域（市民）とともに高齢者福祉に貢献する”

【運営方針】

1. 私たちは、一人ひとりを知りその人らしい生活が続けられるよう支援します
2. 私たちは、ご利用者・ご家族（関わりのある方々）の思いを理解し、実現に向けて共に支援します
3. 私たちは、その人らしい最期の時をご家族（関わりのある方々）と共に支援します
4. 私たちは、職員一人ひとりが専門性を高め、人として成長するために常に研鑽します
5. 私たちは、一人ひとりが地域の社会資源として自覚し役割を果たします

【事業・運営計画】

1. 入居者・利用者が安心安全に生活できるよう、個々のニーズに合ったサービスを提供する
(ア) 特別養護老人ホーム・短期入所生活介護
 - ① ICFの視点を活かし、その人らしい個別サービス計画書を作成、実施、評価する
 - ② 予防の視点を持ってアセスメントでき、多職種で適切な健康管理とケアの実施ができる
 - ③ 状態変化時は、家族に分かりやすい情報提供をした上で、家族を交えた多職種の話し合いを行い、その人らしい「人生の最終段階における医療とケア」が選択できるようにする
 - ④ 嚥下プロジェクト委員会を中心とした嚥下評価が計画的に多職種で実施でき、安全な経口摂取ができるケアプランの立案とプランに沿ったケアが提供できる

(イ) ケアハウス

- ①入居申込・退去要件に応じたパスの実施と検証を行う
- ②入居者の状態に応じた機能維持を図るとともに、生活不便を低減する
- ③リスクマネジメントに関する入居者への啓蒙・啓発と予防を強化する

(ウ) 通所介護

- ①利用者個々の目的に沿った機能訓練を実施し、日常生活機能の向上を図る
- ②多職種と連携し利用者の健康管理と送迎時の安全に心がけ安心・安全なサービスを提供する

(エ) 地域包括支援センター

- ①地域の関係者とともに、浦安の特性を踏まえた新たなサロン活動を行い、情報収集および発信、地域作りのつなぎの機能を果たす
- ②浦安のモデル地区となるよう地域ケア会議の積極的開催を通して、地域の課題解決に積極的に取り組む

2. 職員が専門職としてやりがいを持って仕事に取り組むことができる

- (ア) 各専門職のラダーを適正に運用することで、個々の実践能力を客観的に評価し、やりがいに
つなげる
- (イ) 施設や職員にとって必要な研修を浦安地区で検討し、ケアの質の向上を図る
- (ウ) ラダーや目標参画と連動しながら、人材育成のための外部研修参加を計画的に考え、施設内
にフィードバックする
- (エ) 介護支援システム、介護ロボット、福祉用具などの職場環境を見直し業務改善した上で、適
正な人員配置の見える化をする
- (オ) EPA 候補生を継続的に受け入れ、育成する仕組みと環境を施設全体で整備する

3. 経営の安定化を図る

(ア) 特別養護老人ホーム

- ①入院に至った原因の評価を行い、入院期間の短縮を目指し病院との連携を図る
- ②新規入所までの空床期間を 2018 年度平均 7.23 日から 7 日以内に短縮する
- ③口腔衛生管理加算、経口維持加算の算定をしていく

(イ) 短期入所

- ①新規入所者の定着化と緊急利用受入れの際の迅速な調整、支援を行う

(ウ) ケアハウス

- ①入居に至らない方、退去が必要な方への情報提供等適切な対応を強化する
- ②視聴覚障害のある方の安定した生活を構築する
- ③地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、その他の専門機関との連携を強化する
- ④入居者の社会性維持・閉じこもり予防のために、地域交流を強化する
- ⑤空床期間の短縮に向け待機者への関わり方を改善・強化する

(エ) 通所介護

- ① 独居・老老介護世帯等への低栄養・体調管理対策である朝食・服薬管理サービスの拡大を
図る

- ② サブスタッフを活用した通所介護 A 型の取り組み等、地域力を活かした新たな通所介護の運営の検討をする
- (オ) 介護支援システムの活用、介護周辺業務を整理して長時間労働の適正化を図る
- (カ) ICT 介護ロボットの導入を検討し業務効率と生産性の向上を図る

4. 防災体制の確立

- (ア) 高洲地区一体となった防災訓練を行い、地区内施設間の連携強化と管理者不在時でも職員が自立して行動することが出来る体制作りを重点に訓練を行う
- (イ) 防犯（不審者対応）マニュアルを確立し、必要物品の整備を行う

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 各専門職の実習・職場体験、ボランティアの積極的な受け入れを行う
- (イ) 地域行事への参加および施設行事への参加呼びかけを行う
- (ウ) 障がい者雇用を継続して法定雇用率を達成する
- (エ) 浦安市高洲南地区コンソーシアムに参加し、地域のニーズへ具体的な取組みを検討する

【数値指標】

	特養	短期	ケアハウス	高洲デイ	猫実デイ	地域包括	地域包括(予防)	総合計
利用者定員	100名	50名	50名	25名	25名	—	—	250名
利用者延数	35,136名	16,104名	17,568名	6,114名	5,842名	—	—	
一日平均利用者数	96名	44名	48名	20名	19名	—	—	
稼働率(%)	96%	88%	96%	79%	76%	—	—	
稼働日数(延べ)	366日	366日	366日	309日	309日	—	—	
単価 (一人一日当り)	—	—	—	—	—	—	—	
サービス活動収益	549,186千円	236,410千円	101,789千円	47,466千円	57,936千円	28,029千円	4,974千円	1,025,790千円
職員数 (常勤換算)	66.4名	33.4名	7.9名	7.9名	10.8名	4.0名	0.6名	131.0名

介護老人福祉施設 浦安愛光園

障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ浦安

2019年度は共生型サービスが開始され2年目を迎える。障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ浦安の機能強化と福祉ニーズを見出し地域共生社会の実現のため高齢者・障害者への総合的なサービス構築を高洲地区で提供していく。一方、直面する高齢化の中で人口減少が進行していく2025年問題や働き方改革に対しては2040年を見据え、今まで取り組んできた高齢者・障害者・外国人の採用やICT化を更に進め、新たに一部介護ロボット導入を模索しながら浦安市の実情に応じた体制整備や人材確保を継続する。

福祉ニーズが多様化・複雑化していく中でサービスの質を維持するためリスク管理体制の見直しを最優先とし、安心・安全なサービスを提供できる土台から作り直しを行い、期待されるサービスに応え、期待以上のサービスを提供していく1年とする。

地域福祉については浦安市のコンソーシアム構想の中で高洲南地区として健康・福祉の拠点となるよう協力していく。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業・運営計画】

1. 安心・安全で信頼されるサービスを提供する
 - (ア) 介護支援システムの活用範囲を拡大し、迅速な情報共有からリスクを回避する
 - (イ) 災害・感染・事故のマニュアルを再検討しリスク管理を徹底する
 - (ウ) エンディングノートを完成させ、その人らしさを尊重したターミナルケアを実践する
 - (エ) 認知症介護実践リーダー研修修了者を中心にパーソン・センタード・ケアを実践する
2. 人材の育成と働き方改革への挑戦
 - (ア) 年間研修計画に沿った育成を行い、不参加の職員へのフォローは研修資料を活用し伝達講習を実施する
 - (イ) 講義だけでなくロールプレイをできるだけ取り入れる研修を意識し、再発防止策の徹底と危険予測ができる職員を育成する
 - (ウ) 経験年数の少ない職員のサービスの質を向上するためOJTの手法をフロア単位で可能か検討し実践する
 - (エ) 身近なところに目標とする職員がいる施設を目指し、ロールモデルを推進する

- (オ) 一人当たり月1日以上の有給取得と1時間以上の超勤を2018年度比20%削減し、働きやすい環境をつくる
3. 地域共生社会の実現のため関係機関との連携を強化し、利用者のニーズに即したサービスを提供する
- (ア) 空床を利用し障害ショートステイを継続する
- (イ) 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ浦安・浦安市高洲地域包括支援センター・聖隷ケアプランセンター浦安と連携し「要介護」「要支援」「障害福祉」のニーズに応える体制を構築する
- (ウ) 障害者・児の聖隷訪問看護ステーション浦安・浦安ベテルホーム・浦安愛光園へのサービス利用までのモデルプランを構築する
- (エ) 65歳到達時の障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行を円滑に実施する
4. 経営を安定させる
- (ア) 入居及び空床ショートステイの稼働率97.5%以上を維持する
- (イ) 介護周辺業務、障害者雇用を継続し適正な人員配置を行う
- (ウ) ICTの活用を継続するとともにロボットの導入を検討し業務効率と生産性の向上を図る
5. 地域における公益的な取組と地域貢献
- (ア) 介護保険利用者負担軽減制度の継続
- (イ) 障害者のボランティアや職場体験を高洲地区で実践する
- (ウ) 高洲中学校特別支援学級との交流を継続する

【数値指標】

	特養 (ユニット型)	はぐくみ浦安	総計
利用者定員	74名	-	-
利用者延べ人数	26,395名	203名	26,598名
一日平均利用者数	72.1名	-	-
稼働率	97.5%	-	-
稼働日数(延べ)	366日	246.5日	-
単価(一人一日当たり)	14,446円	14,775円	-
サービス活動収益(千円)	381,315千円	2,999千円	384,314千円
職員数(常勤換算)	48.2名	1.1名	49.3名

介護老人保健施設 浦安ベテルホーム

2018年度は、介護報酬・診療報酬改定がなされ、老健としての役割の原点である、在宅生活支援・在宅復帰支援機能とリハビリテーション機能がより評価される仕組みとなり、元々その機能を発揮することに多職種連携で取り組んでいた当施設においては、利用者が求めるサービスを提供し続けることによって、2017年度同様に収支を合わせる事ができた1年であった。

2019年度は、4月に城東桐和会タムス浦安病院（回復期リハビリテーション、地域包括ケア病棟他）が200床で開設され、地域における利用者の流れが変化していく中、当施設は利用者一人ひとりがその人らしい生活を送れるよう、環境や仕組みを再構築し、地域の期待に最大限応えていく。また「働き方改革」法改正に伴い、働きやすい職場づくりに職員・施設が一丸となって挑戦し、それと並行して人づくりにも積極的に投資をして、各職種がその専門性を十二分に発揮するプロフェッショナル集団になるべく、1年間取り組みたい。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業・運営計画】

1. 利用者個々のニーズに合わせた“その人らしい”在宅生活、施設生活支援の実践
 - (ア) 入所と在宅サービスの交互利用（ミドルステイ）について、パンフレットに可視化し地域への周知活動を継続的に行い、交互利用の新規利用者を10名/年確保する
 - (イ) 利用者ニーズに合わせた在宅復帰・在宅生活の支援のために、施設ケアマネジャーを中心としたタイムリーな多職種協働、連携の仕組みを作る
 - (ウ) 短期入所窓口業務を充実させて、ユニット型に加えて従来型でも受入れを拡大する
 - (エ) 談話室を一部整備し、生活行為（家事動作、洗濯、調理、買い物等）訓練を実践する
 - (オ) 通所リハビリテーションにおいて、生活行為向上リハビリテーションや社会参加支援のための訓練を実践する
 - (カ) 利用者個々の「活動・参加」への意向に沿ったレクリエーションを計画、実践する
2. 未来の施設運営を担う人材が、専門性と自己実現を追求し働き続けたいと思う職場の創造
 - (ア) 利用者のアセスメント能力やリスク管理能力向上のための教育を行い、利用者のニーズや状態に合わせたサービスの実践力を養う
 - (イ) 年間研修計画を基に、事業団内部研修のみならず、外部研修にも積極的に参加（2018年度比150%）させ、職員個々の能力とモチベーション向上を図る

- (ウ) 全職員へサービス接遇教育を実施し、利用者との信頼関係を構築する資質の向上を図る
- (エ) 連続休暇を希望する全職員が4日以上連続休暇(年1回以上)を取得する
- (オ) メンタルヘルス不調者0名、再検査受診率100%を目標に、健康経営を実践する

3. 更なる経営安定化へのチャレンジ

- (ア) 地域への更なる浸透を図り、入所、短期入所の稼働率年間87%以上を達成する
 - ①入所件数の安定確保(12件/月平均)
 - ②超強化型(ユニット型)、在宅強化型(従来型)への移行
 - ③各種加算の適正な算定と継続(単価増)
 - ④障害者ショートステイ受入れ継続(3件/月)と医療型取得への体制づくり
- (イ) 通所リハビリテーションにおいて、短時間型サービスを浸透させる(5名/日)
- (ウ) 介護支援システムの更なる活用や、5S活動(整理・整頓・清潔・清掃・躰)を通じて業務整理を徹底し、2018年度より超勤を一人当たり30%/月、削減する
- (エ) 職員の健康・リスク管理能力を高めることにより、感染症や転倒による入院、レベル3以上の事故を2018年度比50%削減する

4. 防災・防犯体制の強化

- (ア) 高洲地区一体となった防災訓練を継続実施し、実際有事の際、職員が各々自立して行動できるようになるまで、徹底して訓練を行う
- (イ) 不審者対応訓練の継続実施と必要物品を整備する

5. 地域における公益的な取組と地域貢献

- (ア) 生活保護受給者の受入れ、無料又は低額老人保健施設事業の基準(10%)を満たした運営を行う
- (イ) 地域福祉に資する「介護フェア」を年2回、「出前講座」を年2回実施する
- (ウ) 地域の小中学校生徒の職場体験実習を継続して受入れる
- (エ) 利用者と地域社会とのつながりを維持するために、ボランティアを年間20件受入れる

【数値指標】

	ホテルホーム入所	ホテルホーム短期	通所リハビリ	総計
利用定員	100名			145名
利用者延べ数	30,744名	1,098名	11,124名	42,966名
一日平均利用者数	84.0名	3.0名	36.0名	123名
稼働率	86.0%			—
稼働日数(延べ)	366日			—
単価(1人1日当り)	14,979円	18,168円	11,035円	—
サービス活動収益(千円)	484,508千円			613,965千円
職員数(常勤換算)	60.0名			77.4名

浦安せいれいクリニック

【事業・運営計画】

1. 地域における医療資源として、診療体制を継続する
2. 利用者、入居者、地域住民への初期診療の役割を担う
3. 健康診断（雇入れ時健康診断等）や予防接種の実施
4. 高洲南地区において実施される地域貢献イベントへの参画と地区における感染症の拡大防止に貢献する

【数値指標】

一日平均 利用者数	年間 利用者数	稼働日数	単価 (1人1日当り)	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
6.2名	1,488名	240日	3,200円	8,214千円	2.3名

聖隷ケアプランセンター浦安

【事業・運営計画】

1. 地域包括ケアシステムの遂行と役割を明確化する

(ア) 安心して最期まで自宅で生活ができるように地域づくりの一翼を担う

①個別ケースを基に地域ケア会議に参加し、介護支援専門員からの視点を発信して地域の方々と社会資源について検討をする

②浦安市高洲地域包括支援センター・障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ浦安と連携し、「要介護」「要支援」「障害福祉」の利用者ニーズに応える

③老人保健施設と併設している強みを活かし、在宅復帰ケースを充実させていくと共に、2019年4月から開設するリハビリテーション病院（城東桐和会タムス浦安病院）との連携を図る

2. 専門性の高い人材の育成

(ア) 市内で事例検討会を開催し、知識や技術の向上を図る

(イ) 相談支援スキルラダーを活用して相談援助技術の向上を図る

3. 安定した経営

(ア) 個々の業務量、時間管理などを見直し、超過勤務を2割削減する

(イ) 2020年度特定事業所加算Ⅳが取得できるように市内の病院との連携を強化して看取りのケースを積極的に受け入れる

4. 地域における公益的な取組

(ア) 浦安市高洲地区の地域貢献イベントに参加をして、次世代を担う人たちに介護の仕事を知ってもらうように働きかける

【数値指標】

一日平均利用者数	年間利用者数	稼働日数	単価 (1人1日当り)	サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
—	1,740名	246.5日	15,787円	27,469千円	4.5名

聖隷訪問看護ステーション浦安

【事業・運営計画】

1. 当施設の特徴を生かし、地域が必要としているニーズに柔軟に対応できる訪問看護ステーションになる
 - (ア) 認知症・ターミナル・精神障がい、アロマケアの訪問看護ケアを充実させる
 - (イ) 東京海上日動ベターライフサービス株式会社との更なる協働を進め、法人の枠を越えて地域を支援する体制を構築する
 - (ウ) 他法人と協働で研修会や情報交換会を行い、浦安地区全体の訪問看護の質の向上を図る
2. 東京海上日動ベターライフサービス株式会社とケアローソンと協働し、10月に聖隷訪問看護ステーション浦安サテライト稲毛海岸（仮称）を開設し、新たな訪問看護ステーションとしての運営形態を構築する
 - (ア) 4月から千葉市へ営業エリアを拡大し、病院や居宅介護事業所への営業活動を行う
 - (イ) 開設に向けて4月から利用者を獲得していく
 - (ウ) 新たな職員を採用し、採用教育プログラムに沿ってOJTなどを行い、訪問看護の質を確保する
3. 職員がやりがいを持つことができ、働きやすい職場を作る
 - (ア) 目的と使命を職員全員で共有し、目標参画・ラダーを活用して、個々の役割を実践する
 - (イ) 各々の職員の得意分野を生かし、研修などを通して学び、職場全体の知識・技術が向上する教育体制を進める
 - (ウ) 介護支援システムの活用やスケジュール、記録の省力化を図り、効率の良い業務内容を行い、良いワークライフバランスにつなげる
4. 地域における公益的な取組
 - (ア) 地域住民が健康や介護へ関心が持て、住みやすい街になるよう、地域主催のイベントに健康相談を行うために参加する

【数値指標】

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動収益	平均職員数 (常勤換算)
115名	570件	6,850件	9,827円	67,313千円	9.8人

介護老人福祉施設 松戸愛光園

特別養護老人ホーム松戸愛光園
松戸愛光園ショートステイ
松戸愛光園デイサービス
松戸愛光園ケアプランセンター
障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ松戸

2019年度の松戸愛光園は多様な地域のニーズを受入れ、新たな地域での役割を担っていく。

2018年度には通所介護事業での共生型サービスを地域で先駆けて開始し、障害者（児）相談支援事業、短期入所事業を含め、地域の障害者（児）を積極的に受入れ地域共生社会の実現に向けて事業を進めてきた。2019年度は高齢者、障害者（児）の事業を更に充実したものとし、将来を見据えた事業展開を行う。また、これらの事業を担う人材確保・育成を進めて、多様な福祉ニーズを担う職員の育成を行う。

今後も地域の方々と一緒に、地域に必要な福祉サービスの提供を職員一丸で取り組んでいく。

【施設理念】

『一人ひとりの生命と尊厳を守り、利用者主体の自立生活支援を追求する。』

【経営方針】

1. あなたらしい生活の継続
2. あなたと共に歩んできた方々と一緒に
3. あなたを思いやる気持ちを忘れない
4. あなたらしい最期の支援
5. 地域の皆さんと共に

【事業・運営計画】

1. 地域ニーズに合わせた高齢者・障害者サービスの提供
 - (ア) 短期入所、通所介護共生型サービスに地域の障害者受入れ、地域で必要とされている障害者事業を検討し開設準備をすすめていく
 - (イ) 通所介護では認知症予防、機能訓練等の取組を充実し、軽度から重度の状態にある高齢者が安心して利用を続けられるようにする
 - (ウ) 特別養護老人ホームでは看取りケアの充実を図り、重度化している高齢者の終の棲家としての役割を担っていく
 - (エ) 居宅介護支援事業と相談支援事業との更なる連携を図り、地域で年齢や制度による垣根のない相談窓口としての機能を発揮していく
 - (オ) 特別養護老人ホーム3床増床とショートステイ1床増床を行い、高齢者数が増加する地域のニーズに応える

2. 多様な人材が活躍できる職場づくりと人材育成

- (ア) 2018年度に続き EPA 介護福祉士候補生の受入れを行い、外国人の人材が働きやすい職場づくりを進めていく
- (イ) 介護業務の仕分けを進めて、高齢者や障害者などの多様な人材が活躍できるようにする
- (ウ) 効率化を意識した記録システムの活用やロボット等導入を検討・実施する
- (エ) 各職場の連携や業務改善を行うことで、働きやすい職場づくりを進めて離職防止に繋げる
- (オ) 次世代リーダー職員の育成を進めると共に、多様な福祉ニーズを担える職員の育成を行う
- (カ) 各学校等からの見学や実習を積極的に引き受け、地域の介護人材育成に取り組む。また、実習受け入れ施設としての発信を続けて人材の確保につなげていく

3. 将来を見据えた計画的な整備更新

- (ア) 更新時期を迎えた空調設備、厨房機器、エレベータ等について、計画的に設備更新を行う
- (イ) 老朽化した外壁の修繕を行う
- (ウ) 施設の防犯体制を維持できるように電子錠設備更新を行う

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 松戸ニッセイエデンの園と共に、チャリティバザー開催や祭りの相互協力、地域清掃活動などを通して、松戸地区で聖隷福祉事業団としての地域貢献活動を継続していく
- (イ) 地域住民に向けた企画を実施し、新たな社会貢献活動に取り組む
- (ウ) 地域交流ホールを活用し、高塚新田地区の住民活動への支援を行う

【数値指標】

高齢者入所・短期入所・通所関係事業

	特養入居	短期入所		通所介護		
		介護保険	障害	介護	総合	障害
利用者定員	100 (103) 名	20 (21) 名		29 名		
利用者延べ数	36,006 名	6,600 名	168 名	5,692 名	1,252 名	216 名
一日平均利用者数	97.2 (100.1) 名	16.7 (17.5) 名	0.5 (0.5) 名	18.4 名	4.1 名	0.7 名
稼働率 (%)	97.2%	86.0%		80.0%		
稼働日数 (延べ)	366 日	366 日		309 日		
単価 (一人一日当り)	14,465 円	14,442 円	6,763 円	9,739 円	4,611 円	7,883 円
サービス活動収益	520,850 千円	94,198 千円		74,452 千円		
職員数 (常勤換算)	69.2 名	13.9 名		13.3 名		

※ () 内は 10 月からの数値

居宅介護支援事業

年間請求件数		平均単価 (円)		訪問調査	訪問調査	サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価 (円)		
1,378 件	480 件	16,929 円	4,601 円	120 件	4,000 円	25,536 千円	4.2 人

障害者 (児) 相談支援事業

年間サービス利用数	年間継続サービス利用数	サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
36 件	210 件	3,545 千円	1.8 人

横須賀愛光園

特別養護老人ホーム横須賀愛光園
横須賀愛光園 デイサービスセンター
西第二地域包括支援センター
聖隷訪問看護ステーション横須賀
聖隷ヘルパーステーション横須賀
聖隷ケアプランセンター横須賀

2019年度は、各事業の特性を結集して、既存の枠に捉われずに地域における様々なニーズの発掘や、共生社会の実現のために出来ることを具体化することに注力する。また、職員一人ひとりが自身の役割を理解してやりがいを持って働くことができるよう複合的な学びの機会と支援体制を構築し、外国人職員や障害者など多様な働き方に着目した組織づくりも進めていく。そのためにもICT・IOT活用の推進や計画的な設備更新等の環境整備により、働き方についても改革を進め、決められた時間の中でより質の高いサービスの提供ができるようチャレンジしていく。

【施設理念】

『安心して、明るく楽しく生きる』

【経営方針】

1. 地域ニーズに合わせて連携し、切れ目のない障害者も含めた地域福祉を展開する
2. 互いに補い合って、安全でやりがいのある職場風土の醸成
3. 職員一人ひとりの資質向上と多様な人材が活躍できる体制の整備
4. 決められた時間で良質なサービス提供

【事業・運営計画】

1. 事業の集約と組織の再編成を行い、継続したサービス提供を行う
 - (ア) 聖隷訪問看護ステーション油壺を閉鎖し、聖隷訪問看護ステーション横須賀へ統合する
 - (イ) 聖隷訪問看護ステーション横須賀逸見サテライトについて聖隷訪問看護ステーション横須賀への統合を検討する
 - (ウ) 地区管理会議と看護連携会議を実施し、切れ目のないサービス提供と人員配置を検討する
 - (エ) 事務会議を整備し地区内における業務分担や効率化を図る
2. 地域ニーズの分析と共生型サービスの展開
 - (ア) 特別養護老人ホーム、短期入所生活介護にて障害者空床型短期入所の受け入れを進める
 - (イ) 通所介護において共生型生活介護を開始する
 - (ウ) 障害者相談支援事業所の開設を検討する
 - (エ) 在宅事業に関わる職員とともに地域ニーズの分析を行い、今後の方向性について検討する
 - ①通所介護、短期入所生活介護における機能訓練の提供実施
 - ②障害者共生型事業の地域展開を検討する

3. 働き方の改革と多様な人材の確保、育成

- (ア) 介護支援システム活用の促進や環境の整備（電波環境改善、給食設備更新）を行い、更なる効率化を図る（超過勤務 2018 年度比 20%減）
- (イ) 業務の見直しと介護補助業務、委託業務の整理を行い、決められた時間内での実践と高齢者や障害者が活躍できる職場づくりを行う
- (ウ) EPA 候補生の受け入れの継続と教育支援体制を整備する
- (エ) 役職者、リーダーを中心に目標管理について学び、各ラダーと目標参画を確実に実践する
- (オ) 労働災害発生 0 件、全職員が有給休暇取得率 30%以上を達成する

4. 各事業が利用者一人ひとりに合わせて質の高いサービス提供を行い、経営の安定化を図る

(ア) 特別養護老人ホーム

- ①接遇（言葉遣い、態度）、障害者支援、健康管理（変化の気付き、水分摂取）について重点的に学習を行い、実践する
- ②看護係、介護係、相談係での情報共有方法と役割分担を整備し、感染症や骨折による入院者を減少する
- ③ケアプランや情報共有のシステム化を進め、タイムリーな情報を基にケアの継続を行う
- ④空床の短期入所活用を促進し、入所ベッド稼働率 98%を達成する

(イ) 短期入所

- ①在宅サービスとの情報連携と人的連携を整備し、継続したケアを提供する
- ②専門職による機能訓練、生活の中での機能訓練の提供を検討し、試行する
- ③空床利用の案内とタイムリーな調整を実施して、稼働率の向上を図る

(ウ) デイサービス

- ①新たなニーズへ対応するために研修の実施や提供サービスの再編を実施する
- ②看護、在宅サービスの連携を図り、機能訓練の提供について検討し試行する
- ③連絡帳など介護支援システムの活用促進と、準備片付け業務を整理し効率化を図る

(エ) 西第二地域包括支援センター

- ①介護予防、権利擁護啓発活動の更なる推進と支え合い活動の充実に向けて取り組みを行う
- ②地域の相談に柔軟に対応し、地域ニーズの分析や地区内連携について提案する
- ③配置人員数の遵守と人材の育成を実施する

(オ) 聖隷訪問看護ステーション横須賀

- ①三浦市を合わせたサービス提供と地区連携を考慮した展開の検討をする
- ②事務作業の整理と介護支援システムの活用促進し、効率化と働きやすい職場づくりを行う
- ③カンファレンスの充実、研修参加や研究活動を行い、看護の質の向上を図る
- ④継続した採用活動と新卒者受け入れの体制を整備する

(カ) 聖隷ヘルパーステーション横須賀

- ①介護ラダーの活用、障害者支援に関する研修や資質向上のための学習の計画的な実施
- ②介護支援システムの活用促進と事務作業の整理、方法の転換を進め、超過勤務削減を図る
- ③障害者へのサービス提供を継続し、地区ニーズの分析とケアの継続について検討する

(キ) 聖隷ケアプランセンター横須賀

- ①地区内連携によるケアの継続体制へ参画し、紹介率向上につなげる

②特定事業所加算Ⅱの取得を継続する

③相談ラダーの活用と計画的な研修の実施、参加を行い、地域の総合的な相談がワンストップでできる人材を育成する

5. 地域における公益的な取組

(ア) 在宅事業との連携強化とともに、地域に対し適切かつ有益な情報発信を行う

(イ) 地域行事への継続参加と地域へ向けた行事や福祉講座を開催する

(ウ) 地域ボランティアセンター運営への参加や特別支援学級生徒の受入れを継続する

【数値指標】

	横須賀愛光園		短期入所	デイサービス	地域包括支援センター
	従来型	ユニット型			
利用者定員	64名	40名	16名	30名	
利用延数	22,911名	14,310名	4,919名	6,388名	
一日平均利用者数	62.6名	39.1名	13.4名	21.0名	
稼働率(%)	97.8%	97.8%	84.0%	70.0%	
稼働延日数	366日	366日	366日	309日	
平均介護度	3.95	4.08	3.25	1.75	
単価(1人1日)	11,800円	14,500円	11,800円	8,900円	
サービス活動収益	271,831千円	207,564千円	58,036千円	56,848千円	33,276千円
職員数(正・エA)	27.4名	20.0名	7.1名	3.2名	5.0名
職員数(パ・ア)	8.9名	9.4名	1.6名	7.2名	0.2名

	聖隷訪問看護ステーション横須賀		聖隷ヘルパーステーション横須賀			
	介護給付	医療給付	介護給付	総合事業	自立支援	有償等
月平均利用者数	162.3名	63.7名	85.0名	8.0名	22.1名	—
月平均訪問件数	812.8件	371.2件	1,146件	35件	36.3件	—
利用延時間数	—	—	11,040時間	438時間	3,720時間	384時間
稼働延日数	240日		240日			
単価	9,700円/件	12,000円/件	4,550円/時間	12,500円/月	4,450円/時間	—
サービス活動収益	149,907千円		70,292千円			
職員数(正・エA)	9.5名		6.0名			
職員数(パ・ア)	7.4名		3.3名			

聖隷ケアプランセンター横須賀								
年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査年間件数	訪問調査単価(円)	サービス活動収益	職員数	
介護	予防	介護	予防				正・エA	パ・ア
1,820件	24件	16,800円	8,208円	60件	4,500円	30,577千円	3.5名	2.0名

宝塚すみれ栄光園

特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園、短期入所生活介護
宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター、聖隷ケアプランセンターすみれ
宝塚すみれ栄光園園内保育所

法人の基本理念である「隣人愛」と共に、宝塚せいいの里は施設理念として「一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ」を掲げている。その人らしい生活を実現させるには、選択できる機会が重要であり、利用者が自分の意思を表現し、我が家のように安心して生活できる施設として、取り組んでいく。そのために職員は、福祉に携わる者として成長し、法人理念・施設理念に基づいたケアを実践しなければならない。

「日常生活の場」である入所では入居者の状態に合わせたユニット構成のもと、生活空間を意識した設えをより進めていくと共に、意思決定に際しては入居者の主体性を損うことなく、家族も交えた連携を行う。短期入所・通所介護・居宅介護支援事業所は、高齢者以外の幅広いニーズに対応していく。通所介護においては、市内リハビリテーション病院との評価連携も始めていく。園内保育所は、契約法人・地域枠の受け入れも行き、経営の安定を図るなか、キリスト教保育の実践を進めていく。これらを支える職員確保は、常勤・パート職員共に厳しい状況が続くと考え、資格職が質の高い専門性を発揮する為にも、業務内容の整理を進め、多様な人材の活躍を図る。その一環として、宝塚市が進める高齢者いきがい就労とも連携していく。

地域コミュニティ会議や地域サロンへの参加、環境活動等の地域活動は、顔の見える関係となり、関係機関との連携により地域ニーズへ対応している。2018年には兵庫県より地域サポート型施設の指定も受けており、地域の安心拠点として、今後も積極的に活動していく。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ。

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもって一人ひとりと“心でつながる関係”を大切にします。
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します。
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します。
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします。
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します。

【事業・運営計画】

1. 入居者・利用者一人ひとりに安心と穏やかな暮らしを提供する
 - (ア) 生活の場としての日常生活を大切にする。入居者・利用者の能力を活かし、フロア・ユニット毎の特色を設えとして施し、家庭的な雰囲気の中、役割のある生活を営んでいただく
 - (イ) 一人ひとりの暮らしの変化の把握、体調変化の早期発見に努め、安定した生活を提供する
 - (ウ) 趣味嗜好や生き甲斐といった個別の楽しみを計画的に実施し、祭事や季節感を大切にする

(エ) アセスメント能力を高め、ケアマネジメントの質を向上し、入居者・利用者の心身の状況に応じた適切な介護を提供する

2. 職員がいきいきと働ける職場環境、職員教育の推進

(ア) 聖隷・施設理念に基づくケアの浸透

(イ) 職場長・リーダーは職員が出来る事に目を向け、伸びる力を育てていく

(ウ) 職員間の関係性の質を高めチーム力の向上を図るために、アクションラーニングの活用継続して取り組む

(エ) 記録システムの活用、見守りセンサーの導入を進め、業務の効率化を図ると共に、専門職による質の高いサービスを提供する

(オ) 高齢者や障害者等の多様な人材と職場のニーズに合わせた、新たな業務形態を作る

3. 宝塚せいの里内事業・宝塚地区施設における連携強化と、シームレスなサービス提供

(ア) 介護システムを活用し、聖隷在宅施設との情報連携により待機者登録へつなげ、稼働率維持を図る。また市内リハビリテーション病院との連携により通所介護の稼働率向上を図る

(イ) 災害時に利用者を守る、災害後も事業を継続できる体制の構築

(ウ) 事業所内の保育所・小学生自習室等、働きやすい環境を市内聖隷施設で共有する

4. 地域に信頼される施設運営と地域における公益的な取組

(ア) 地域サポート型施設の役割として、地域コミュニティ会議や地域サロンへの積極的参加を行い、在宅高齢者が安心して生活を継続できるように支援する

(イ) 研修室を地域住民や地域ネットワークの会議・研修に開放し、訪れやすい施設運営を行う

(ウ) 入居者が地域の一員としてあるためにも、催事の相互交流やボランティアの積極導入に力を入れる

(エ) 地域住民・団体と防災や防犯などのリスク管理について情報交換・協働を図る

(オ) 介護職・看護職等の専門職による地域住民向けの介護講座・介護相談の開催、中学生トリアル研修・大学生ボランティア・実習受入れを通して福祉教育にも注力する

5. 環境活動への取組

(ア) 施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める

(イ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組む

【数値指標】

	特養入所 (ユニット)	短期 入所	通所介護 (一般)	居宅介護支援		合計
				介護	予防	
利用者定員	100名	20名	30名			
利用者・請求延べ数	35,136名	7,081名	6,386名	2,111件	240件	
一日平均利用者数	96名	19.4名	25.8名			
稼働率	96.0%	97.0%	86%			
稼働日数(延べ)	366日	366日	309日			
単価(一人一日・件当り)	14,728円	14,734円	11,333円	17,400円	3,900円	
サービス活動収益(千円)	548,020千円	104,331千円	72,373千円	37,665千円		762,389千円
職員数(常勤換算)	71.4名	15.0名	15.5名	6.8名		108.7名

ケアハウス宝塚

法人の基本理念である「隣人愛」と共に、宝塚せいれいの里は施設理念として「一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ」を掲げている。その人らしい生活を実現させるには、選択できる機会が重要であり、利用者が自分の意思を表現し、我が家のように安心して生活できる施設として、取り組んで行く。そのために職員は、福祉に携わる者として成長し、法人理念・施設理念に基づいたケアを実践しなければならない。

宝塚せいれいの里においての中間施設の役割と共に、特定施設入居者生活介護施設として、終の棲家としての側面もあり、施設での看取りを希望する方も増えている。入居者の心身状況に合わせたフロア構成により、コンセプトも明確な違いとなっており、身体的介護から余暇活動に至るまで、入居者の様々なニーズに沿った個別支援を行っていく。これを支える職員体制は、資格職が質の高い専門性を発揮する為にも、業務内容の整理を進め、多様な人材の活躍を図る。その一環として、宝塚市が進める高齢者いきがい就労とも連携していく。

地域コミュニティ会議や地域サロンへの参加、環境活動等の地域活動は、顔の見える関係となり、関係機関との連携により地域ニーズに対応している。地域住民・ボランティアの受入れを進め、開かれた施設として活動していく。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ。

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもって一人ひとりと“心でつながる関係”を大切にします。
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します。
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します。
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします。
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します。

【事業・運営計画】

1. 入居者の状態・多様なニーズに応じたケアサービスを提供できる体制
 - (ア) 入居者の状態変化に早期に気づき、施設での生活を継続できるよう支援する
 - (イ) 入院回復後の受入れについて、入居者・家族の想いを結び、早期退院に繋げる
 - (ウ) 入居者の状態に応じ、ユニット間、フロア間の住み替えを行う
 - (エ) 入居者の意欲が高まる、余暇活動や外出企画を計画・実施する
2. 多職種が協働し、個別支援が出来る職場運営
 - (ア) 職員が同じレベルでサービスを行える、共通のOJTツールを作成する
 - (イ) 多職種合同のカンファレンスを定期実施し、アセスメント力を向上する
 - (ウ) 記録システムの活用、業務の効率化を図ると共に、専門職による質の高いサービスを提供する

- (エ) 高齢者や障害者等の多様な人材と職場のニーズに合わせた、新たな業務形態を作る
- 3. 宝塚せいの里内事業・宝塚地区施設における連携強化と、シームレスなサービス提供
 - (ア) 介護システムを活用し、聖隷在宅施設と情報連携により待機者登録へ繋げ、稼働率維持を図る
 - (イ) 災害時に利用者を守る、災害後も事業を継続できる体制の構築
 - (ウ) 事業所内の保育所・小学生自習室等、働きやすい環境を市内聖隷施設で共有する
- 4. 地域に信頼される施設運営と地域における公益的な取組
 - (ア) 地域包括ケアに対する施設の役割として、地域コミュニティ会議や地域サロンへの積極的参加を行い、在宅高齢者が安心して生活を継続できるように支援する
 - (イ) 研修室を地域住民や地域ネットワークの会議・研修に開放し、訪れやすい施設運営を行う
 - (ウ) 入居者が地域の一員としてあるためにも、催事の相互交流やボランティアの積極導入に力を入れる
 - (エ) 地域住民・団体と防災や防犯などのリスク管理について情報交換・協働を図る
 - (オ) 介護職・看護職等の専門職による地域住民向けの介護講座・介護相談の開催、中学生トリアル研修・大学生ボランティア・実習受入れを通して福祉教育にも注力する
- 5. 環境活動への取組
 - (ア) 施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める
 - (イ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組む

【数値指標】

	介護付きケアハウス
利用者定員	70名
利用者延べ数	24,528名
一日平均利用者数	67.2名
稼働率	96.0%
稼働日数（延べ）	366日
単価（一人一日当り）	14,242円
サービス活動収益（千円）	349,335千円
職員数（常勤換算）	43名

結いホーム宝塚

高齢化の進展と労働力人口の減少により、事業を取り巻く環境は年々厳しさを増している。幸い、多くの入居申込をいただいているが、サービス提供においてはニーズが多様化しており、寄せられた期待に応えていかなければならない。また、職員の採用が困難な状況が今後も続くと言われる中、それを見越した運営をしていく必要がある。

入居サービスにおいては、要支援から要介護5までの介護度の入居者が住んでおり、個々の特性に応じたサービスを提供する他、体調変化の早期発見に努め、安定した生活を提供していく。そのために、職員の技術・知識の習得・質の向上につながる教育・研修体制を充実する。

介護ロボットを導入し、入居者へのサービスの質を向上させるとともに、業務の効率化を図り、生産性の向上と職員の働きやすい環境を作っていく。また、介護周辺業務を再度見直し、高齢者・障害者の方が活躍できる場を提供する。その取り組みの一つとして、宝塚市が進める高齢者いきがい就労とも連携していく。加えて、入居者の大きな関心事の一つである「食」について、入居者・家族の声に耳を傾け、給食会社と連携し質の向上を図る。

また入居者が参加する防災・防犯訓練を充実し、安心・安全な生活を提供する。また、地域住民・自治会と情報交換を行い、協力体制を構築していく。さらに地域の関わりとしては、日頃から地域住民・学生ボランティアや実習生を受け入れること、専門性を生かした学習会や研修会を開催すること等を通して、宝塚せいの里が地域に求められる場になるよう協力し合っていく。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもってお一人おひとりと“心でつながる関係”を大切にします。
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します。
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します。
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします。
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します。

【事業・運営計画】

1. 入居者・家族の期待に応えるサービスの提供
 - (ア) 全体行事、フロア企画、個別レクリエーションのそれぞれにおいて新たな企画を立案・実行し余暇活動のさらなる充実を図る
 - (イ) 入居者の「食べる楽しみ」に応えるために、日々の食事およびイベント企画を充実させる。特別食を充実し、選択食を導入する
 - (ウ) 入居者それぞれの心身の状況に応じた生活環境を整え、入居者・家族に信頼されるケアを提供する
 - (エ) 体調変化の早期発見に努め、生活リハビリテーション・医療的ケア技術等を活用することで、安定した生活を提供する

(オ) 防災・防犯訓練を実施し防災・防犯意識を職員に浸透させる

2. 職員がいきいきと働ける職場環境、職員教育の推進

(ア) 技術チェックツール、各種ラダーを活用し、専門性の向上、職員の育成を行う

(イ) アクションラーニングを活用したチーム力の強化に継続して取り組む

(ウ) 業務内容・役割分担を見直し、障害者・高齢者をはじめ多様な方へ就労の場を提供する

(エ) 介護ロボットを導入し、業務の見直しを行い生産性・効率性を高め、働きやすい職場を作る

3. 宝塚せいいいの里内事業・宝塚地区施設における連携強化とシームレスなサービス提供

(ア) 宝塚地区入所施設待機者情報システムを活用し、入居待機者に対しタイムリーな情報提供を行い、稼働率維持を図る

(イ) 企業主導型事業所内保育所や小学生自習室等、働きやすい環境を市内聖隷施設で共有する

4. 地域に信頼される施設運営と地域における公益的な取組

(ア) 地域住民や団体の活動・発表の場として宝塚せいいいの里内の研修室を開放し、訪れやすい施設運営を行う

(イ) 地域住民・団体と防災や防犯などのリスク管理面において情報交換・協働を図る

(ウ) 介護職・看護職等の専門職による地域住民向けの介護講座・介護相談の開催、中高生・大学生のボランティアや実習生の受入れを通して福祉教育にも注力する

(エ) 宝塚市の進めるエイジフレンドリーシティに協力し、シニアの生きがいづくりに参画する

5. 環境活動への取組

(ア) 施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める

(イ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組む

【数値指標】

	介護付き有料老人ホーム
利用者定員	100名
利用者延べ人数	35,026名
一日平均利用者数	95.7名
稼働率	95.7%
稼働日数（延べ）	366日
単価（一人一日当り）	15,762円
サービス活動収益（千円）	552,087千円
職員数（常勤換算）	60.8名

介護老人福祉施設 宝塚栄光園

特別養護老人ホーム宝塚栄光園、短期入所生活介護

地域の方にとって特別養護老人ホームは介護における「最後の砦」であり、『『最期のとき』を安心してむかえたい』という地域住民の希望を叶えるために私たち宝塚栄光園は存在し、職員は利用者のためのサービスを提供している。ただ、人材確保が困難な時代となり、サービスの質の充実とともに業務の効率化も合わせて実施していくことが私たちに求められている。ICTやロボット技術を活用して、業務をスリム化するとともにサービスの質を維持していく。そのことが「利用者を守る」「地域を守る」「職員を守る」ことにつながる。また今後3か年をかけて利用者にとって、そして職員にとっても使いやすい施設を目指して建物の補修と改修を行っていく。

【施設理念】

『自分にしてもらいたいと望むとおり、人にもそのようにしなさい。』

【経営方針】

宝塚栄光園の従事者は、各事業における個々の利用者の障がい、疾患、要介護状態に応じて可能な限り、最期までその人らしい生活が実現できるように、常に利用者の立場に立ったケアサービスを総合的に提供していく。

【事業・運営計画】

1. 利用者を守る

(ア) 『最期のとき』を安心して迎えらる体制づくりの実施

- ① 多床室であってもプライバシーが守られる居室の改修を実施する
- ② 利用者の安心のために、夜間や早朝の往診について、宝塚エデンの園附属診療所との医療協力体制を再構築する
- ③ 医療が必要な利用者（たん吸引、胃ろう等）の受入を入居者の全体の2割を目指す

(イ) 『最期のとき』を安心して迎えらる環境づくり

- ① 『『最期のとき』の安心』を知ってもらうため、地域住民向けに当園で実践している「看取りケア」についての講習会の実施
- ② ICTを用いることで、「ケアの見える化」・「睡眠を妨げない巡視」が可能になり、利用者の変化を逐次とらえるとともに、より良いケアのためのデータを集積する

(ウ) 認知症があっても、『最期のとき』まで利用者一人ひとりの尊厳を守る

- ① 認知症の症状ばかりを見るのではなく、「ひとりの人間として」利用者 に接していくことができ、人間の尊厳を守ることができる職員教育の実施
- ② 施設内で認知症リーダー研修受講者が中心となって、それぞれの利用者 に合わせた認知症ケアを他の職員とともに実施する

2. 職員を守る

(ア)業務見直しについて

- ① 「0（ゼロ）ベース」で業務を見直し、専門性の有無や、取り組む時間帯や納期で仕事を仕分けして、不必要な業務は廃止する
- ② 仕分けした仕事は専門性が必要なもの、つまり「コア業務」とそれ以外の「非コア業務」に分類して仕事の集約と再分配を行う
- ③ 「非コア業務」については高齢者雇用や障害をお持ちの方の雇用につなげていく

(イ)「巡視0（ゼロ）」を目指して

- ① ICT機器を活用して、モニターで利用者状況を把握することで職員の夜間巡視を0（ゼロ）にして、夜勤の負担軽減と超過勤務の大幅な削減を同時に達成する

(ウ)職員コミュニケーションの向上

- ① ナースコール連動のインカムを活用して職員間のコミュニケーションの効率化と利用者の満足度の向上を目指す
- ② インカムの活用で職員の無駄な動きの削減と負担軽減の両立を目指す

3. 地域を守る、地域における公益的な取組

(ア)地域社会との連携を強化

- ① ゆずり葉自治会とともに、防災訓練の合同実施などを呼びかける。また防犯訓練も積極的に行い、地域に貢献していく
- ② 地域の自治会活動への参加や食事会の実施企画、保育園等との交流を行う

(イ)次の「宝塚栄光園」を見据えた施設整備

- ① 今後、中長期の需要予測の中で宝塚栄光園の多床室の必要性の検討
- ② 地域から求められる共生社会を実現するため、また建築から40年の節目を迎える中で、「60年目」まで使用することができる改修の実施の検討

【数値指標】※特養・短期とも従来型のみ（個室19室、2人室 3室、4人室 15室）

	介護老人福祉施設	短期入所生活介護	合計
利用者定員	70人	15人	85人
利用者延べ人数	24,638人	4,904人	29,542人
一日平均利用者数	68.0人	13.4人	81.4人
稼働率	97.1%	89.3%	95.7%
稼働日数（延べ）	366日	366日	366日
単価（一人一日当たり）	12,463円	11,701円	12,336円
サービス活動収益	307,992千円	57,382千円	365,304千円
職員数（常勤換算）	47人	6.5人	52.6人

聖隷ケアセンター宝塚第1

宝塚第二地区在宅複合事業（社会福祉事業）

聖隷ヘルパーステーション宝塚
聖隷逆瀬川デイサービスセンター

【事業・運営計画】

1. 利用者のニーズに対応できる事業所作りをする
 - (ア) 身体介護に特化した職員の育成に重点を置き、医療依存者への受け入れを広げる
 - (イ) 要支援者への新たなサービスを見出していく
 - (ウ) 認知症ケアに特化したサービスを継続して運営する
 - (エ) 他職種との交流を図り、合同の勉強会を開催し多方面の知識を広げる
 - (オ) 施設職員との交換研修を実施し、在宅ケアを周知してもらう

2. 業務の ICT 化を進めていく
 - (ア) WINCARE を活用して業務のペーパーレス化を図る
 - (イ) WINCARE を活用して他職種との情報交換や密な連携を図る

3. 職員の育成を図る
 - (ア) 在宅介護の中心であることを意識して行動できる職員の育成をする
 - (イ) 職員の知識の向上を目指し、公的機関研修を活用し積極的に参加を促す

4. 地域における公益的な取組
 - (ア) 地域の高齢者や家族を対象とした介護教室勉強会を開催する

【数値指標】

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション宝塚）

介護給付			総合事業		単価(円)		サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間訪問件数	年間訪問件数	月間利用者	年間利用者	介護(回)	予防(月)		
107人	917件	11,696件	83人	996人	4,298円	17,562円	92,815千円	15.7名

通所介護事業（聖隷逆瀬川デイサービスセンター）

介護給付			総合事業		単価(円)		サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(回)	総合事業(月)		
23.3人	602人	7,226人	25人	300人	10,200円	41,000円	85,991千円	18.8名

宝塚第二地区在宅複合事業（公益事業）

訪問看護ステーション宝塚
 聖隷ケアプランセンター宝塚
 逆瀬川地域包括支援センター

【事業・運営計画】

1. 生活の質にこだわった支援の提供

- (ア) 看護小規模多機能開設・訪問看護ステーション再編の準備を行う
- (イ) 施設・在宅を問わず、地区内の看護・介護・相談の連携を強化し、医療ニーズの高い利用者・看取り期の利用者を受け入れられる体制を整える
- (ウ) 2020年度の特定事業所加算Ⅳ算定を視野に、継続的にターミナルケアマネジメント加算を算定する
- (エ) 地域ケア会議を活用しながら、関係機関・住民との一体的な支援をマネジメントする

2. 職員同士で成長し合える環境作りと次世代の管理者候補の育成

- (ア) 互いの事業・関係制度を理解できる合同の勉強会を行う
- (イ) 法人内事業所の連携強化と共に、職員個々がフィードバックし合える関係性を構築する
- (ウ) 他施設も含めたリーダーを担える職員の把握と、育成を目的とした人事交流を行う

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 住民主体の会議に出席し、地域が必要としている資源を把握し、創るものを見出す
- (イ) 地域の住民主体の取り組みに対し、専門職としての側面的支援を行う
- (ウ) 地区内デイサービスセンターを拠点とした地域活動を協働する

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション宝塚）

	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
医療	56人	533件	6,400件	9,500円	157,510千円	22.9名
介護	144人	720件	8,640件	9,500円		
予防	26人	128件	1,540件	9,500円		

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター宝塚）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
3,732件	360件	17,450円	3,900円	2,400件	4,590円	76,441千円	15.0名

地域包括支援センター事業（逆瀬川地域包括支援センター）

年間請求件数		平均単価(円)		サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
予防	予防(委託)	予防	委託(委託)		
5,250件	2,640件	4,800円	610円	73,109千円	13.6名

聖隷ケアセンター北神戸

聖隷訪問看護ステーション北神戸

聖隷ケアプランセンター北神戸

障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ北神戸

【事業・運営計画】

1. 専門性のある、地域ニーズに沿った事業を展開

- (ア) 利用者の思いや生活に沿った良質で安心安全な対応ができるように、看護体制の更なる充実を図る
 - ①癌に限らず高齢者の終末期を在宅看取りに積極的に繋げる
 - ②小学校における医療的ケア児の定期訪問や、医療依存度の高い小児の受入れを継続する
 - ③精神疾患や認知症の利用割合が高い事を特色とし、より専門性を高め地域の信頼を得る
 - ④機能強化型訪問看護管理加算 2 又は 3 を取得する
- (イ) 聖隷ケアプランセンター北神戸は、聖隷訪問看護ステーション北神戸と連携し、難病や癌末期の医療的な関わりの強いケアマネジメントを特色とする。また常勤換算が 4.0 人となることで、特定事業所加算Ⅱを取得する
- (ウ) 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ北神戸は、今までなかった障害領域での利用者の生活を通し、必要時は医療や介護に繋げていく。また家族の問題や財産管理、貧困などの問題に対し、今、あるいは将来に向けてできる限りの対策を講じていく
- (エ) 3 事業となり職員も増えることで、さらに法令順守、リスクマネジメントを強化する
- (オ) WINCARE の活用による業務の効率化と安全性を強化する

2. 各機関との連携強化と効率化

- (ア) 地域への発信、外部機関と連携のできる体制をつくる
 - ①北区地域包括ケア推進協議会での地域の課題解決への取り組みを、訪問看護の代表者として積極的に関わり実現していく。2019 年度は「残薬から見た在宅医療に係る多種職連携への支援」
 - ②認知症初期集中支援チームのメンバーとして、北区の認知症困難事例について自施設を含めた支援機関へと繋げ課題解決していく
 - ③神戸市看護大学の研修、事例検討、研究参加など学問的な学びの場を通し、特に精神看護や認知症の専門的なサービスの質の向上へと繋げる

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 神戸市看護大学生実習の受け入れ、及び神戸市看護大学臨床教授・臨床講師を務める
- (イ) 介護保険認定審査会の審査員として 2 名が参加する

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション北神戸）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
154 人	952 件	11,423 件	9,450 円	106,823 千円	15.6 名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター北神戸）

年間請求件数		平均単価		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
1,070 件	710 件	16,300 円	3,550 円	—	—	19,962 千円	4.4 名

障害相談支援事業（障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ北神戸）

年間請求件数		平均単価		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
障害者	障害児	障害者	障害児				
180 件	12 件	14,800 円	17,20 円	—	—	2,870 千円	1.3 名

聖隷逆瀬台デイサービスセンター

聖隷デイサービスセンターあゆむ

【事業・運営計画】

1. 中重度から更なる重度化へ個別のニーズに対応可能な体制の構築

- (ア) 在宅生活の最期までを支えるデイサービスとして、看取り期の利用者も含めたニーズに応える事ができる体制を強化する
- (イ) 基準該当生活介護サービスの定着を図り、障害特性を理解したサービスの質の向上を図る
- (ウ) 日中一時支援では、医療的ケアを必要とする児童の受け入れ体制と対応力の拡充に努める
- (エ) 一人でも多くの利用者へ対応ができるように、また職員の介護負担の軽減の為に、最新福祉機器の導入を図る

2. 根拠に基づいた認知症ケアの提供

- (ア) リーダーを中心に、状態に合わせた認知症ケアを実践し、支援の効果と評価を示す事ができるようにする
- (イ) 作業療法士による個別・集団プログラムを作成し、認知症状の進行抑制につながる仕組み作りの確立
- (ウ) 認知症介護実践者・実践リーダー研修参加による専門性の向上

3. 住み慣れた地域で安心して暮らす事ができるサービスの提供

- (ア) 支援困難や急性期認知症利用者の柔軟な受け入れ体制の構築
- (イ) 利用者の状態に合わせたケアができるように、新たな体制構築と対応力の拡充に努める
- (ウ) 利用者が役割と社会との繋がり・喜びを感じられる事ができるサービスの提供

4. チームケアを推進し、サービス（ケア）の質を向上

- (ア) 目標参画・介護リーダーの運用を確実に実施し、職員個々の目標達成と行動化を明確にしてサービスの質の向上へとつなげる
- (イ) 求められるニーズに迅速に対応できるように介護技術（障害分野も含め）向上の勉強会を定期的に実施する
- (ウ) 多種多様な人材が活躍できる環境を作り、人材の確保と育成に取り組む

5. 施設老朽化に伴う設備改修

- (ア) 修繕・買換え箇所を明確にし、計画的に更新する事で、業務の効率化と経費削減を図る

6. 地域における公益な取組

- (ア) 地域に必要とされるデイサービスとして、法人内の他事業所と連携し、地域住民に向け地域交流会や介護予防に関する講習会を開催する。地域住民も多く利用する施設の強みを活

かし、地域住民への認知症理解につながる啓蒙活動を行う

- (イ) 認知症利用者を支える家族の不安や悩み解消の為、継続した家族介護者交流会を開催する
- (ウ) 逆瀬台自治会と共に、防災訓練実施等を通じた連携強化を図る

【数値目標】

通所介護事業（聖隷逆瀬台デイサービスセンター）

介護給付			予防給付		単価		サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(月)	予防(月)		
27.3人	706人	8,476人	20人	240人	12,600円	42,000円	109,534千円	24.4名

地域密着型サービス認知症対応型通所介護事業（聖隷デイサービスセンターあゆむ）

介護給付			予防給付		単価		サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(月)	予防(月)		
8,0人	207人	2,487人	0人	0人	15,500円	0円	38,556千円	5.4名

聖隷デイサービスセンター結い

【事業・運営計画】

1. 医療から介護への連携体制を構築し、維持期・生活期まで切れ目のないサービスを提供する
 - (ア) 他機関と連携・協働し医療から介護へ、シームレスに移行する仕組みをつくる
 - ①ICTを活用し、他機関のセラピストとの連携体制を構築する
 - ②生活機能向上連携加算を算定する
 - (イ) 生活の質向上を実感できる機能訓練へ再構築する
 - ①評価尺度を共有し、多職種協働する
 - ②在宅復帰直後（退院後）の利用者受け入れを2018年度比15%増加させる
 - ③法人内のセラピストの連携体制を活用し、スキルアップを図る
2. 介護保険給付の対象とならない高齢者ニーズに対応できるサービスを生み出す
 - (ア) 身近な場所で高齢者が定期的集い、身体を動かす場をつくる
 - ①地域住民が通える介護予防教室を開催する
 - ②介護予防教室の運営には地域住民が参画できるよう図る
 - ③次期介護報酬改定を見据え、他業種との連携したフレイル対策事業を検討する
3. 地域における公益的な取組
 - (ア) 地域住民が気軽に集える場をつくる
 - ①営業時間外の施設開放を検討する
 - ②地域行事に参加し、場所・人員の提供などに協力していく

【数値指標】

介護給付			予防給付		単価		サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
平均 利用者数	月間 利用件数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	介護 (月)	予防 (月)		
11.3人	292件	3,504件	84.1人	1,009人	6,500円	30,000円	53,082千円	11.5名

聖隷コミュニティケアセンター宝塚店

【事業・運営計画】

1. 介護保険サービス外貸与の仕組み作り

(ア) 2018年10月からの法改正により貸与単価が下がる中、自己負担割合に3割も設けられ介護保険給付でのサービスは益々厳しい状況になった。高まる介護保険外の貸与サービスのニーズに応えられる様「保険外サービス」の仕組み作りを行う

2. 貸与から販売へ移行する利用者の獲得

(ア) 貸与事業の環境が厳しくなる中、貸与から購入に移行する利用者へ中古品を含め販売の提案ができるよう仕組み、体制を作る

(イ) 利用者や施設職員の要望、課題を捉えより良い生活に必要な提案ができるよう販売部門を強化すると共に営業職員を育成する

3. 地域における公益的な取組

(ア) 地域包括支援センターや地域が実施する取組へ参加、協賛を行う

【数値指標】

年間 貸与件数	年間 貸与収益	年間 販売収益	年間 住宅改修収益	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
9,505 件	103,372 千円	53,700 千円	23,000 千円	180,072 千円	11 人

花屋敷栄光園

特別養護老人ホーム花屋敷栄光園
花屋敷デイサービスセンター
花屋敷地域包括支援センター
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷
宝塚市障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷

花屋敷地区の後期高齢者人口の割合が市内で上位に位置しており、徐々に地区を取り巻く環境も変化してきていると感じる。花屋敷栄光園への入居待機者も減少傾向にあり、認知症対応型通所介護においても利用が大きく減少し、サービスの見直しを迫られる結果となった。花屋敷栄光園の使命である「地域で暮らす住民の支えになること」を改めて認識し、これまで以上に信頼され選ばれる施設となるよう質の向上に努めたい。また、2017年度より地域共生社会の実現に向け、障害者の短期入所と生活介護サービスを開始しており、今後も職種を問わず多様なニーズへの機能と対応力を高めるためにも人材育成に注力し、安定した組織づくりに取り組む。

【施設理念】

互いに愛し合いなさい

利用者、家族、職員、ボランティア、地域住民が、共にその人らしいいきいきとした暮らしの創造のために、互いを尊重し合い、地域全体の福祉の向上に寄与する

【経営方針】

1. 利用者のニーズに応じたケアと選ばれるサービスの提供
2. 専門職として実践できる人材の育成
3. 地域共生社会実現のため継続したサービスと相談支援機能の充実
4. 運営安定化の推進
5. 地域における公益的な取組

【事業・運営計画】

1. 利用者のニーズに応じたケアと選ばれるサービスの提供
 - (ア) 利用者の状態とケアの差異に気づき、適宜修正できるようアセスメント力を高める
 - (イ) 利用者の体調変化の早期発見と対応により、病状悪化や事故の防止を図る
 - (ウ) 職種を問わず在宅事業所と施設間で検討会などを行い、対応力の向上に努める
 - (エ) 選択食やイベント企画などを検討し、美味しく楽しみとなる食事の提供に努める
2. 専門職として実践できる人材の育成
 - (ア) 階層別研修や地区研修と連動させた育成スキームと体制を構築する
 - (イ) 各種ラダー評価と目標参画に基づいたキャリア支援を行う
 - (ウ) 喀痰吸引や認知症などに関する研修受講と資格取得により専門性の向上を図る
 - (エ) リーダーや係長を中心としたマネジメント強化を図り、次世代の育成を行う

3. 地域共生社会実現のため継続したサービスと相談支援機能の充実

- (ア) 地域包括支援センターと相談支援事業所、居宅介護支援事業所や施設の相談員が協働し、障害者から高齢者までシームレスな関わりが行えるよう相談支援機能の充実を図る
- (イ) 市や他事業所とのネットワークを構築し、地域の障害者ニーズを把握する
- (ウ) 短期入所・生活介護サービスの定着と他に必要とされるサービスを模索する

4. 運営安定化の推進

- (ア) ケアサポーターや障害者雇用の促進、有償ボランティアなどを活用し効果的な人員配置に努める
- (イ) リーダー業務や会議時間などを見直すとともに業務の ICT・IOT 化に取組み、業務負担や時間外労働の軽減を図る
- (ウ) 計画的な備品購入、設備修繕・更新を行う

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域サロンでの相談支援や介護技術講習、認知症予防講座などを継続的に行う
- (イ) 地域の防災会議などに参加し、情報共有や協働した防災・防犯活動を行う

【数値指標】

高齢者入居・短期入所・通所関係事業・相談支援事業

	特養入所 ユニット型	短期入所 ユニット型空床型	通所介護		
			通常規模型	予防型	
利用者定員	108名	12名	47名		
利用延数	38,676名	4,212名	8,491名	1,768名	
一日平均利用者数	105.7名	11.5名	26.8名	5.8名	
稼働率(%)	97.8%	95.8%	69%		
稼働延日数	365日	365日	307日		
平均介護度	4.1	2.8	2.0	0.4	
単価(一人一日)	14,698円	14,127円	9,747円		
サービス活動収益(千円)	573,836千円	59,990千円	99,950千円		
職員数(常勤換算)	80.2名	9.7名	19.8名		
	地域包括支援事業 (花屋敷地域包括支援センター)	障害者相談支援事業 (聖隷はぐみ花屋敷)	障害児相談支援事業 (聖隷はぐみ花屋敷)	宝塚市相談支援事業 (聖隷はぐみ花屋敷)	
宝塚市受託収入(千円)	32,185千円	—	—	12,953千円	
年間請求件数	予防プラン 請求件数	285件	391件	329件	—
	予防プラン 委託件数	64件			
平均単価	予防プラン 単価(円)	4,840円	14,943円	14,966円	—
サービス活動収益(千円)	49,248千円	5,843千円	4,924千円	12,953千円	
職員数(常勤換算)	10.3名			3.1名	

ケアハウス花屋敷

少子高齢多死社会を迎え、国の施策も在宅医療・在宅介護に重点を置いており、年齢を重ねてもその人らしく生きがいを持って生活できるよう、支援できる仕組みはもっと必要である。ケアハウス花屋敷の役割はまさに健康寿命を伸ばし、いきいきと生活できるよう支援することであり、元気で役割を発揮できる方も多いことから、その力を借りて、職員と入居者が一緒に取り組むことも可能であると考え。また、できる限り入居を継続できるよう、そして、継続困難になったとしても、慣れ親しんだ環境・人間関係の中で過ごせるよう、新たな支援の仕組みを花屋敷せいれの里として在宅事業と協力し合い、構築していく1年としたい。

【施設理念】

高齢者や障害者を含むすべての人々が、自立し、尊厳をもって暮らせる地域社会の実現を目指します。

【経営方針】

1. いのちと尊厳を守ります。
2. よりよいサービスを提供します。
3. 地域社会と共に歩みます。

【事業・運営計画】

1. 入居者の心身の変化、状況の変化にタイムリーに対応できる体制と対応力の強化
 - (ア) 1日の業務の割り振りを見直し、対応に必要な時間を確保する
 - (イ) 基本情報と、心身の変化があった時の医療的な対応について、本人の希望を確認する
 - ①入居者の心身の状況、生活状況を定期的に確認し、アセスメントできる
 - ②急変時や、老衰等になった際の医療的な処置の要否や人生の最終段階の過ごし方、場所等について、希望を定期的に確認し、必要時に生かすことができる
 - (ウ) 医療に関する知識、アセスメント、認知症等について、積極的に研修参加する。また、計画的に施設内研修を行い、知識・技術の向上を図る
2. 健康維持増進のための取組
 - (ア) 健康体操のプログラムの充実を図る
 - (イ) 心身の健康維持の為、「楽しむこと」を重視した催し・行事を企画。行事の一部は、職員のみでなく、入居者と共に創る
 - (ウ) 毎朝のラジオ体操を継続し、入居者・職員の健康維持を図る

3. ケアハウスらしい「健康的で美味しい食事」の提供を復活させる

- (ア) 給食委託業者と協議しながら、日常の食事の改善を図る。栄養バランスのとれた高齢者が食べやすく、美味しい食事を提供する
- (イ) 敬老の日、クリスマス等の大きなイベントだけでなく、日本古来の習慣や関西の食の文化を大切にした食事を提供する

4. 運営の安定化の推進

- (ア) 入居率100%を維持できるよう、地域のサロン等での説明会の開催や見学会を実施し、待機者を増やしていく
- (イ) 花屋敷せいの里と在宅事業が協力して、住民を支える仕組みを構築し、可能な限り、地域でその人らしく最期まで過ごせるよう支援することで、全体の稼働率向上に繋げる
- (ウ) 業務内容の整理、必要職員配置の見極めをした上で、シニア世代の方や障害者雇用含め、新たな職員体制を構築する

5. 災害時の準備、避難方法等、よりシンプルで分かりやすいものにバージョンアップする

- (ア) 夜間、職員が少ない中でも安全に避難できる体制と安否確認方法の簡素化を図る
- (イ) 新たに構築した方法で、夜間、地震後の火災発生の想定で訓練を行い、効果を検証する

6. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域の方が集える場所の提供（園の喫茶コーナー、サロン活動、介護者の集い等）
- (イ) 近隣の幼稚園・小学生と高齢者との触れ合いの場の提供
- (ウ) 宝塚安倉安心ステーションの継続
- (エ) サロンや地域活動の場所での相談支援や介護教室などの実施
- (オ) 認知症予防ゲームの継続実施

【数値指標】

利用者定員	100人
利用者延べ数	36,136人
稼働率(%)	100%
単価(一人一日)	4,260
サービス活動収益(千円)	153,919
職員数(介護:常勤換算)	6.0人
(相談員:常勤換算)	1.0人
(宿直員:人数)	3人
(運転手:人数)	1人

聖隷ケアセンター宝塚第2

宝塚第5地区在宅複合事業（公益事業）

聖隷訪問看護ステーション山本

聖隷ケアプランセンター花屋敷

【事業・運営計画】

1. 年齢・病状問わず、様々な状況の方々に専門性の高いケアが提供できるよう、職員の育成と多職種間の連携を強化する
 - (ア) リーダー職員の育成・役割委譲を行う
 - (イ) 管理者以外の職員も参加する連携会議を開催し、法人内連携の意義の周知を図るとともに、円滑な利用者支援が提供できる方法を検証する
 - (ウ) 合同での事例検討会・研修会を行い、医療ニーズの高い利用者への対応力を向上させる
 - (エ) 花屋敷栄光園デイサービスセンターへ理学療法士・作業療法士等を派遣し、運動機能の向上だけでなく利用者のQOL向上に視点を置いた支援を行う
2. 事業所体制を見直し、24時間365日支援できる体制構築を目指す
 - (ア) 各事業で職員を増員し、エリアの利用者を支えるための人的体制を強化する
 - (イ) 看護小規模多機能型居宅介護事業を視野に、訪問看護ステーションの事業拡大と新たな体制構築を図る
3. 地域における公益的な取組
 - (ア) 専門職として地域に求められる役割を理解し、地域事業や研修会等に参画する
 - (イ) 花屋敷せいのの里が中心となって実施する地域貢献活動へ参画する

【数値指標】

聖隷訪問看護ステーション山本

	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
医療	39人	260件	3,111件	9,800円	101,715千円	15.3名
介護	102人	645件	8,268件	8,650円		
予防	16人	33件	396件	8,650円		

聖隷ケアプランセンター花屋敷

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	年間調査 単価(円)	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防	—	—	66,982千円	11.9名
3,804件	300件	17,300円	3,900円				

介護老人福祉施設 聖隷カーネーションホーム

特別養護老人ホーム聖隷カーネーションホーム
聖隷カーネーションホームデイサービスセンター
聖隷カーネーションホームデイサービスセンターうつつこ
聖隷ケアプランセンター淡路、聖隷在宅介護支援センター淡路、
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ

2019年度の聖隷カーネーションホームは、淡路エリアの中核施設として岩屋地区(淡路栄光園)及び津名地区(聖隷ケアセンター津名)における新規事業計画の推進・聖隷こども園夢舞台の運営支援・エリア内各拠点に対する事務サポートを更に強化していくとともに、聖隷カーネーションホーム自身も今後の事業発展を見据えた機能強化を図る。入所系・通所系サービスにおける高医療対応、リハビリテーション及び認知症ケアの強化や障害者相談支援機能の充実と障害福祉サービスの拡大に主軸を置きつつ、内部強化面ではリスクマネジメントの向上による利用者の安心・安全、ケアサポーターなど新たな担い手の発掘、介護ロボットなど職員負荷対策を模索し、利用者と職員の双方の幸福を実現できる、魅力ある総合福祉拠点を目指していく。

【施設理念】

人と地域と未来のために『ともに咲き続ける』ことのできる事業所となる
～『ともに咲き続ける』ために私たちは…～

1. ご利用者、ご家族のみならず地域に信頼され続けるサービスを提供します
2. 現在だけではなく、過去を活かし未来を見据えたサービスを提供します
3. 私たちだからこそできる専門的で先駆的な質の高いサービスを提供します

【経営方針】

1. 利用者満足の向上のために、より安心・安全で質の高いサービスを追求する
2. 職員の働き甲斐や資質の向上のために、多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりを促進する
3. 安定経営を継続していくために、サービス品質の改善と生産性向上の両立を推進する
4. 安心して暮らせる地域づくりに貢献するために、公益的な取組の継続と新たなニーズの開拓に取り組む

【事業・運営計画】

1. より安心・安全で質の高いサービスの追求
 - (ア) 設備や介護者が主因となる事故を防止するために、インシデント報告の増加と事故分析を中心にリスクマネジメントを強化する
 - (イ) 利用者の状態や希望とケアプラン内容の適合状況を適時確認・評価するとともに、プラン更新体制の合理化・省力化のための見直しを図る
 - (ウ) 障害者や重度の認知症など支援困難な方や、制度の狭間で困窮している方等の受け入れを積極的に検討し、より広い利用者層に対応できる施設づくりを促進する
2. 多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりの促進

- (ア) 事業計画と連動した目標管理及び達成支援により、事業ミッションと職員のモチベーションの連動性を高め、職員の成長と成果の達成の両立を図る
- (イ) ケアサポーターの本格導入・障害者雇用の促進・EPA 外国人介護福祉士候補者など多様な人材を積極的に発掘・育成・活用するとともに、利用者と職員の安全性を保つための管理・運用方法を確立していく
- (ウ) 入所・通所ともに認知症専門研修受講者によるフィードバック研修などの学習機会・実践機会を定期的に設け、認知症ケア対応力を高めていく

3. サービス品質の改善と生産性向上の両立

- (ア) 地域の社会資源として住民に施設を充分活用して頂くために、利用ニーズと稼働率を意識した利用者受入体制の改善を図るとともに、広報活動・営業活動の体制を確立する
- (イ) 機器設備の更新や介護機器・介護ロボット導入等による省力化・キャッシュレス化の促進等の合理化を推進するとともに、安全性・快適性が担保された運用方法を確立する
- (ウ) 適切な加算算定と合理的な人員配置を行い、経営の安定化に資する業務改善を推進する

4. 地域における公益的な取組の継続と新たなニーズの開拓

- (ア) 聖隷在宅介護支援センター淡路の機能を活かして「淡路市高齢者住宅安心確保事業」の実施を継続するとともに、潜在的な福祉ニーズの発掘に努める
- (イ) 淡路市の次期保健福祉計画・障害福祉計画の策定に向けた提言・提案を行う
- (ウ) 地域における障害児者福祉の向上に貢献するために、相談支援体制を強化するとともに、障害児者福祉ニーズの受け皿となるサービスを開始できるよう調査・検討を促進する

【数値指標】

	特養入所	短期入所	通所介護		
	従来型	従来型	一般型	総合事業	認知症対応型
利用者定員	54名	16名	30名		12名
利用者延べ人数	19,290名	5,610名	6,466名	746名	3,004名
一日平均利用者数	52.7名	15.3名	20.8名	2.4名	8.2名
稼働率(%)	97.6%	95.8%	77.3%		68.4%
稼働日数(延べ)	366日	366日	311日		366日
平均介護度	3.75	3.25	1.93	—	2.2
単価(1人1日当り)	11,585円	10,863円	9,210円	4,332円	11,089円
サービス活動収益	223,469千円	60,944千円	62,685千円		33,311千円
職員数(常勤換算)	30.9名	7.0名	8.7名		6.2名
	聖隷ケアプラン センター淡路		聖隷はぐくみ		聖隷在宅介護 支援センター淡路
年間請求件数	介護	予防	24件		
	1,992件	396件			
訪問調査年間件数	60件				
サービス活動収益	33,481千円		354千円	7,543千円	
職員数(常勤換算)	6.0名		0.5名	1.2名	

介護老人福祉施設 淡路栄光園

特別養護老人ホーム淡路栄光園
淡路栄光園デイサービスセンター

2019年。淡路栄光園は開設20周年を迎える。20年前、淡路島で聖隷福祉事業団の理念とサービスを実践するために踏み出した小さな一歩は、淡路市の多くの地域に広がり、私たちが必要とされる方々の期待に応え続けている。この歩みは、私たちが温かく迎え入れ、支援を続けていただいた利用者、地域や関係機関の皆様あつてのことであり、改めて感謝を申し上げたい。

2019年度、門出を迎える淡路栄光園は感謝の気持ちとともに新たな第一歩として、次の4つの取組を事業計画の方針とする。私たちのサービスが地域の方々にもっと身近で利用しやすいものになること。要介護状態の方や障害をお持ちの方が、住み慣れた自宅で生活を続けていただけるよう短期入所のサービスを強化すること。私たち自身の専門性や業務の質を高め、利用者により喜んでいただけること。私たちが持つ専門性を生かし、地域で暮らす方々の生活や健康の継続に貢献すること。以上の方針を念頭に、職員一丸となって事業計画の実現に取り組んでいきたい。

【施設理念】

「家族の心とまなざしでむかえる」

【経営方針】

1. 利用者満足向上のために、利用者の個別性、医療管理や障害に合わせた受け入れ、ケアの提供を図る
2. 職員満足向上のために、職員個々が目標とする技術の向上に努めつつ、業務負担の軽減、生産性の向上を図る
3. 健全経営向上のために、幅広く利用者を受け入れる体制を整えつつ、地域の利用ニーズに合わせて収支バランスのとれた事業規模にする
4. 地域社会貢献のために、私たちのサービスがもっと身近で利用でき、地域に貢献できる活動を実施する

【事業・運営計画】

1. 利用者満足向上のための取組
 - (ア) 利用者の背景やADL、家族などの個別的な情報を生かし、利用者の楽しみや安全な生活、環境の向上に結び付けられるような情報管理、カンファレンス、委員会活動を実施する
 - (イ) 精神症状や障害、医療的ケアの課題を抱える利用者の在宅生活継続を支援するため、ショートステイの質の向上を図りつつ、増床に向けた具体的協議をすすめる
 - (ウ) 病院や訪問看護との連携強化によりリハビリテーションの専門性や効果の向上を図りつつ、結果や成果を利用者に分かりやすく伝えることで、利用者の要介護状態の改善や自立支援の促進を図る

2. 職員満足向上のための取組

- (ア) 精神症状や障害のある方、医療依存度の高い利用者へのケアに関する研修、利用時の実践やOJTを通じ、個々の職員の資質と意欲の向上につなげる
- (イ) ICT化の促進と福祉機器の積極的活用を図るとともに、専門職が担う中心業務とそれをサポートする周辺業務の整理を進め、業務負担の軽減及び個々の職員の生産性向上を図る

3. 健全経営推進のための取組

- (ア) 地域の利用ニーズの減少に合わせてデイサービスの定員を変更し、安定した収支バランスで事業を継続できるようにする
- (イ) 精神疾患や障害のある方、医療的ケアの必要な方など、幅広く利用者の受け入れを行うとともに、利用希望者に対し空床枠を最大限活用できるような営業活動やベッド管理を行う

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域サポート施設として社会福祉協議会や地域包括支援センターと協議の場を持ち、LSA事業の強化や、介護や運動、食に関する講座や場づくりを企画実行する
- (イ) 淡路栄光園のサービスが岩屋地域で身近に利用でき、要介護になっても安心して地域で暮らし、友人知人とも交流できるような拠点づくりに向け、関係機関と具体的な協議に入る

【数値指標】

	特養入所	短期入所	通所介護	
	従来型		一般	総合事業
利用者定員	60名	17名	25名	
利用者延べ数	21,411名	6,098名	4,960名	620名
一日平均利用者数	58.5名	16.7名	16名	2名
稼働率	97.5%	98.0%	72.0%	
稼働日数（延べ）	366日	366日	310日	
単価（一人一日当り）	11,501円	11,684円	8,550円	7,229円
サービス活動収益	246,389千円	71,379千円	46,888千円	
職員数（常勤換算）	36.2名	8.9名	7.4名	

聖隷ケアセンター津名

聖隷訪問看護ステーション淡路

聖隷ケアプランセンター淡路第二

聖隷ヘルパーステーション淡路

2018年度、当センターは丁寧で迅速な対応、満足度の高いサービス提供、小児・障害・精神等幅広いニーズへ対応できる人材育成等を行いながら、ケアセンターとして多角的な支援を実施すると共に「住み慣れた地域で最期まで暮らしたい」方々を支援するターミナルケアを積極的に行ってきた。その結果、当訪問看護ステーションは淡路島唯一である機能強化型訪問看護管理療養費Ⅰを算定する基幹型訪問看護ステーションとなることができた。

2019年度は、機能強化型訪問看護ステーションに求められている24時間対応、重度者対応、看取りへの対応、他機関・多職種との連携等をケアセンター一丸となって充実させていくと共に、地域で生活する障害児・者への支援を促進する事業体制を整えていく。

【事業・運営計画】

1. 機能強化型ステーションとして、質の高い看護・リハビリテーションを実践する
 - (ア) 人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドラインを活用した看護実践
 - (イ) 主治医等との細やかな連携と早期で柔軟な対応による重度化予防を図る
 - (ウ) 幅広い年齢層と健康上のニーズを持つ全ての利用者へ支援を行う
 - (エ) 個別計画による統一されたケア実践で質の高い支援が展開できる
 - (オ) 地域住民に対する情報提供や相談、人材育成の為の研修を継続させる
2. ケアセンターのチーム力や総合力を向上させ、満足度の高いサービスを提供する
 - (ア) 介護・看護・リハビリ・ケアマネジャー等、各専門性を活かしたサービスが構築できる
 - (イ) 多職種合同でのケースCFや勉強会等を実施することで、チーム力を養う
 - (ウ) ICTを活用した細やかな情報共有で、利用者の変化に応じた早期対応ができる
 - (エ) 看護師との連携による訪問リハビリテーションを検証し、効果的な活動を継続させる
3. 通所介護事業所（リハビリテーション強化型デイサービス）を開設する
 - (ア) 運動機能向上・自立支援・生活力向上・認知症予防を目的としたリハビリテーションを実施する
 - (イ) 医療依存度の高い利用者に対応できる介護職員を育成する
 - (ウ) 小児・障害・難病等に対応できるための研修や施設見学を実施し、人材を育成する
 - (エ) 障害者相談支援事業所との連携を強化し、障害分野への関わりを増加させる
 - (オ) 障害児・者も利用できる共生型サービスを検討する
4. 地域における公益的な取組
 - (ア) 「まちの保健室」を定期開催し、地域や関係機関からの相談にも随時応じていく

(イ) 看護学生・研修医・医療機関看護師等の在宅看護実習を受け入れる

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション淡路）

医療事業		介護給付		予防給付	
月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価
379 件	11,200 円	1,166 件	6,900 円	162 件	4,800 円
サービス活動収益		170,497 千円	職員数（常勤換算）		23.7 名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター淡路第二）

年間請求件数		平均単価		訪問調査 月件数	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防			
52 件	15 件	12,200 円	4,000 円	1 件	8,430 千円	1.5 名

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション淡路）

介護給付			予防給付			障害（自立・移動支援）		
利用者数	月訪問数	単価	利用者数	月訪問数	単価	利用者数	月訪問数	単価
97 名	1,132 件	3,400 円	50 名	290 件	2,595 円	59 名	548 件	3,937 円
サービス活動収益			81,593 千円			職員数（常勤換算）		23.3 名

通所介護事業

地域密着型通所介護			介護給付		予防給付	
利用定員	稼働率	平均介護度	延べ利用者数	1日平均数	延べ利用者数	1日平均数
18 名	37.0%	1.6	860 名	6.7 名	0 名	0 名
サービス活動収益			8,009 円	職員数（常勤換算）		6.8 名

聖隷こども園夢舞台

聖隷福祉事業団が運営を受託し3年目を迎える。新園舎に移転して1年が経過し、園児が安心して過ごせる環境となった。2019年度も聖隷福祉事業団の教育・保育理念や園目標を職員一人ひとりが理解し、保育ができるように、毎日の保育実践とその振り返りの中で専門性を向上させていくことを目指していく。更に、職員一人ひとりが働きやすい環境を整え健康維持に努める。そして、キリスト教の精神を基本理念におき、子どもの最善の利益と健やかな成長を保障し子どもの育ちを支える教育・保育を提供することを保護者に丁寧に伝え、理解を深めていきたい。

また、2019年1月より淡路市で初の病後児保育事業が開始され、これまで以上に地域に愛され、信頼され、地域に貢献し続けることができる園となれるように研鑽を重ねていく。

【施設理念】

「隣人を自分のように愛しなさい」(マタイによる福音書 22:39)

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法、児童憲章、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づいて、心身ともに豊かな子どもを育てる。

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活をする
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業・運営計画】

1. 質の高いサービスを提供する
 - (ア) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、PDCAサイクルを用い、園児個々に合った計画を立案し、実践を行う
 - (イ) 年間研修計画に従い、施設内外の研修に参加し、知識や技術の向上を図る。また、各自の学びを職場にフィードバックして職場全体のスキルアップへとつなげる
 - (ウ) 園児の成長発達に合った環境を整え、園児一人ひとりが安心して自己発揮できるような関わりに努める
 - (エ) 保育職ラダーを活用し、個々のスキルアップとともに職員全体の質向上を図る
 - (オ) 聖隷訪問看護ステーション淡路と連携した病後児保育を行う
2. 信頼され、選ばれ続けるこども園となるため、保護者支援や地域交流に努める
 - (ア) リスクマネジメントを徹底し、事故の発生を未然に防止していくとともに、園児の状態変化に早期に気づき、対応を図る
 - (イ) 園児や保護者等の声を傾聴し、求められているニーズを抽出し、サービスに反映させる
 - (ウ) 地域の町内会や各種団体等と交流を図り、相互理解に努め、信頼・共助関係を構築する

(エ) 病後児保育事業を進めるに当たり、地域の子育て家庭の支援に努める

3. 地域における公益的な取組を継続実施する

(ア) 中学生・高校生の職場体験やボランティアを積極的に受け入れ、次世代育成に貢献する

(イ) 小学校との連携を図り、教育についての学び、就学への理解を深める

(ウ) 相談・見学等で来園される親子への理解を深め、職員が専門職として積極的に関わることで支援に努める

4. 安定した運営に努める

(ア) 適切かつ効率的な職員配置が行えるように業務の見直し、改善を図る

(イ) 消耗備品の購入状況、及び外部委託業者の契約状況を評価し、適正化を図る

(ウ) 行政機関との円滑な調整、情報開示の徹底、計画的な人員の確保等を図る

【数値指標】

利用者数	定員	120名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	児童 入所率 148.9%	入所数 4/1 現在	2名	22名	24名	27名	45名	25名	145名
		内、1号認定	0名	0名	0名	3名	0名	0名	3名
		内、障がい児	0名	0名	0名	0名	0名	3名	3名
		年間入所延人数	70名	271名	288名	338名	555名	300名	1,822名
特別 保育	年間利用延人数	延長保育							1,500名
		障がい児保育							36名
		一時預かり保育							250名
		病後児保育							50名
職員数 (常勤換算)			施設長	保育士	看護師	栄養士・調理師		事務	計
		正規職員	0.0名	20.0名	1.0名	委託		0.0名	21.0名
		パート・アルバイト	1.0名	4.0名	0.0名	委託		0.7名	5.7名
		計	1.0名	24.0名	1.0名	委託		0.7名	26.7名

奄美佳南園

特別養護老人ホーム奄美佳南園・デイサービスセンター・ホームヘルプ事業所
訪問入浴事業所・在宅介護支援センター・春日デイサービスセンター・
聖隷チャレンジ工房カナン

2019年度は奄美の地域で実施する高齢、障害、児童等の福祉サービスを総合的に提供できる仕組みを構築するとともに、地域の社会福祉法人と連携し、生活困窮や養育支援が必要な複合的な問題への取り組みを強化する。

福祉人材確保が困難な中、職員確保に取り組むとともに職員の資質向上や介護助手の受け入れ、介護機器の導入・ICT機器の活用を通じ、サービスの質の向上と業務効率化に向けた生産性の向上を図ることにより、介護の必要な人や障害による誰かの支えが必要な人が、「いつまでもその人らしく」安心して生活できる福祉の拠点としてのサービス実施に取り組みたい。

利用者との個別の関わりや、専門職員配置による加算取得に努め事業経営の安定強化に重点を置く。

また、児童発達支援センター聖隷かがやきについては移転新築後も運営支援を継続、協力していくこととする。

今後も、奄美地域内に潜在する福祉需要に応えるために、既存の福祉事業の変革や強化を図ることによって「地域にとって欠かすことのできない福祉拠点」としての価値を一層高めていけるように全職員が一丸となって事業計画の実現に邁進する。

【施設理念】

「夕暮れになっても光がある」

私たちが必要として下さる方々を支え、

このことを通じて私たち自身も共に幸せになれる奄美佳南園になる

【経営方針】

1. 利用者満足向上のために、高齢者・障害者複合サービス拠点としての機能を高める
2. 職員満足向上のために、福祉人材の育成と働き甲斐のある施設づくりを迫及する
3. 健全経営推進のために、既存事業の質・生産性の向上と、需要の発掘・事業化に取り組む
4. 地域社会貢献のために、公益的な事業活動に積極的に尽力する

【事業・運営計画】

1. 利用者満足向上のための取組

- (ア) 利用者の尊厳を大切にサービス提供や、職員の知識・技術向上のために、内外の研修に参加し、サービスの質の向上へ取り組む
- (イ) 利用者の個性・ニーズに合わせたプランを作成し、質の高いサービスを提供する
- (ウ) 利用者の安全な生活環境を高めるために、事故予防や入院予防、看取りケアの促進に取り組む

2. 職員満足向上のための取組

- (ア) 介護助手職員の受け入れによる業務効率化や、生産性の向上に取り組む
- (イ) 職員の資質と意欲の向上を図るために、テクニカルラダーの運用及びOJTを推進する
- (ウ) 職員負荷の低減及びサービスの質向上のために、ICT化の促進と介護機器の積極的な導入を図る

3. 事業の成長と安定した経営基盤の構築

- (ア) 奄美エリア相談機能連絡会において、営業活動の計画・実施・評価・改善により、目標稼働率を意識し、事業の安定化に取り組む
- (イ) 長期入院者のフォローによる入院期間の削減及び待機上位者の早期入所へ取り組む
- (ウ) 障害者雇用の促進の取り組みとして就労継続支援A型事業所開設を検討する
- (エ) デイサービスにおける児童発達支援・放課後等デイサービス（共生サービス）の開設、通所介護の統合化に向けた取り組みを検討・実施する

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 高齢者や障害者の孤立を予防するために、事業所機能を活かし、サロン活動、介護者教室、介護職場体験を実施する
- (イ) 生活困窮者に対し、就労への意欲向上・自信回復・社会的コミュニケーション向上等の訓練を実施し、介護助手等の就業体験を提供する
- (ウ) 介護保険事業での低所得者に対する利用者負担軽減の継続実施及び申請手続き代行業務をする
- (エ) 地域の社会福祉法人と連携し、「おもいやりネットワーク事業」での地域における社会福祉ニーズの課題解決に向けた取り組みを強化する

【数値指標】

	特養入所		短期入所		訪問給食	生活困窮
	従来型	ユニット型	従来型	障害		一時生活支援
利用者定員	50名	30名	10名			
利用者延べ人数	17,660名	10,596名	2,855名	110名	23,790名	48名
一日平均利用者数	48.25名	28.95名	7.80名	0.30名	65.00名	0.13名
稼働率	96.5%	96.5%	78.0%	3.0%		
稼働日数(延べ)	366日	366日	366日	366日	366日	366日
単価(一人一日当り)	11,930円	14,706円	11,698円	9,655円	670円	6,000円
サービス活動収益	210,686千円	155,824千円	33,400千円	1,062千円	15,941千円	288千円
職員数(常勤換算)	33.8名	21.7名	5.1名		2.5名	
	奄美佳南園デイサービス			春日デイサービス		
	地域密着	介護予防	生活介護		地域密着	介護予防
利用者定員	18名			15→18名		
利用者延べ人数	3,592名	221名	442名	2,321名	1,989名	
一日平均利用者数	11.62名	0.72名	1.43名	7.51名	6.44名	
稼働率	65.0%	4.0%	8.0%	42.0%	35.9%	
稼働日数(延べ)	309日	309日	309日	309日	309日	309日
単価(一人一日当り)	9,985円	5,308円	7,477円	10,506円	4,652円	
サービス活動収益	35,867千円	1,173千円	3,305千円	24,385千円	9,254千円	
職員数(常勤換算)	8.1名			5.0名		
	訪問入浴介護		ホームヘルプ		就労支援	
	介護	障害	介護	障害	移行支援	継続B
利用者定員					6名	14名
利用者延べ人数	701名	177名	4,819名	1,274名	1,105名	2,579名
一日平均利用者数	2.27名	0.57名	13.17名	3.48名	3.58名	8.35名
稼働率					60.0%	60.0%
稼働日数(延べ)	309日	309日	366日	366日	309日	309日
単価(一人一日当り)	15,846円	12,395円	4,422円	3,653円	11,102円	8,352円
サービス活動収益	11,108千円	2,194千円	21,308千円	4,654千円	12,268千円	21,541千円
職員数(常勤換算)	1.9名		7.5名		9.7名	
		年間利用数	稼働日数	単価	サービス活動収益	職員数(常勤換算)
在宅介護支援センター		1,440名	309日		5,952千円	1.8名
居宅介護支援	介護	960名	309日	16,575円	15,912千円	3.0名
	予防	396名	309日	4,273円	1,692千円	

春日保育園

近年、奄美地区においても核家族化が進み、初めての子育てやシングルペアレント（ひとり親家庭）等の育児不安や、親自身の余暇時間が持てなくなったことによる育児ストレスなどにより、ネグレクトを引き起こし子どもの健全な発達が家庭環境によって阻害されることが増えている。2019年はライフスタイルの多様化に合わせた保護者の支援を強化し対応していきたい。さらに、子どもの「心」を大切にする保育、「発達」に合わせた保育を目指すと共に、地域の子育て支援に取り組んでいく。

そして、北大島地域の障害児支援の充実を図る為に施設整備をする「聖隷かがやき」への支援と連携を更に強化していくこととする。今後も奄美エリア全体で一体的に福祉事業の強化を図り、地域から信頼され選ばれる施設を目指す。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝をもって生きる」

生きる力を培い、集団生活で自己発揮出来る環境づくり

【経営方針】

1. 保育の質と専門性の向上
2. 統合保育の実施と専門機関との連携
3. 地域における公益的な取組

【事業・運営計画】

1. 保育の質と専門性の向上
 - (ア) 保育理念、保育目標を理解確認し保育実践する
 - (イ) キャリアアップ研修や専門分野の研修に参加する
 - (ウ) ペアレントプログラム研修をより多くの保護者を対象に開催する
 - (エ) のぞみ園、聖隷かがやきと共に専門的な保育・療育に関する職員研修を開催する
 - (オ) 保育職ラダーや目標参画を通じ自己の課題や目標を明確にし、レベルアップを目指す
2. 統合保育の実施と専門機関との連携
 - (ア) 積極的に児童発達支援センターのぞみ園との並行通園児の受け入れを行う
 - (イ) 健康診査後の相談や発達検査等の連携を保健師と行う
 - (ウ) 保護者の不安解消や情報共有のために、保護者懇談会を開催する
 - (エ) 春日保育園単独の親子教室の開催を継続的に行い、専門機関との連携を図る
3. 地域における公益的な取組
 - (ア) 地域の子育て支援拠点として広報誌や行事等への参加の呼びかけを行う
 - (イ) 「子育てサロン」や「新米ママ、パパ保育所体験」を開催する
 - (ウ) 実習生を積極的に受け入れることや、学校へ出向く機会を設け、交流の場を増やす
 - (エ) 高齢者との触れ合いの場を設ける

【数値指標】

利用者数	定員	120名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	児童 入所 率 92.5%	入所数 4/1 現在	6名	22名	21名	15名	25名	22名	111名
		内、障害児	0名	0名	2名	0名	2名	2名	6名
		年間入所延人数	172名	282名	252名	180名	300名	264名	1,450名
特別 保育	年間利用延人数	一時保育事業							10名
		延長保育促進事業							960名
		障害児保育・療育支援							72名
職員数 (常勤換算)		施設長	保育士	栄養士	調理	保育 補助	事務 他	計	
	正規職員	1.0名	12.0名	1.0名	1.0名	0名	0名	15.0名	
	パート	0名	8.0名	0名	2.5名	2.5名	1.0名	14.0名	
	計	1.0名	20.0名	1.0名	3.5名	2.5名	1.0名	29.0名	

のぞみ園

児童発達支援センター、放課後等デイサービス、相談支援

発達障害支援については、「気づきの大事さ」や「診断前支援」の理解が深まり、奄美地域において早期支援につながるケースが年々増加してきている。その一方で各ライフステージに応じた支援体制の未成熟さや支援主体の変化により、利用者・家族の混乱や支援者間の連携不足、支援の継続性への課題等も生じてきている。

2019年度は、2018年度と同様に「発達支援」「家族支援」「地域支援」を柱として、更なる支援体制の強化に努めたい。また、北大島地域の支援体制充実に向け「聖隷かがやき」の施設整備支援と連携強化を図り、各ライフステージに応じた継続的な支援が奄美エリア全体で一体的に提供できるよう体制作りを推し進めていきたい。これらの取り組みを通して、地域から信頼され貢献できる施設運営を行っていきたい。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝を持って生きる」

～障害や発達につまずきのある子どもの発達に沿った発達支援～

【経営方針】

1. 児童発達支援センター・放課後等デイサービス事業所としての機能の充実と経営の安定化
2. 働きやすい職場環境作りと積極的な人材育成への取り組み
3. 地域交流と地域貢献（公益的な事業活動への取り組み）

【事業・運営計画】

1. 児童発達支援センター・放課後等デイサービス事業所としての機能の充実と経営の安定化
 - (ア) 専門職の配置と適正加算の取得による手厚い支援体制を整え、より丁寧に子どもたち一人ひとりの発達に沿った支援体制を強化する
 - (イ) 相談支援体制の充実（専門性の向上とより丁寧な相談支援）に加え、担当者会、情報交換会、保育所等訪問支援事業を通して、福祉と保育、福祉と教育の連携と子ども達の地域生活支援を強化する
 - (ウ) 年齢、発達段階に応じた支援、個別に関わる事ができる支援体制作りと、将来の自立（生活や就労等）を意識した支援体制作りを奄美エリアの各施設と連携して検討し、ライフステージに応じた継続性のある支援体制作りを推進する
 - (エ) 聖隷かがやきとの連携を強化し、奄美地域における療育施設としての事業価値を高める
 - (オ) 事業目標を意識し、効果的かつ効率的な運営管理を実施する
2. 働きやすい職場環境作りと積極的な人材育成への取組
 - (ア) 職員の定着と支援スキルの向上を目的として、職場目標・個別目標の管理と支援を行う
 - (イ) 階層別研修、各種専門研修、外部研修等への積極的な参加と段階的な職員の育成に取り組む

(ウ) 人口減少（少子高齢化、労働人口の減少）を想定した、事業所の体制作りを奄美エリアの各施設と検討する（事務連携、高齢者・障害者雇用、IT化、AI活用等）

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域の子育てに悩む保護者を対象に、のぞみ園独自の親子教室を開催し、親子の関係支援や子育て支援、保護者同士の交流促進、療育施設を知ってもらう取組を行う
- (イ) 療育等支援事業や事業所連絡協議会・自立支援協議会と連携し、地域の支援者育成研修を開催する
- (ウ) 発達障害への理解促進を目的に、地域の視察研修、福祉体験、実習の積極的受け入れを行い、発達障害や療育支援についての理解を広める活動を行う
- (エ) 家族会と連携し、発達障害児者とその家族の災害時における避難場所として活用できるように、災害対策用備蓄品の整備と環境整備を進める

【数値目標】

	児童発達支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	相談支援	障害児 相談支援
利用者定員	25名		20名		
利用者延べ人数	6,618名	46名	4,079名	46名	707名
一日平均利用者	28.16名	0.20名	17.36名	0.20名	3.01名
稼働率	112.64%		86.80%		
稼働日数（延べ）	235日	235日	235日	235日	235日
単価（一人1日当り）	11,530円	9,891円	7,181円	15,696円	15,376円
サービス活動収益	76,306千円	455千円	29,291千円	722千円	10,871千円
職員数	14.8名	1.1名	8.4名	3.7名	

聖隷かがやき

聖隷かがやきは、2016年の開設から「一人ひとりの子どもに向き合い、家族の願いに寄り添う支援」を大切に、障害や発達に不安を抱える本人、家族が安心して利用できる施設運営を行ってきた。その中で2018年度は念願の施設整備事業に着工する事ができた。

2019年度は、施設整備に伴う児童発達支援センター、放課後等デイサービス事業の開設により北大島の中核的な施設として質の高いサービスを提供できるよう、人材育成、地域支援に積極的に取り組んでいく。また、「切れ目のない支援」「本人、家族の願いに寄り添う支援」が将来にわたって提供できる体制作りを奄美エリア各施設と連携して行っていく。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝を持って生きる」聖書テサロニケ I 5 : 16-19

～障害や発達につまずきのある子どもの発達に沿った発達支援～

【経営方針】

1. 療育施設としての機能の強化と経営の安定化を図る
2. 働きやすい職場環境作りと人材育成への取組
3. 地域交流と地域における公益的な取組

【事業・運営計画】

1. 療育施設としての機能の強化と経営の安定化を図る
 - (ア) 子どものできること、得意なことに着目し育てる支援
 - ①アセスメントツールの見直しから発達段階の把握により療育活動のスモールステップでの目標設定による個別支援体制づくり
 - ②子どもが心地良いと感じる環境作り、取り組んでみたいと思う気持ちを育てる支援
 - ③家族が子どもの成長を感じる個別支援計画の作成
 - (イ) 家族支援
 - ①親子通園、個別面談を通して子どものできる力を感じ、子育ての見通しを持たせる
 - ②保護者同士の仲間作りを行う保護者交流の場の提供
 - (ウ) 地域支援
 - ①地域の保育所、幼稚園、学校との連携体制作りで顔の見える関係性の構築
 - ②地域からのニーズに応える支援体制
 - (エ) 経営の安定化
 - ①各種加算による適正な取得
 - ②業務の効率化、省力化
2. 働きやすい職場環境作りと人材育成への取組
 - (ア) 専門的な外部研修、地域施設内合同の研修、勉強会の実施

- (イ) 子どもの成長を実感し、共に喜び、やりがいのある職場体制作り
- (ウ) 春日保育園、のぞみ園との連携による人事交流を通して支援の質の向上を図る

3. 地域交流と地域における公益的な取組

- (ア) 地域の子育て支援として自治体の親子教室への参画、聖隷かがやき主催の親子教室の開催、育児相談などに取り組む
- (イ) 鹿児島県立大島養護学校、近隣施設との交流を図り、相互理解、共助関係を作る
- (ウ) 地域の自治会、シニアクラブ、育成会との合同での行事開催
- (エ) 学生の職場体験、実習、ボランティアを積極的に受け入れる

【数値目標】

	児童発達支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	相談支援
利用者定員	20名		10名	
利用者延べ人数	2,105名	35名	1,702名	22名
一日平均利用者数	8.96名	0.15名	7.24名	
稼働率	44.80%		72.40%	
稼働日数（延べ）	235日	235日	235日	175日
単価（一人一日当り）	10,459円	9,914円	8,242円	16,591円
サービス活動収益（千円）	22,016千円	347千円	14,028千円	365千円
職員数（常勤換算）	6.1名	1.1名	4.1名	0.7名

聖隷ケアセンター沖縄

聖隷訪問看護ステーションゆい
聖隷居宅介護支援センターゆい
聖隷デイサービスセンターゆい

2018年度、通所介護事業は開設2年目であるが、地域からの依頼も多く、順調な運営ができています。しかし、スペースの問題があり、今以上のニーズに応えられないという課題も含んでいます。訪問看護事業においては、同法人の居宅介護支援事業所からの紹介も含め、今までにない新規利用者を確保することができた。居宅介護支援事業は、職員が定着せず安定した運営ができない状況があった。

2019年度は、通所介護は、個別機能訓練加算Ⅰ・Ⅱやその他の加算を取得し収益増を図っていきたい。訪問看護も、法人内の居宅介護支援事業所のみならず、他事業所や病院からの信頼度を高め、経営の安定を目指す。居宅介護支援事業に関しては、職員体制を整えることを急務とし、3事業所の強みを活かした運営が出来るようにする。

また、読谷村と協力しながら、新たな沖縄地域における事業の展開を検討していく。

1. 訪問看護事業（訪問看護ステーション）

- (ア) 質の高いサービスが提供できるよう職員教育に注力し、他法人の居宅介護支援事業所や病院から新規利用者の紹介確保につなげていく
- (イ) 病院、他法人居宅介護支援事業所、地域包括支援センター等に積極的に営業活動を行い、新規利用者の確保を図る
- (ウ) ミニデイサービス・他法人デイサービス事業所との業務委託契約を継続し、地域との協働・連携をより深めていけるようにする

2. 居宅介護支援事業（ケアプランセンター）

- (ア) 職員体制を強化し、ケアセンター内で中心的事業となる
- (イ) 特定事業所加算Ⅲを取得し、経営の安定を図る

3. 通所介護（デイサービス）

- (ア) 個別機能訓練加算Ⅰ・Ⅱを取得し、地域からのニーズが高いリハビリテーション特化型に近いサービスが提供できるようにする
- (イ) 地域包括支援センターからの支援困難ケースの受け入れも継続し、地域のセーフティネットとしての役割を果たすことができるように教育、体制作りを強化していく
- (ウ) 地域住民のボランティア受け入れを継続し、地域に根ざす事業にしていく

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 嘉手納自治体主催の「高齢者遠足」の救護班（訪問看護）への参加の継続
- (イ) 認知症支援活動への参加（訪問看護・デイサービス）
- (ウ) 嘉手納地区内での「認知症の家族支援事業」への協力

【数値実績】

1. 訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーションゆい）

月訪問件数（件）		年間訪問件数		平均単価（円）		総収入 （千円）	職員数 （常勤換算）
医療	介護	医療	介護	医療	介護		
48	97	581	1163	11,398	8,154	19,210	3.5

2. 居宅介護支援事業（聖隷居宅介護支援センターゆい）

年間請求件数（件）		平均単価（円）		総収入 （千円）	職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防		
669	274	13,395	4,300	9,590	2.0

3. 通所介護事業（聖隷デイサービスセンターゆい）

月平均件数（件）		年間件数（件）		平均単価（円）		総収入 （千円）	職員数 3 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防	介護	予防		
330	68	3967	812	8,190	3,180	35,026	7.51

聖隷こども園わかば

子ども・子育て支援新制度施行開始後も、「量の確保・質の向上」が引き続き求められている。また、2018年度に3指針同時改訂された「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」により、発達・学びの連続性の重要性が明記され、乳幼児の質の高い教育・保育の提供が子どもの将来にわたる生きる力を育む基礎となる重要な時期であることが改めて問われている。質の高い教育・保育の提供が求められる中、園内研修・保育学会への取り組み等を通して職員の視野を広げ、保育職ラダー・目標参画・自己評価を有効に活用して専門性の向上を目指し、職員の育成にさらに力を注いでいきたい。

また、施設理念である“キリスト教の精神”を基本として「子どもの最善の利益」を保証し、子どもの育ちを支える教育・保育を提供するとともに、職員にとって働きやすい職場作り、職員の健康維持に努める。そして、職員一人ひとりが社会状況の動きに関心を持ち、何が必要か考え見極めていく力をつけるとともに、今後確実に進む少子化に対し、今まで以上に選ばれる園として自園の強みを分かりやすく地域に発信していきたい。そのための一環として、地域の子育ての拠点施設として引き続き園を開放し相談事業にも力を注ぐとともに、病後児保育事業、統合保育の推進等、関係機関・地域との連携を図り取り組みを進めていきたい。

【施設理念】

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法・児童憲章にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の教育・保育を目指す

『子ども自身に生きさせよ～自分で考え判断し行動する子ども～』

キリスト教の精神を基本理念におき、集団生活をとおして人への思いやりや優しさを、また恵まれた環境の中での様々な経験をとおして逞しい心身の成長を育む

【経営方針】

1. 入所希望のニーズに応えることで安定した運営を図り、1号認定の受け入れを開始する
2. 職員一人ひとりが認定こども園への理解を深め、施設理念・園目標をもとに子ども一人ひとりの育ちを支える教育・保育を行う
3. 地域につながる子育て支援をすることにより、地域での存在の意義を深める
4. 災害対策への取り組みに対し、見直しを行い強化を図る

【事業・運営計画】

1. より質の高い教育・保育を実践する
 - (ア) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、園児の発達の連続性を考慮して、0歳から小学校就学前までの一貫した教育・保育を展開していく
 - (イ) 乳幼児が主体的・対話的・深い学びができるよう、保育者の関わりについて学びを深めるとともに、継続的に遊びが展開できるような環境作りを進め、発達に即した教育・保育内容の充実を図る

(ウ) 年齢ごとのクラスを基本に、異年齢グループ・少人数グループでの保育の実践を通して一人ひとりの発達に即したよりきめ細やかな保育を行う

2. 保育職としての専門性を高める

(ア) 園内研修の充実を図り、職員一人ひとりが園の理念・目標を理解し、教育・保育の実践を行う

(イ) 保育職ラダー・目標参画・自己評価を用いて、自己の課題を明確にした上で教育・保育を実践し、評価を行い、改善点を更なる向上につなげる

(ウ) 職員一人ひとりが専門性の向上のため研修等に積極的に参加できるよう支援する

3. 様々な視点から保育環境の充実を図る

(ア) 食育の推進

管理栄養士・調理師と連携を図り、野菜栽培やクッキング等の体験や、日常の保育の中に食育を意識した活動を多く取り入れる

(イ) 子育て、親育て支援

園便り・クラス便り・連絡ノート・ドキュメンテーション・フォトラーニング・ホームページ・掲示板・懇談会等を通して教育・保育内容・子どもの育ちを保護者に分かりやすく発信し、育ちを共有していく

4. 地域における公益的な取組

(ア) 園庭開放、育児相談、子育て支援ひろばの充実を図り、子育てに悩みを抱える方の相談、安心して過ごせる場の提供を行う。子育てや子どもの成長に喜びを感じ、親としての成長を実感することでより良い親子関係を築けるよう支援する。また、地域に出向く出張ひろばを通し、地域の子育て力向上に寄与する

(イ) 中高生の職場体験の受け入れや近隣施設の高齢者との世代間交流を積極的に図り、次世代を担う若者の支援や高齢者の生きがいがづくりに貢献する

【数値指標】

利用者数	定員	206名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	児童 入所率 83.9%	入所数 4/1 現在	12名	28名	34名	33名	32名	32名	171名
		内、1号認定				2名	0名	0名	2名
		内、障害児	0名	0名	0名	0名	2名	1名	3名
		年間入所延人数	200名	336名	408名	420名	384名	384名	2,132名
特別 保育	年間利用延人数	延長保育							1,440名
		障害児保育							720名
		一時預かり保育							120名
		病後児保育							240名
		地域子育て支援拠点事業							2,500名
職員数 (常勤換算)		施設長	保育士	看護師	栄養士	調理師	事務他	計	
	正規職員	1.0名	21.0名	1.0名	0名	0名	0名	23.0名	
	パート・アルバイト	0名	10.5名	0名	0.4名	3.8名	3.3名	18.0名	
	計	1.0名	31.5名	1.0名	0.4名	3.8名	3.3名	41.0名	

聖隷こども園桜ヶ丘

浜松市全体で待機児童解消に向けての取り組みが続き、小規模園も含めて新しい園が開園される中、選ばれる園として引き続き質の高い保育を行っていかなくてはならない。2018年度より全国的に保育教諭のキャリアアップ研修が開催されるようになり、役割に応じた研修を受ける機会が与えられるようになった。保育教諭自身が自分の役割を自覚し、明確にすることで具体的な課題や目標が立てやすくなっている。それを園内で活かすことで園全体の保育の質の向上につなげていきたい。また、今後も保育士ラダーの運用に合わせて職員自身が主体的に学べるような環境を整え、スキルアップやモチベーションアップ、そして人材確保につなげていきたい。

2017年には保育業務の効率化を図るために保育システムが導入され、今後は午睡中の事故防止の取り組みに向けても新たなシステムが導入される予定である。新システムを上手く使いながら働きやすい環境の確保に努めたい。

また特に2019年度は、「子どもが主体的に遊べる環境作り」に重点をおいて、園内外での研修に参加し、物的・人的環境を見直しながら子どもの発達を保障していきたい。そして在園の保護者、地域の子育て家庭、近隣施設に信頼され、貢献できるこども園であり続けるよう職員一人ひとりが自覚を持って努力をしていきたい。

【施設理念】

1. 子どもたち一人一人が愛され受け入れられて愛することを知る
2. あそびや体験を通して心身を育て、子どもたち一人一人の個性を伸ばしていく

【経営方針】

1. 職員一人ひとりがこども園への理解を深め、入園希望者のニーズを理解し、応えることで安定した運営をしていく
2. 職員一人ひとりが、園目標を基に質の高い保育を実践できるよう、職員の資質向上を目指す
3. 信頼され、選ばれる園となるよう園内外の保護者支援に努める
4. 地域に信頼される園となるべく、地域との交流を深めて地域貢献を図る

【事業・運営計画】

1. 質の高いサービスを提供する
 - (ア) 施設理念や全体的な計画・教育保育課程、改訂後の「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を基に、PDCAサイクルを用いて園児個々の発達に則した計画を立案、実践する
 - (イ) 園児の成長発達に合わせ、主体的に過ごせる環境を整え、園児一人ひとりが安心して自己発揮できるような関わりに努める
 - (ウ) 保育士ラダーを活用し、職員個々の課題の明確化、スキルアップと共に各自が自分の役割を理解し、キャリアアップを目指しながら職員全体の資質向上を図る

2. 安定した運営の意識を持つ

- (ア) 職員一人ひとりが施設設備を丁寧に扱い、省エネルギーやエコロジーを心がける
- (イ) 地域や子育て家庭のニーズを掴み、親子ひろばや一時預かり事業を積極的に行う。また運営への意識を持ち、地域の入所ニーズの把握に努める
- (ウ) 働きやすい環境整備、並びに計画的な業務推進により、職員の心身の健康維持に努める

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 中高生の職場体験やボランティアを積極的に受け入れ、次世代育成に貢献する
- (イ) 親子ひろばや園見学等で来園される親子への理解を深め、職員が専門職としての意識を持ち丁寧に関わることで保護者支援に努める
- (ウ) 地域の自治会やシニアクラブ、近隣施設と交流を図り、相互理解や連携、信頼関係や共助関係を構築する

4. 環境を通して教育・保育の充実を図る

- (ア) 畑やプランターでの野菜栽培やクッキングを通し、季節の移り変わりを感じられるようにする。また、クッキングを通し旬の味を感じ、食べ物への興味関心へとつなげる
- (イ) 管理栄養士や調理師・保育士が連携して食育活動を展開し、園児や保護者が食に対する興味を持てるようにする
- (ウ) 豊かな自然環境を活かして、生き物や自然物に興味・関心が持てるような保育を展開し、豊かな感性を育む
- (エ) 子どもが主体的に生活できる環境を整え、遊びや体験を通して学べる保育を展開する

【数値指標】

利用者数	定員	190名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	児童 入所率 95.4%	入所数 4/1 現在	12名	30名	30名	32名	35名	35名	174名
		内、障害児	名	名	名	名	2名	3名	5名
		年間入所延人数	144名	360名	360名	384名	420名	420名	2,088名
特別 保育	年間利用延人数	延長保育							1,020名
		障害児保育							1,500名
		一時預かり保育							120名
		食物アレルギー児							300名
職員数 (常勤換算)			施設長	保育士	看護師	栄養士・調理師	事務他	計	
	正職員	1名	19名					20名	
	パート・アルバイト		8.8名	1名		4名	3.1名	16.9名	
	計	1名	27.8名	1名		4名	3.1名	36.9名	

聖隷こども園ひかりの子

2019年4月より、新たに1号認定6名を増員し定員236名となる。消費税増税に伴い実施される「幼児教育・保育の無償化」により待機児童の増加も懸念され、引き続き待機児童の積極的な受け入れを行う。園児一人ひとりの入園から修了までの発達及び学びの連続性を踏まえ、各々の時期の発達課題に即した教育・保育を目指し、地域から選ばれる園として質の高い保育を追求していく。

また、障害児や発達に偏りのある児童、外国籍児童等含め、すべての子どもの最善の利益と健やかな成長を保障すると共に家庭への丁寧な支援が必要である。その為には、職種や役割の異なる職員が多方面からの視点で園児を捉え、互いに見合う保育体制が必要であり、職員間の連携・協働性が求められる。職員一人ひとりがキャリアデザインを描き、必要に応じて外部研修への参加機会を確保し、専門性・人間性を高め、教育・保育の質の向上を図る。

【施設理念】

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法、児童憲章、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づいて、心身ともに豊かな子どもを育てる。

【経営方針】

1. 愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業運営計画】

1. 教育・保育の質の向上
 - (ア) 保育理念に基づくキリスト教保育について、学習会等で具体的な学びを深め保育実践につなげる
 - (イ) 子どもが主体的に遊び込める環境を工夫し、PDCAサイクルを意識し、記録や映像に残しながら職員の理解を促す
 - (ウ) 子どもの非認知能力を培うため、異年齢保育や少人数での保育等必要に応じて保育形態を工夫し、生活・遊びの中で、他者との交流が図れる環境（空間・時間・物等）を整える
 - (エ) 子どもが運動機能の発達に応じて十分に体を動かすことを経験し、活動意欲を育むよう、職員の知識、技術の向上に努める
 - (オ) 日々の保育の様子や教育・保育のねらいや目的、意図を丁寧に伝え、保育を可視化することで保護者との相互理解を図る

2. 職員の資質向上及び働きやすい職場環境の整備

- (ア) 保育職ラダーや自己評価を通じて、自己の課題や役割を明確にし、園内外の必要な研修に積極的に参加する。また、研修内容を他の職員と共有し実践につなげる
- (イ) 役職・職務内容に応じて組織的に役割を担えるように、体系化に努め、部門毎の会議等を実施し、問題解決に向けて具体的に取り組む
- (ウ) 情報の共有化を積極的に図ることで業務の効率化につなげる

3. 教育・保育関係機関との連携

- (ア) 幼・保・小連携の強化を行う。与進幼稚園児・与進小学校の生徒との交流（授業体験・プール交流等）に加えて、教職員同士の学び合いの場を設ける
- (イ) 東区役所・社会福祉協議会・発達医療センター等の職員との情報交換・共有を図る
- (ウ) 地域の美化活動・子育て会議・老人クラブとの交流に参加し、地域の実態を把握すると共に、園の保育・教育内容の発信を行う

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域の子育て家庭に、集い・交流の場所を提供する（親子ひろば・園庭開放）
- (イ) 地域の子育て家庭への相談機会の提供をする（電話・メール・面談・図書館での出前相談）

5. 主な施設整備

- (ア) ホール改修

【数値目標】

利用者数	定員	230名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	児童 入所率 83.7%	入所数 4/1 現在	9名	30名	36名	44名	44名	40名	203名
		内、1号認定	-	-	-	3名	0名	0名	3名
		内、障害児	0名	1名	1名	1名	2名	1名	6名
		年間入所延人数	108名	360名	432名	528名	528名	480名	2,436名
特別 保育	年間利用延人数	延長保育							1,500名
		障害児保育							1,200名
		一時預かり保育							100名
		食物アレルギー児							1,150名
		親子ひろば							1,450名
職員数 (常勤換算)			施設長	保育教諭	看護師	栄養士	調理師	事務他	計
			1.0名	22.0名	0.0名	0.0名	1.0名	0.0名	24.0名
			0.0名	8.5名	0.7名	0.0名	4.1名	3.2名	16.5名
			1.0名	30.5名	0.7名	0.0名	5.1名	3.2名	40.5名

聖隷こども園めぐみ

開園して3年目を迎える。浜松市では乳児の待機児童数が多いため、2019年度は乳児の定員数を増員し受け入れをする。そして、新たに1号認定の入園希望者の要望に応えるため、1号認定の定員を6名設定し定員を166名とした。開園時の入所率57.6%から3年目の2019年度は89.2%となる。

2015年度から「子ども子育て支援新制度」が施行されてからの開園であり、制度の目的である「学校教育・保育の一体的な提供と質の向上」は、開園時に作成した園の「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」を基に職員の日常の保育・教育実践と併せて研修し、再確認、共有化を今一度図りたい。

また「地域の子育て支援の充実」にも「親子ひろば」を行いながら、地域社会で情報収集を図り、園として可能な支援体制をつくっていく。

10月から消費税が10%に改正されることから3歳以上児の保育料無償化も進められており、それによっても今後の就学前の幼児教育・保育を始めとして、子育てに関する制度環境が変化することも予測される。そのような中でも「こどもの最善の利益」が保障され、それによって子育てしやすく、少子化対策につながっていくようになることを願う。

【施設理念】

「隣人を自分のように愛しなさい」

マタイによる福音書 22章 39節

「わたしがあなた方を愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」

ヨハネによる福音書 13節 34節

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る
2. 一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上

- (ア) 「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」の確認、共有化をするために、年間、月間指導計画や日誌等と関連付けて作成、記録し会議の中でお互いに実践報告しながら意見を出し合う
- (イ) 聖隷でこれまで培ってきたキリスト教保育を主にモンテッソーリ教育の勉強会を通して、より具体的に学ぶ。モンテッソーリ教材の使い方を学ぶことから、必要な教材を発達にあわせて創っていく
- (ウ) 園内外の研修には、時間が許す限り参加し、お互いに報告する中で共有化しながら教育・保育の質を高めていく
- (エ) 聖隷保育学会は、職員が主体的に疑問や課題を見つけて、解決するために互いに取り組

み、乳幼児の教育・保育の醍醐味や達成感を味わう

(オ) 保育職ラダーのマニュアル、ガイドラインの読み込みから、自身を客観的に評価できるようにする。苦手とする項目を意識し、改善し、レベルアップを目指す

2. 和合せいれの里の施設利用者との交流<共生社会の実現>

(ア) 恵まれた環境（高齢者、障害児者、乳幼児など色々な人が身近で生活している）を最大限に生かすために、形だけの言葉、交流ではなく「共生社会」のあり方を聖隷の理念とあわせて里内全体の職員がお互いに確認しながら交流を行っていく

3. 子育て支援と地域における公益的な取組

(ア) 主に親子ひろばに来る方々から、地域の子育ての現状把握や近隣のこども園、保育園とも連携を模索、支援活動につなげていく

(イ) 在園家庭及び地域の子育て家庭への育児相談（懇談会・電話・面接等）や育児講演会を行う

(ウ) 小学校の長期休み期間中の学童保育・学習支援を聖隷めぐみ保育園と共同で行う

(エ) 子どもの生活リズムを整えるために、長時間就労、一人親家庭の夕食の提供支援

4. 保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくり

(ア) 保育システムの使い方に慣れ、書式も簡素化し、指導計画、日誌等のシステムを利用しながら PDCA サイクルを業務の中に取り組み、業務省力につなげていく

(イ) 職員間での業務内容を年、月、週、日と互いに見える化し、業務が勤務時間内で行なわれるようにお互いに意識して取り組む

【数値指標】

利用者数	定員	166名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	年間児童	入所数 4/1 現在	7名	22名	24名	33名	32名	25名	143名
	入所率 89.2%	内、1号認定	-	-	-	4名	0名	0名	4名
		内、障害児	0名	0名	0名	1名	3名	3名	7名
		年間入所延人数	113名	280名	288名	348名	384名	300名	1,713名
特別保育	年間利用延人数	延長保育（1時間延長・月平均）							120名
		一時預かり保育							450名
		病後児保育							100名
		食物アレルギー児							60名
		学童保育（長期休み）							60名
職員数 (常勤換算)		施設長	保育士	看護師	栄養士 調理師	保育 補助	事務他	計	
	正規職員	1名	18名	-	(委託)	-	-	19名	
	パート・アルバイト	-	4.2名	0.9名	-	1.6名	1.4名	8.1名	

聖隷浜松病院ひばり保育園

ここ数年、産休・育休からの職場復帰に伴い、特に0歳児の途中入園が増えて従業員枠は定員を大きく上回ってきている。事業所内保育所として事業所のニーズにいつでも応えられるよう受け入れ可能な体制を整えるべく、2019年度は職員を定数より多く配置して備えていきたい。反面、3歳以上児は就学に備えて自宅近くの園に転園する傾向がみられ、在籍はここ数年常に定員の6割程度に留まっている。2018年4月より学童保育アイビーが新運用でスタートして利用者が増えてきた事を受け、2019年度は3歳以上児から小学生まで長く継続して利用していただける園となるよう園舎改築をし、乳児保育室および学童保育室の整備を図っていく。加えて、病後児、休日、夜間、学童保育といった事業所のニーズに対応した現状の事業を行うための職員確保にも努め、職員の負担を軽減し、日々活力と笑顔があふれる働きやすい職場にしていきたい。

【施設理念】

キリスト教精神を基本理念として関係法令を遵守し、新保育所保育指針やキリスト教保育指針にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の保育・教育を目指す。

【経営方針】

1. 新保育所保育指針に基づいた乳幼児期の保育・教育推進のための環境を整える
2. 職員の資質向上を図り、利用者との信頼関係を構築して利用増に繋げる
3. 乳児クラスの定員増及び学童保育充実のための環境整備を図る
4. 地域や小学校との連携を図り、子どもたちの育ちを支える

【事業・運営計画】

1. 専門性の向上を図る
 - (ア) 研修計画に沿って園外研修への参加を促進して学びの機会を増やすとともに、キャリアアップを図る
 - (イ) 保育士ラダーや目標参画システムを活用し、個々のスキルアップを図る
 - (ウ) 職場内研修を充実させ、職員の自主性を育む
2. 運営の安定化を図る
 - (ア) 教材や光熱費などのコスト意識の向上を図る
 - (イ) 休憩時間の確保や超過勤務を減らすなど、働きやすい職場づくりを推進して保育士の離職を防ぐ
 - (ウ) 職場内のコミュニケーションを活発に行い、チーム保育の充実を目指す
3. 質の高い保育サービスの提供
 - (ア) 新保育所保育指針への理解を深め、教育に視点をあてた活動を展開する
 - (イ) 自己評価を行い、園の強み弱みを把握して改善に努め、利用者還元する
 - (ウ) 聖隷のこども園・保育園と連携を図り、情報交換、保育士交換及び保育学会での学び合いを深め、自園の保育に生かす

4. 地域における公益的な取組

(ア) 育児講演会や人形劇などの催しを企画し、回覧板やホームページなどで子育て家庭に参加を呼び掛ける

(イ) 防災訓練や文化展などに参加、出品し、地域との連携を深めて自助共助につなげる

【数値指標】

		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
従業員枠 定員 125名	入所数 4/1 現在	4	25	15	10	18	11	83
	年間延人数	180	300	180	120	216	132	1,128
地域枠 定員 20名	入所数 4/1 現在	3	7	7	/	/	/	19
	年間延人数	60	84	72	/	/	/	216
職員数 (常勤 常換算)		施設長	保育士	看護師	保育助手	栄養士	用務/事務	計
		1	21	/	0	/	1	23
		/	5	0.8	1	0	0.4	7.2
		1	26	0.8	1	0	1.4	30.2

聖隷のあ保育園

2019年4月1日より、市街地の中心部に位置するマンションの一階部分で、定員19名の小規模保育事業A型施設として開設する。未だ解消されていない待機児童対策と、近隣企業にお勤めの家庭、近隣の子育て家庭の支援を併せて行うこととなる。新設施設としてまずは、利用者が安心して預けられ信頼が得られるような保育内容の充実を図ると共に、利用者や地域のニーズの把握に努めていきたい。そして、連携施設である「聖隷こども園ひかりの子」「聖隷こども園めぐみ」とは食事提供や土曜保育などにおいてスムーズな連携を図っていきたい。

【施設理念】

1. 子どもたち一人ひとりが愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
2. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てができるよう支援する。

【経営方針】

1. 保育の基盤をキリスト教に置き、子ども一人ひとりが心身共に豊かな成長発達ができるよう丁寧な保育を行う
2. 定員19名という少人数の園の特性を生かし、乳児期の心身の発達に必要な十分に養護の行き届いた環境を整えていく
3. 在園、地域の子育て家庭が豊かな環境で子育てできるように、保護者の就労、子育て状況を把握し、子どもの成長発達と併せて保護者支援を行っていく

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上。利用者に質の高い保育・保護者支援を行う
 - (ア) 新規事業となるため、聖隷でこれまで培ってきたキリスト教保育を基盤に保育を形づけていく
 - (イ) 小規模事業に関する外部研修に参加し、研修内容を職員間で共有する
 - (ウ) 養護と教育が一体になった保育を、子どもの成長発達に関連付けて行うために、常に子どもを観察し、子どもを理解するよう努める
 - (エ) 保育環境を子どもの発達と併せて考え、内容と環境を常に見直し改善していく
2. 保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくりを目指す
 - (ア) 保育システムに慣れ、業務省力につなげる
 - (イ) 職員間でお互いにコミュニケーションを図り、報告、連絡、相談を徹底する
 - (ウ) 職員が働きやすい環境を整え、心身の健康維持に努める
3. 地域における公益的な取組
 - (ア) 地域の子育て家庭のニーズを探り、保護者理解、育児支援に努める
 - (イ) 地域に向けて発信し、認知度を上げる

【数値指標】

利用者数	定員	19名	0歳児	1歳児	2歳児	合計
	4/1入所児童予定数		2名	4名	3名	9名
	年間入所延人数		42名	54名	42名	138名
職員数		保育士				
	正規職員	6.0名				
	パート	1.0名				
	計	7.0名				

こうのとりの保育園

日本の人口減少は深刻化を増し、2017年の出生数は約94.6万人となり、1973年の209万人の半数以下にまで減少した。一方で、1995年4月に約160万人だった保育所利用児童数は近年急激に増加し、2017年4月には保育所利用児童数は254.7万人となり、統計史上最高を更新している。出生数が統計史上最低なのに、保育サービスは、年々、増加の一途をたどっている。

2019年の10月には、幼児教育・保育の無償化が行われようとしている。これは実質的に幼児教育・保育の義務教育化に近いものがあり、重要な少子化対策といわれている。その一方で、保育ニーズの増大に伴う保育人材不足の深刻化が懸念される。

人づくりの土台となる乳幼児期に、子どもの主体性を最大限発揮できるように環境を整え、個人の尊重と合わせて、他者との共生を視野に入れ、生きる力を育てていくために具体的な目標を掲げて進みたい。そして、保護者を受け止め、その主体性を尊重して支援していきたいと考える。

【施設理念】

『隣人を自分のように愛しなさい』マタイ福音書 22:39

『わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい』ヨハネ福音書 13:34

【経営方針】

1. 神に愛され、多くの人から愛されていることを感じ、愛する心を育む
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いが大切な存在であることを知り、認め合いながら主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業・運営計画】

1. 保育の質向上への取組

(ア) 子どもの最善の利益を考え、保育者一人ひとりが、保育理念・保育目標を理解して保育実践にあたる

(イ) 乳児期からの育ちの連続性を重視し、0～2歳児の保育内容の充実が図られた。幼児教育においても育みたい資質・能力を具体的な姿として示された。それらを軸とし、乳幼児期の育ちの連続性を考え、一人ひとりの成長発達に合わせた保育実践に結び付けていく

(ウ) 保育の実践課題に基づいた研究を聖隷保育学会に繋げ、聖隷の保育の確立を目指す

(エ) 統合保育の実践

①障害児を対象とした一時保育「こひつじ保育」では、日々の生活の中で在園児との交流を行い、保護者や子どものニーズを踏まえ、専門機関と連携し計画的に保育を行う

②「磐田市発達支援センターはあと」の巡回相談を積極的に利用することで専門的な観点の理解を深め、個別・集団における保育（療育）の実践に繋げる

(オ) 歳児・異年齢別クラスを、更に少人数に分けたきめ細やかな保育の実践

①異年齢保育や少人数保育を行う意義・目的・効果について、具体的場面を通して共有

し、職員同士が語り合い、課題に向き合い、経験年数の少ない職員の理解につなげる
 ②乳幼児期の養護と教育を一体的に考え、発育を促すための心地良い生活を基盤に、一人ひとりの成長に合わせて、保育環境を整える

2. 利用者（保護者と子ども）を中心に置いた子育て支援

- (ア) 保育研究や保育実践を通して得た子どもが育つ姿を映像や写真などを用い、子ども一人ひとりの育ちが同じでなく、感じ方や興味の持ち方にも違いがあることを保護者に伝え“日々、何を大切に育てているか”を保護者と一緒に考え合う機会を持つ
- (イ) 「親育て」を基本とし、保護者向けに「子どもの育ちのメカニズム～無限の可能性を秘めている子どもたち～」と題して講演を企画し、保護者と共に職員も専門性を磨く

3. 職員の専門性を高め、働きやすい職場環境の整備

- (ア) 職員の専門性を高めるために、『保育環境を考える』と題して、磐田地区で保育士交換等を行い、意見交換をする。キリスト教保育勉強会も継続していく
- (イ) 人材育成のツールとして保育士キャリアラダーを活用し、職員の意識向上を図る
- (ウ) 園内学会及び保育学会を活用し、専門職としての意識向上を図る
- (エ) キャリアアップ研修を受けた専門リーダーの組織における役割を考え活かせる場を作る
- (オ) パート職員の意見を反映させる場を作り、その内容について丁寧に応えていく

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域の子育て中の母親たちが主体的に企画運営する場を提供し、地域交流へとつなげる
- (イ) 地域住民や小中高生との交流など多世代の方たちが子育てに関わる機会をつくる

【数値指標】

利用者数	定員	120名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	
	年間児童 入所率 120.4%	入所数 4/1 現在	9名	24名	25名	27名	27名	25名	137名	
		内、障害児			1名		2名	4名	7名	
		年間入所延人数	182名	304名	300名	324名	324名	300名	1,734名	
	特別 保育	年間利用延人数	延長保育							1,500名
			障害児保育							1,200名
			一時預かり保育							900名
			休日保育							200名
病後児保育							50名			
食物アレルギー児							1,200名			
学童保育							500名			
地域子育て拠点事業							3,000名			
職員数 (常勤換算)		施設 長	保育士	看護師	栄養士・調理師		事務他	計		
	正規職員	1.0名	15.0名	1.0名		2.0名		19.0名		
	パート・アルバイト		16.0名		(0.1名)	1.3名	4.3名	21.6名		
	計	1.0名	31.0名	1.0名	(0.1名)	3.3名	4.3名	40.6名		

聖隷こども園こうのとり東

幼保連携型認定こども園になり2年目を迎える。幼稚園枠（1号認定）の利用者も増えている。2019年度は旧南御厨幼稚園園舎跡地を駐車場並びに園庭にする為の整備が始まる。これにより園児、児童クラブの利用人数の増加と共に園庭、駐車場の狭さの問題が解決につながる。園児や小学生が夢中になって遊びながら運動機能を促すことができる環境が整う為、発達の連続性を意識した教育・保育につなげることを職員と共に研鑽していきたい。教育・保育の視点では国内外の研修、勉強会、日々の保育の振り返り等を通して、視野を広げること、足元をしっかりと見据えること、理念からぶれないことを目標に保育の質を上げていく。

今後は、幼児教育の無償化等、社会保障の変化に伴い、様々な問題、課題が生じることが予想される為、行政や民間園との連携の元、情報交換をしながら決定、解決につなげていく。また、学童の不足も社会問題であるが、自園の放課後児童クラブ（オリーブ）も定員を超える希望が出てきている為、優先順位を考慮しながら受入れていきたい。

【施設理念】

『隣人を自分のように愛しなさい』 マタイによる福音書 22:39

【経営方針】

1. 一人ひとりが愛される経験を通して愛する心を知り、互いが大切な存在であることを認めながら生活する環境を作る
2. 生活、あそび等の豊かな経験を通し創造性や意欲を育てる
3. 地域のお年寄り、子育てサークル、多文化交流センターとの繋がりの中で、豊かな人間関係や感謝する心を育成していく

【年度事業目標・年度重点施策】

1. 保育の質の向上
 - (ア) 保育者が保育理念と保育目標を理解し「一人ひとりを大切にする保育」を実践していく
 - ① 子どもが主体性、探究心を発揮できる様、保育環境を研究することで保育力を向上させる（保育学会・園内勉強会・園内外研修等）
 - ② 保育士ラダーや目標参画の自己評価を行う事で、職員がそれぞれの目標を立て、自己の役割を明確にし、各々のスキルを磨く
 - ③ 保育知識・技術向上の為、研修体系を整えていくことで職員のスキルアップを目指す
 - (イ) 保護者支援の実践
 - ① 保護者総会で保育理念、保育目標を土台にパワーポイントや写真を使い、子どもの様子、成長を伝える。また園便り、クラス便り、ドキュメンテーションを媒介に分かりやすく伝えていく。尚、外国人保護者にも丁寧に伝えていく
 - ② 日々の様子から保護者の悩み、困り感を掴み、必要に応じて声掛けをすることで、適切な援助が出来る関係性を築いていく。あわせて、懇談会を充実させることで子育ての楽しさを共有化する
 - ③ 地域への施設開放を行いながら、保育士・看護師・栄養士等の専門性を生かした支援

を展開していく（歯磨き指導・身体測定・健康相談・発達相談等の相談業務の充実）

2. 統合保育・他機関との連携

- (ア) 保護者・保育者と共に障害児の受入れを行う目的の共有化を図りつつ、療育と連携する
- (イ) 虐待の危険が伺われる家庭や精神障害のある保護者の問題については、必要に応じて園と専門機関が連携し、子どもの安全を守り、情緒の安定を図る関わりをしていく

3. 食育の推進と環境

- (ア) 栄養士・調理師・保育士が連携をとりながら、野菜づくりや親子クッキング等の活動を通し、子ども達や保護者の食への関心を膨らませていく

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 畑、田んぼを媒介に高齢者と園とがつながりを持ちながら、行事参加等での交流を図る
- (イ) 看護師による健康管理（血圧測定・健康体操指導）を年2回行う

5. 放課後児童クラブ“オリーブ”

配慮が必要な児童が増えていることから、落ち着いて生活できる場を作っていく。必要に応じ懇談会や面接を行いながら、家庭との連携をとることでより児童理解に繋げていく

定 員：40名

対 象 児 童：市内1年生～6年生

児 童 予 定 数：通常36名（夏休み：45名）

通常利用対象：東部小、田原小、福田小 ※田原小・福田小については送迎車利用

【数値指標】

利用者数	定員	215名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	
	児童 入所率 95.7%	入所数 4/1 現在	9名	30名	35名	39名	40名	30名	183名	
		障害児				1名	1名	3名	5名	
		外国人	1名	1名	1名	5名	3名	4名	15名	
		年間入所延人数	174名	396名	429名	432名	468名	348名	2,247名	
	特別 保育	年間利用延人数	延長保育							1,200名
			乳幼児保育							825名
			一時保育							250名
			病後児保育							100名
			放課後児童クラブ“オリーブ”							9,000名
食物アレルギー児							1,200名			
外国人保育							3,600名			
職員数		施設長	保育士	看護師	管理栄養士・調理師		事務他	計		
	正規職員	1名	20名					21名		
	パート・アルバイト		16名	1名		4名	5名	26名		
	計	1名	36名	1名		4名	5名	47名		

聖隷こども園こうのとり豊田

2018年度は保護者の就労状況に応じて、1号認定（幼稚園枠）で入園した後に、就労状況の変化に応じて2号認定（保育園枠）に変更する園児が4名いた。このように保護者の働き方の変化に対応ができたことは、こども園としての機能を発揮できたと言える。2019年度は、10月の消費税増税と同時期に幼児教育無償化が行われる予定である。様々な変化に適切に対応するため、行政や法人本部・他施設等と連携を図りながら進めていきたい。近年、子育てを取り巻く社会の変化（核家族化・少子化・子育てのメディア化等）に伴い、親子のコミュニケーション不足や養育力の低下を感じる。こども園においては、特に乳幼児期の子ども一人ひとりを大切に丁寧な教育・保育（養護）を行い、園での様子を保護者にも実際に示しながら共に子どもの成長を見守っていききたい。

【施設理念】

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法・児童憲章にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の保育・教育を目指します。

『わたしがあなた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい』ヨハネ福音書13：34

【経営方針】

1. 愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在である事を知る
2. 一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が心豊かな環境で子育てができるように支援する

【事業・運営計画】

1. 教育・保育の質向上への取組

(ア) 教育・保育理念を理解し、実践する

- ① 園児（特に乳児）が自分の生理的リズムや発達・行為のテンポに合わせて行動し生活できるような環境・保育の在り方を探り実践する
- ② 個人の日々の省察に加え、他の職員にも教育・保育を記録やビデオカンファレンス等を用いて可視化し、それに基づいて話し合う事によって多角的な視点で振り返りを行う
- ③ 園児一人ひとりが主体的で対話的な深い学びが実現できるよう園児と共により良い環境を創造し整えていく

(イ) 家庭と連携して子育てを共有する

- ① 連絡帳やビデオを通して、日々の保育の様子や教育及び保育の意図を丁寧に伝えることで保護者との相互理解を図る
- ② 保護者懇談会や保育参加、園行事への参加を通して、子どもの発達への見通しを持ち、保護者同士の情報交換の場となるよう努める

2. 職員間で連携し保育の専門性を高め、働きやすい職場環境を作る

(ア) 教育・保育に必要な知識・技術の習得のために外部専門研修に積極的に参加し、園内で

情報共有を行い、保育の幅を拡げ具体的な実践につなげる（キャリアアップ・実技・海外・給食・衛生管理研修等）。また園内研修（ビデオカンファレンス・グループディスカッション）を通して、教育・保育について語り合う風土を作り協働性を育む

(イ) 人材育成ツールとして保育職ラダーや自己評価を活用し、具体的な保育力の向上を図る

(ウ) 業務の効率化を図る為、問題の本質を見極め、残すものと省略するものを検討する

（記録業務の書式・行事準備・幼児組保護者との連絡帳等）

3. 統合保育・専門機関との連携

(ア) 発達の気になる子や「こひつじ保育」（発達に偏りのある子どもを対象とした一時預かり）
 においては子どもの育ちの背景や保護者の意向を踏まえて、個別の支援を行う

(イ) 必要に応じて磐田市の保健師や「磐田市発達支援センターはあと」や「聖隷こども発達支援センターかるみあ」「聖隷こども発達支援事業所かるみあ豊田」と連携をとり、園での関わり方や保護者へのアプローチの仕方を学ぶ

(ウ) 小学生と園児との交流や、職員の情報交換会や互いの教育の理解を深めるために参観等を計画・実践し、小学校教育との円滑な接続を図る

4. 地域に根ざした取組

(ア) 定期的な園庭開放を行い、必要に応じて地域の子育て家庭への助言・相談を行う

(イ) 学童保育を継続し、在園児との交流を深めながら学習する習慣を身に付ける

(ウ) 地域ふれあいクラブとの交流を継続的に行い、地域の中で子育ての場を作る

5. 地域における公益的な取組

(ア) 地域の子育て家庭を対象に、保育教諭や管理栄養士等の専門的育児講座を企画する

(イ) 小学校・中学校や高等学校が実施する乳幼児との触れ合いや交流にこども園が積極的に協力し次世代育成支援の一端を担う

【数値指標】

利用者数	定員	155名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	児童 入所率 114.3%	入所数 4/1 現在	7名	26名	29名	33名	35名	31名	161名
		内、1号認定				2名	3名	1名	6名
		内、障害児	0名	0名	0名	0名	0名	1名	1名
		内、外国人	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
		年間入所延人数	174名	312名	355名	396名	384名	372名	1,993名
特別 保育	年間利用延人数	延長保育							2,000名
		乳幼児保育							850名
		一時預かり保育							250名
		学童保育							3,000名
		食物アレルギー児							1,500名
職員数 (常勤換 算)		施設長	保育教諭	看護師	栄養士	調理師	事務他	計	
	正規職員	1.0	16.0	0.0	0.0	1.0	0.0	18.0	
	パート・アルバイト	0.0	15.0	0.8	0.3	2.8	4.0	22.9	
	計	1.0	31.0	0.8	0.3	3.8	4.0	40.9	

野上あゆみ保育園

のがみっこくらぶ にじっこくらぶ（放課後児童クラブ）

保育園を主体とした学童保育として、2014年6月から「のがみっこくらぶ」、2018年4月から「にじっこくらぶ」を2校区で運営開始した。

0歳から小学校就学前まで、保育の連続性を意識して日々を過ごすことに加え、小学生の日常生活の場である家庭や学校、放課後といった生活の中で見せる子どもたちの姿を把握する。目の前の子どもの育ちをイメージすることで、乳幼児期に取り組むべき大切な事は何かという視点を再確認し、地域全体の子育て家庭を支えられるよう関わっていきたい。

【施設理念】

「あなたがたも愛によってあゆみなさい」 -エフェソ 5-2-

【経営方針】

1. 私たちが神様に愛されて生かされるように、子どもたちに愛をもって接し、愛をもって子どもたちの心と身体を守る
2. 職員と保護者が、良い関わりをもち、子どもたちの成長を共に喜び合う
3. 地域の中でたくさんの人が集い、交わることのできる保育園とする

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上の為の取組
 - (ア) 職員が保育理念・キリスト教保育を根底とした保育方針を理解し、子どもたちの主体性を考え、興味が持てる保育を実践する。また、子どもや保護者の些細な違和感に気づき、早期アプローチを心がける
 - (イ) 異年齢児や高齢者など多様な人々との交流を通して、子どもの視野や社会性を広げる。また、異年齢活動を基に、子どもが自ら活動を選択する場を作り、興味や関心の幅を広げる
 - (ウ) 子どもたちの様子や育ちについて、保護者と気軽に話し合える場や懇談会の内容を検討し、有意義な時間を共有できるよう工夫する。また、個別支援を要する児童の保護者と、園での姿を共有できる時間を積極的に設ける
 - (エ) 新保育指針について学ぶ。保育課程をベースに全体的な計画の作成を行う
 - (オ) 日々の食に興味を持ち栄養士の協力を得ながら、手伝いや食育への取り組みを行い、野菜の栽培や収穫を通して、成長や味の違いが感じられるような機会を継続的に設ける
 - (カ) 学童保育（のがみっこくらぶ・にじっこくらぶ）は、小学校との情報交換や共有を行い事業を進める。また、子どもの姿を保護者に具体的に伝え、共に考える姿勢を持ち、子どもの育ちを支える
 - (キ) 保育園と児童館が連携をとり、地域の方も参加ができる保育活動やイベントを企画する
2. 施設の防災力の強化
 - (ア) 自園の防災力強化を図るため、訓練等の見直しと共に逆瀬川あゆみ保育園や自治体と

の総合訓練を実施し、地域の災害拠点としての動きを考える

- (イ) 引き取り訓練の内容を検討する
- (ウ) 危機管理委員会で、ケガ報告やヒヤリハットの検証を行い職員間で周知する

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 散歩時に地域の公園でゴミ拾いを実施する（幼児クラス）
- (イ) 地域ニーズを探り、子育て支援プログラムを見直す（保護者参加プログラム・妊娠期からの支援の取り組み）
- (ウ) 地域の子どもと在園児が参加できるかけっこ教室や積み木のプログラムを計画する

4. 地区聖隷施設との連携

- (ア) 子どもたちと高齢者の交流を推進する
（聖隷逆瀬川デイサービスセンター、宝塚エデンの園、宝塚栄光園）

5. 「人づくり」への取組

- (ア) 研修への参加など
 - ① 職員が専門性を高めるための研修に積極的に参加
 - ② 全国規模研修：乳児保育研修・障害児保育研修・子育て支援研修に参加
 - ③ 聖隷保育学会：聖隷本部企画の研修・あゆみ合同研修・海外研修に参加
 - ④ 逆瀬川あゆみ保育園の4歳児受け入れに向けての交流・引継ぎを実施
 - ⑤ 園内研修で記録や発表を経験する中で、自主性や積極性を養い保育の質の向上
 - ⑥ 保育士ラダーの活用により、目的意識の明確化を図る。日々の保育をお互いに確認し合うなど保育の振り返りを実施
- (イ) 次世代育成
 - ① トライアルウィークの中学生や高校生ボランティアの受け入れを実施する。実習生を積極的に受け入れ採用へつなげる

【数値指標】

利用者数	定員 90名		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
	児童入所率 115.5%	4/1 現在	6名	15名	15名	13名	27名	25名	104名
		障害児				1名		2名	3名
		年間入所延人数	108名	180名	180名	168名	324名	324名	1,284名
	特別保育	年間利用 延人数	一時保育事業						1,419名
	延長保育事業（月平均）						220名		
	障害児保育						720名		
	子育て支援事業						200名		
職員数			施設長	保育士	看護師	調理	助手	事務	計
	正規職員		1名	17名	1名			1名	20名
	パート・アルバイト			9名			4名		13名
	計		1名	26名	1名		4名	1名	33名

野上児童館

核家族化、子育て中の家庭と地域関係の希薄化、悩みの複雑化など子どもと家庭を取り巻く環境が著しく変化している。来館者との何気ない会話を大切にする中で、職員の気づきをしっかりと共有し、児童館がひとつの相談機関となり、問題解決の足掛かりとなるよう意識していきたい。また、今までの活動目的や方法を見直す期会を持ち、新たな支援を考えられる年にしたい。

【施設理念】

地域の中で信頼され、愛される児童館を目指す。

【経営方針】

1. 来館者と職員が関わる中で、互いの信頼を築き、遊びの楽しさ、おもしろさを感じてもらいながら、いつでも気軽に相談ができるようなあたたかい雰囲気作りに努める
2. 地域のもつニーズを把握し、それに合ったプログラムを企画推進する。そして、子どもや、子育て不安を抱える保護者のこころやすらぐ児童館、地域の子育て支援の拠点を目指す
3. 関連する地域の諸機関との協力、連携により、子どもをとりまく様々な課題解決を図るためにコミュニティーワークを進める

【事業・運営計画】

1. サービスの質の向上
 - (ア) 乳幼児・小学生向けのプログラムや自然体験等、様々な活動を企画する
 - (イ) 年間のテーマを持って、食育に積極的に取り組む
 - (ウ) 「ホールで遊ぼう」のプログラム内容を検討し充実を図る
 - (エ) 玩具やゲーム等、利用者が興味を持って遊べる環境作りを目指す
 - (オ) ランチタイムを土曜日・長期休業時に実施することでサービスの向上を図る
 - (カ) 児童館・保育園・学童保育が協力してイベントを行う
 - (キ) 毎月第3水曜日に19:00まで開館延長を行い、中高生に居場所作りを行う
2. 地域との連帯の強化
 - (ア) 小学校、中学校、自治会、まちづくり協議会などとの関わりを深め、情報の共有を行い子育て力の向上を目指す
 - (イ) 出前児童館事業は、場所、時間帯を再考し、さらに地域の協力を得ながら、ニーズに見合った実施を進め定着させる
 - (ウ) 地域の夏祭り等、児童館として参加することで遊びを提供し、地域の協力や参画を得る
 - (エ) 来館者の悩み思いに寄り添いつつ、児童館としての支援方法を模索する
3. 職員の資質向上
 - (ア) 宝塚市児童館交流研修等へ積極的に参加をする
 - (イ) 子育て支援研修などより専門性を高めるための研修へ参加する

【数値指標】

ひろば型 3名 出前児童館 3名

逆瀬川あゆみ保育園

保育所保育指針の改定により、乳児保育の「養護」と、教育施設として幼児教育を進めることが強調されている。非認知能力を育み、3歳児までの保育園としても教育を意識した保育展開を実践していく。副主任、クラスチーフが中心となって子どもの発達をより深く学ぶ機会を増やし、その上で発達に合った環境作りを行う。発達を深く理解することが保育の質の向上につながり、子どもの意欲を高め、保育者も保育を楽しんで実践することができると思う。

「地域における公益的な取組」として、3歳児の定期的な近隣デイサービスへの訪問と交流を継続していく。子育て支援については、支援の在り方について職員と共に再考し、必要に応じて改善を図る。2018年度、勢力の強い台風によって停電に見舞われたことを踏まえ、災害対策、マニュアルの再確認を行い、地震や火災以外の避難訓練も実施する。

【施設理念】 キリスト教保育 「愛によって歩みなさい」

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、一人ひとりが大切な存在であることを知る
2. 一人ひとりの違いに気づき、認め合い共に生活する
3. 楽しい環境の中で主体性、創造性を育む

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上

(ア) 保育の基本方針について職員理解の統一を図る

- ① 保育理念、施設目標を確認し、「一人ひとりを大切にする保育」の浸透と、1年を見通した保育を具体的に考えたり、研修を通して理解を深めたりする
- ② 適切な声の大きさや丁寧な言葉使い、発達を見通した働きかけ方などを保育者一人ひとりが実践し、主体的に行動する
- ③ 日々の生活を文化として捉え、丁寧に手間暇かけて子どもと一緒に楽しむ

(イ) 保育者として基本に立ち返る

- ① 勉強会を実施し、発達への理解を深め、子どもへの適切な関わりと援助を行う
- ② 専門性を意識し、保育を理論化して捉え、保育計画を立案していく
- ③ 保育基本スキルに加え、保育者としての経験から培われた柔軟性をプラスして保育に取り組む

(ウ) 保育者研修の充実・人材育成

- ① 園内研修や「あゆみ合同研修」を実施し、子どもを観る目や専門職としての自覚と誇りを育てる
- ② 保育者の興味にあった外部研修に参加し、学んできた事を職員間で共有する
- ③ 保育の中での疑問や気づきを掘り下げて研究し、学会などで発表する
- ④ 保育課程（全体的な計画）の見直しをはかり、保育の全体像を包括的に示す

2. 保護者との交流

(ア) 保育参観や保育参加・懇談会・個別相談・送迎時の会話・おたより・連絡ノート・ドキュメンテーションボードを通して活動の様子を知らせる

(イ) 幼児期までに育って欲しい姿（保育指針）を保護者にも伝え、共通認識を図る

- (ウ) 新入園児は親子で慣らし保育を実施。子どもと共に保護者との信頼関係も深める
3. 野上あゆみ保育園・御殿山あゆみ保育園との3園連携
- (ア) 合同研修や学会を通して情報交換をし、連携を図ることで共に学び歩いていく。野上あゆみ保育園は3歳児以降の受け入れ先となり、同じクラスになる3歳児や日頃接することのない4,5歳児と交流を図り、子ども達の経験を増やし安心感に繋げる
4. 地域とのつながり
- (ア) 地域参加プログラム「すくすく」や、園庭開放、室内開放を通して保護者同士の繋がりを育て、育児支援をしていく。すくすくルームの環境の充実を図る
- (イ) 一時保育は年間を通して安定してニーズに応えられるよう、職員体制と受入れ方法を整える。登録状況についてホームページを利用して随時知らせていく
- (ウ) 3歳児を中心に近隣小学校の行事やオープンスクールの際に訪問し、交流を図る
5. 食育
- (ア) 栄養士を中心に、保護者に向けて行事やお便りを通して食に関する情報の発信を行う。栽培やクッキング、食べ比べ、給食を通じて旬の食材の名前や役割や味、食べることの楽しさを子ども達に伝えていく。行事食を通じて季節や日本の文化に触れる
6. 防災訓練
- (ア) 毎月の防災訓練に加え、災害時、園舎が使用不可になった場合を想定し、野上あゆみ保育園に避難する訓練（野上あゆみ保育園との合同防災訓練）を実施する。停電対策の強化に努める
7. 働きやすい環境づくりへの取組
- (ア) 疑問を感じた時に批判し合うのではなく、自然に話し合える職場の風土作りを行う
- (イ) 働き方改革の一環として、事務作業の時間確保、業務の省力化を実践していく
8. 地域における公益的な取組
- (ア) 地域の高齢者との交流の機会を持つ。行事の時だけでなく、遊びを通して交流し、少子化で希薄になりつつある子どもと高齢者との相互の関わりが少しでも深められるよう、定期的に施設等に訪問していく（中州デイサービス・教会デイサービス）

利用者数	定員	45名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	児童 入所率 100%	入所数 4/1 現在	6名	13名	14名	14名			47名
		障害児	0名	0名	0名	1名			1名
		年間入所延人数	132名	166名	168名	168名			634名
特別 保育 補助 事業	年間利用延人数	一時保育事業							1,275名
		延長保育推進事業							70名
		子育て支援事業							200名
		障害児保育（受け入れ）							12名
職員数		施設長	保育士	看護師	調理	助手	事務他	計	
	正規職員	1	11				1	13	
	パート職員		13	1		1		15	
	計	1	25	1			1	28	

御殿山あゆみ保育園

子どもたちを取り囲む社会や世界は、急激なスピードで変化している。この激動といえる情勢の中で、私たちはこれからを生きる子どもたちを育てている。こうした時代を生き抜いていく力を養うため、認知能力（記憶力・思考力など知性）だけでなく、非認知能力を併せ持った「資質・能力」が育てられるよう保育の視点が変わられた。指針の改訂では、非認知能力の基礎が発達する乳幼児期の保育・幼児教育に重点を置くことが求められている。これらを踏まえ、私たちは一人ひとりを大切に、主体性を尊重し「生きる力」を育てていくことに研鑽を重ねていきたい。また、自園が地域の社会資源としての場となるよう地域社会との繋がりも大切にしていきたい。

【施設理念】

「あなたがたも愛によって歩みなさい」 エフェソの信徒への手紙 5:2

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、一人一人が大切な存在であることを知る
2. 一人一人の違いに気付き、お互いに認め合いながら共に過ごす
3. 豊かな環境の中で自己発揮し、創造性を育てる

【事業・運営計画】

1. 聖隷の理念や施設理念、保育の基本方針の確認
 - (ア) 施設理念をもとに保育目標の確認をしながら、「一人ひとりを大切にする保育」を具体的に実践する
 - (イ) 研修や話し合いを通してお互いの子供観や保育観を発信、共有して保育方針に沿って実践できる手立てを共に考える
2. 子どもたちが安心感をもって園生活を送れるよう、一人ひとりの成長発達に応じた丁寧な関わりを心がける
 - (ア) 乳児期が特定の大人との愛着関係を基盤に、ありのままを受け止め認められる事を繰り返しながら、自己肯定感、自尊心、他者に対する基本的な信頼感を育てる。幼児期においては、その土台を元に非認知能力を育て、社会性を学ぶ力や人間性等を培う
 - (イ) 異年齢で過ごす時間を自然に持てるように、年齢の枠を超えた関わりを大切にする
 - (ウ) 発達に障害等を抱え、生きにくさを抱えた子どもたちの理解を深めるため、専門機関と連携を取りながら定期的にケース会議を行う。また、研修会にも参加しスキルを高める
3. 食育の推進
 - (ア) 保育士、栄養士、調理師との連携による年間食育計画の作成と実施
 - (イ) 保護者や子どもに向け、栄養士から食に関する様々な情報の発信や相互の関わりを持つ
 - (ウ) 苗からの野菜栽培、収穫の喜びを通して、食への関心や感謝の気持ちを育む
4. 子育て支援を通して地域のニーズを知り、保育園の役割を遂行する
 - (ア) 保育士が出前児童館に出向いたりプログラムを実施したりするなど、在園児以外の保護

者の様々な思いにも寄り添いながら地域における子育て支援のニーズを知り応えていく
 (イ) 子育て講演会、給食（離乳食・乳児食）の試食会、室内開放、子育て相談を実施する中で地域の社会資源となり、保護者の不安や悩みを受け止める

5. 職員研修の充実と人材育成

- (ア) 専門性を高めるため、各自が保育の課題に沿った外部研修に主体的に参加する
- (イ) 新保育所保育指針を理解し保育の振り返りを行った上で、保育に落とし込んでいく
- (ウ) 園内で保育の相互評価や講師を招いての研修会により、園全体で一貫した「一人ひとりを大切に保育」を実践する
- (エ) 保育の中での学びを発表する他、学びの場として宝塚・浜松地区保育学会に参加する
- (オ) 保育士ラダーの活用、自己評価の実施により、各自の役割を理解し、責任を持って仕事に従事することのできる人材を育成する

6. 逆瀬川あゆみ保育園、野上あゆみ保育園との3園の連携

- (ア) 3園で連携を取りながら共に保育の質の向上に取り組む。合同研修会を実施する

7. 防災対策の強化・充実（地域と共に）

- (ア) 防災委員会で様々な観点から課題を出し、職員と共に考えながら防災対策に取り組む
- (イ) 地域との連携を視野に入れ、地域の防災訓練に参加する

8. 地域における公益的な取組

- (ア) 近隣高齢者デイサービスへ子どもたちと訪問したり、園に遊びに来てもらったりするなど交流を深める

【数値指標】

利用者数	定員	120名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	児童 入所 率 109%	入所数4/1現在	8名	24名	23名	21名	19名	25名	121名
		障害児				2名	2名	3名	7名
		年間入所延人数	153名	288名	286名	260名	228名	300名	1,515名
特別 保育 補助 事業	年間利用延人数	一時保育事業							834名
		延長保育促進事業							1,440名
		子育て支援事業							240名
		障害児保育							960名
職員数		施設長	保育士	看護師	調理	助手	事務	計	
		正規職員	1名	20名	1名			1名	22名
		パート・アルバイト		15名			1名		16名
		計	1名	35名	1名		1名	1名	38名

御殿山児童館

御殿山児童館は、次世代を担う子どもたちの健全育成の推進を目的とする。地域に信頼される児童館であり続けるために、2019年度も『地域子育て支援拠点ひろば型』事業として、子育て親子の交流を促進する場や機会の提供、相談及び援助の実施や情報の提供、子育て講習の実施等、乳幼児を育てる親子への子育て支援の拡充に努める。また小学生や中高生の余暇の居場所づくりの充実に加え、併設の保育園と連携して地域の実情と時代の風潮に合わせた事業展開を図る。

【施設理念】 地域と関わりながら、ひとりひとりの居場所となる児童館を目指す

【経営方針】

1. 子どもや子育てに関わる大人からのニーズに応えられるような環境づくりや、活動に遊び心を持って取り組む
2. 個々や集団での関わりを通して、感性を豊かにする活動を実施する
3. 地域や諸機関との連携を図りながら、コーディネーター的役割を担う

【事業・運営計画】

1. 児童館施設の利用児童の把握と支援
 - (ア) 日常的な児童館施設の開放と自由に安心して遊べる人的、物的環境を整え提供する
 - (イ) 利用児童の背景を把握することで必要な支援を的確に行う
2. 乳幼児親子支援
 - (ア) 発達年齢に応じた遊びや仲間作り活動を提供し「子育て」・「親育ち」を支援する
 - (イ) 保護者の子育てを支援し、保護者対象の講座を実施する
3. 小学生集団あそび及び支援
 - (ア) 運動遊びや自然体験活動・創作活動や視聴覚活動を通して仲間作りを支援する
4. 中高生居場所づくり
 - (ア) 自由に集える場の確保と多様な人とふれあう体験を通じて「心の自立」を支援する
5. 出前児童館
 - (ア) 児童館の事業と機能を地域に出向いて実施し、環境の整備と居場所作りを支援する
6. 地域組織活動の育成及び関係機関との連携・社会資源の活用
 - (ア) 地域における子育て支援の拠点として、的確な社会資源の活用、家庭や学校、関係機関との連携・協力を図る
7. 児童館運営委員会の実施
 - (ア) 適正な運営の展開と維持のため、運営委員会で広く意見を求め運営に活かす
8. 職員の資質向上
 - (ア) 児童館運営に関する共通の認識を持ち、コミュニケーションを活発に行う
 - (イ) コーディネーター機能を強化するため、職員内研修を行う
 - (ウ) 子育て支援に必要な内部研修を行う（発達、保育、障害等）

【数値指標】 延利用者予定数 30,000人 出前児童館の予定回数 130回
正職員1名 パート職10名 合計11名

高齢者公益事業部

2030年の自施設のあるべき姿を定めた目標を明らかにするため、2020年から10年間を計画期間とする総合計画の基本構想を2018年度に各施設で策定した。社会情勢やニーズの変化がもたらす影響は地域によって大きく異なる。各施設がそれぞれの地域における社会的・経済的環境を把握し的確に対応ができるよう、事業部全体で情報を共有し、2019年度には2020年度から2024年度までの基本計画を各施設で定め、将来に備えたい。

2018年度は「標準サービス」（当事業部の運営する有料老人ホームが入居者に提供するサービスの基準）を定めた。2019年度は標準サービスを各施設で試行・検証する。当事業部の有料老人ホームの強みは、健康期から終末期まで多職種・多部門が重層的に切れ目なく入居者にサービスを提供できることである。将来、入居者が要介護状態や終末期を迎えたときに十分なケアを受けられるよう、2019年度はEOL（End of Life）ケアの質の向上を図るため、EOLケアツールを標準化し、第1段階として関東地域の施設で試験的に展開する。当事業部の業務基幹システムであるETS（EDEN TOTAL SYSTEM）は導入後10年が経過している。2019年度内に更新を完了し業務の効率化と職員の負担軽減を実現するとともに、拡張すべき機能を検討する。また、介護職員、管理職に対する海外研修を2019年度も継続して実施する予定である。2015年と比べると、日本は2030年には生産年齢（15～64歳）人口が852万人減少する見込みであり、これまで以上に職員の採用に苦慮する施設が生じると考えられる。施設の機能を維持するため、それぞれの地域の実情に応じ、職員の採用・育成・定着に関して多面的に手立てを講じなければならない。

浜名湖エデンの園の建替工事は、2018年8月に増築4号館が完成した。2018年10月から1・2号館の解体工事を開始し、2020年3月には新1・2号館が完成する予定である。開設後40年を経過する宝塚エデンの園を筆頭に、松山エデンの園、油壺エデンの園の建物更新を具体化させるほか、2011年開設の聖隷藤沢ウェルフェアタウン以降、開設できていない新規施設について2019年度には検討中の計画を1つでも具現化させたい。

また、入居者募集については、2018年度は件数、入園金いずれも予算を上回る実績を残すことができた。エデンの園のサービスを必要とする高齢者に1人でも多く入居いただけるよう、費用対効果を考えながら、新たな募集活動にも挑戦したい。直営7施設の目標数値として、入居契約件数128件、入園金合計39億円、事業部全体の当期活動増減差額6.6億円を目指す。

【事業部理念】

私たちは、高齢者ひとりひとりを尊重し、自由で快適な生活の実現を支援する。

【経営方針】

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化
2. 経営の安定と持続性の確保
3. 人材の採用・育成・定着の強化
4. サービスの質・安全・効率の向上
5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化
 - (ア) 聖隷理念・事業部・施設運営方針の浸透と実践
 - (イ) 標準サービスの具現化
 - (ウ) 公益活動の推進

2. 経営の安定と永続性の確保
 - (ア) 販売対象居室入居率 95%以上の維持
 - (イ) 直営施設の費用の中期的検証
 - (ウ) 環境、耐久性等を考慮した建物・設備更新の計画策定と実施

3. 人材の採用・育成・定着の強化
 - (ア) 人材採用力の向上
 - (イ) 定着への環境づくりによる離職の防止
 - (ウ) 職員のキャリアアップ

4. サービスの質・安全・効率の向上
 - (ア) 感染症の拡大（集団感染）の防止
 - (イ) リスク対策の強化
 - (ウ) 食事サービスの向上
 - (エ) EQC（事業部内の品質管理システム）の実践
 - (オ) 介護・看護の質を向上させる新たな取り組みの実践
 - (カ) 入居者満足度調査の継続及び改善案の実施

5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想
 - (ア) 新規施設開設の検討
 - (イ) 次世代技術の創造

【数値指標】（新規契約のみ）

2019 年度期末

入居契約 目 標	浜名湖	宝塚	松山	油壺	浦安	横浜	藤沢 1 番館	藤沢 2 番館	合計
件 数	21 件	27 件	13 件	30 件	20 件	9 件	5 件	3 件	128 件
入居率	92.8%	92.9%	95.1%	94.6%	95.5%	100.0%	99.5%	94.0%	95.0%

介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園

2018年度は、ようやく待望の増築4号館が完成（2018年9月）し、1,2号館の入居者の引っ越しや事務所の移転、1,2号館さよならイベントなど盛りだくさんの事柄があった。その直後、浜松全域を襲った台風24号による大規模な被害のため、27時間にも及ぶ全館停電に見舞われた。職員一丸となり入居者の安全の確保や非常食の提供、非常電源の燃料確保などを行った。また、近隣施設の支援や協力もあり、大きな被害なく事態を収拾することができた。改めて災害に対する備えの重要性を認識した。その後は、食堂やフロント、西玄関、聖隷三方原病院方面へ向かう渡り廊下など仮設の運用が開始されている。工事は今までのところほぼ工期どおり順調に推移している。仮設期間中は夕食会や初日の出の観賞など一部従来通りの開催が難しいものもあるが、様々な趣向を凝らしできる限り今まで続けてきた行事を行うことを心掛けた。今回増築4号館の完成もあり新たな入居者も増え、入居者総数もようやく増加に転じた。

2019年度は、5月から元号が変わり、10月には消費税増税も実施される。日本も大きな時代の節目を迎える年である。「浜名湖エデンの園1,2号館耐震対策建替工事」も予定通り進捗すれば、いよいよ2019年度末には新1,2号館が完成する予定である。その後2020年度に入り、戻りの引っ越しと残りの工事が実施されればすべての工程が完了となる。長きにわたる建替工事後半に入ったところである。工事期間中ではあるが、引き続き一人ひとりを大切にされたケアの実践を通して、入居時から終末期まで切れ目のないサービスを提供していきたい。パーソン・センタード・ケア（その人らしさを尊重した介護やサービス）に基づくサービスの提供を、園全体で実行していく。また、介護予防への取り組みにも力を入れ、入居者がいつまでも元気で健康でいられる「健康寿命」を延ばす努力をする。食事に関しては、仮設厨房への移行は無事行われたが、次回フルオープン時の食事提供体制の検討を進めていく。入居者募集については、新入居者の増加をめざすと同時にフルオープン時に満室になるよう入居希望の待機者増加に向けた活動に取り組む。

そして職員に対しては、国が進める「働き方改革」に基づき、職場環境の整備や研修計画の見直し、目標面接などを実施することで、超過勤務の削減や有給休暇取得率の増加が進められるような取り組みを行っていく。また、三方原地域の一員として地域における公益的な取組を積極的に行う施設運営を目指す。

【施設理念】

「私たちは一人ひとりを尊重し、入居者の快適な生活を実現するために最善を尽くします。」

【経営方針】

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践
2. 次世代を担う人材確保と育成
3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保
4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供
5. 入居者が暮らしやすい新しい浜名湖エデンの園づくり

【事業・運営計画】

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践
 - (ア) 入居時から終末期まで連動したパーソン・センタード・ケアの考え方に基づくサービスの実践と評価
 - (イ) その人らしく生活することを支えるための仕組みづくり
 - (ウ) アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の理解促進
 - (エ) 地域における公益的取り組みのための組織づくり
2. 次世代を担う人材確保と育成
 - (ア) 「聖隷理念」「施設理念」の継承と、時代に合わせたサービスが提供できる人材の育成
 - (イ) 「働き方改革」に基づいた超過勤務の削減と有給休暇取得率の向上
 - (ウ) 働きやすい環境の整備
 - (エ) 職員一人ひとりの労働生産性の向上
3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保
 - (ア) 職員一人ひとりの募集意識の向上とホスピタリティ（おもてなし）の向上
 - (イ) 消費税増税へのスムーズな対応
 - (ウ) 施設「事業・運営計画」「予算」の全職員の理解と達成への参画
4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供
 - (ア) リスク発生時の対応と予防の取り組み強化
 - (イ) 緊急時の対応訓練実施（防犯・安否確認・感染予防対策など）
 - (ウ) BCP（事業継続計画）の検証
 - (エ) 情報伝達の精度向上
 - (オ) コンプライアンス体制の強化
5. 入居者が暮らしやすい新しい浜名湖エデンの園づくり
 - (ア) グランドオープンに向けた運用検討
 - (イ) 工事に伴う入居者への精神的支援とサービス体制づくり
 - (ウ) 見守り体制の充実

【数値指標】

2019 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数/総戸数	262 戸/275 戸		46 戸/57 戸		308 戸/332 戸			
入居者数/定員	318 名/455 名		49 名/64 名		367 名/519 名			
入居率	95.3%		80.7%		92.8%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	16 名	22 名	43 名	7 名	6 名	15 名	2 名	111 名
職員数（常勤換算）	129.8 名							
サービス活動収益	705,000 千円							

ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園

2018年度は、トータルケア（入居から看取りまでの一連のサービス）における個々のサービスの見直しや、業務改善の基礎作りに注力し、一定の成果を上げられた年だと感じている。

2019年度宝塚エデンの園は創設40周年を迎える。この40周年の記念の年を、入居者や職員の「記念」と「記憶」に残る一年にしたい。その為に入居者と職員が共に考え、共に祝えるような充実した内容を年間を通して実施していく。

2018年度から進めているトータルケアについて、入居から看取りまでの一連性を高めるために職員間の連携を強化し、質を向上させるシステム（流れ）を検討していく。またエデンの特徴でもある、健康寿命を伸ばすための疾病予防、介護予防への取り組みは、引き続き強化していく。

また、2019年度からサービスを提供する職員の専門性を高める取り組みを開始する。職員一人ひとりが自らの職務に必要な知識・技術に加え、より専門性を追求したい分野を個々が選択し、その習得した専門性を職員同士が共有することで、より質の高いサービスを提供できるようにしていく。

介護、福祉分野の人材不足が予測を上回るスピードで進んでいる。2018年度はインカムを導入し大きな業務改善が図れたが、2019年度は新しいシステム（新 ETS）を導入し、更に職員の業務の負荷を軽減することで、職員の定着率を上げていく。

2018年度の募集活動は順調で、目標以上の新入居契約数を達成することができた。2019年度は目標数を増やし、全職員の参加による新入居契約獲得の活動を実施していく。期末入居率は93%以上を経営指標とする。

地域における公益的な取り組みとして、障害者の就労機会の創出に取り組んでいく。またそれに加え WAC 事業（健康長寿のまちづくり事業）を推進していく。

【施設理念】

安心と生きがいの創造

【経営方針】

1. 私たちは、「隣人愛」の精神に基づき、ご入居者と職員一人一人の尊厳を守ります。
2. 私たちは、ご入居者とともに5つ星の施設づくりに努めます。
3. 私たちは、法令を遵守し、その人らしさを大切にしたりより良いサービスを提供します。
4. 私たちは、地域と協調し、開かれた施設を目指します。
5. 私たちは、品質目標を設定し、その達成度を常に確認して、業務改善を進めます。

【事業・運営計画】

1. 入居者満足の向上
 - (ア) 入居者満足度調査結果に基づく改善の実施
 - (イ) 食事満足度調査の評価向上に向けた取り組み
 - (ウ) その人らしい生活を最期まで支えるトータルケアの実践

- (エ) パーソン・センタード・ケアを支える接遇力の強化
- (オ) 「見える化」の実践による入居者との協同した園運営の実践

2. 職員満足の上

- (ア) 聖隷理念、事業部経営方針及び施設運営方針に基づいた行動計画の策定と実践
- (イ) 職場・職員間の連携強化による働きやすさの追求
- (ウ) 段階的な人材育成による専門性の強化
- (エ) 働き方改革による業務の効率化
- (オ) 最新介護機器の導入による業務負荷の軽減と安全な介護の実践

3. 健全経営体制の維持

- (ア) 全職員が募集活動を推進し、期末入居率 93%以上の確保
- (イ) 附属診療所部門の経営体制強化
- (ウ) 職業倫理・コンプライアンス経営の実践
- (エ) 費用対効果を考慮した経費管理と省エネルギーへの取り組み

4. 安全・安心な暮らしの提供

- (ア) 感染予防対策の徹底と発生時の連携強化
- (イ) 災害や救命時の緊急対応の強化と自主防衛の支援
- (ウ) リスク、苦情への迅速な対応

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 防災・避難計画に基づいた協力関係の確認と連携強化
- (イ) 障害者の就労機会の創出
- (ウ) WAC 事業の推進

【数値指標】

2019 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数	330 戸 (354 戸)		49 戸 (50 戸)		379 戸 (408 戸)			
入居者数	387 名		51 名		438 名			
入居率	92.0%		98.0%		93.0%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	9 名	19 名	33 名	26 名	25 名	9 名	8 名	
職員数(常勤換算)	133.3 名							
サービス活動収益	950,060 千円							

有料老人ホーム 松山エデンの園

2018年度、開園38周年を迎えた松山エデンの園では、継続した入居獲得が維持できる募集活動、安心して生活できる園の環境整備を行った。人生100年時代において高齢者の方が医療やケアだけでなく、生涯学習、社会貢献等を求めている中で、入居募集セミナーや見学会からエデンの園の入居者が元気に充実した生活をサポートできる事を多くの方に知っていただく募集活動ができた。設備環境については、2018年度から引き続き3号館外壁工事や全館放送設備等、安全に対する環境整備を行った。

2019年度においては、園の目標とする施設の将来像である開園50年に向かって園運営を安定させ、安らぎの住まいを継続して提供していく為の基本構想を策定し、各施策を達成する為の計画を示すはじまりの年である。その為には、まず人材確保と質の高いサービス提供ができる職員の育成が重要な位置づけとなる。新しいシステム導入や研修計画を取り入れ、魅力ある職場と職員一人ひとりのキャリアアップに力を注ぐ。入居者には、園内各種行事や安全と安心の各種サービス提供に努め、更なる満足度向上を目指す。設備環境については、コスト管理を含め安心安全な生活を提供できる整備運営に努める。

隣接する医療法人聖愛会松山ベテル病院とは、2018年度人事交流や合同研修等の新しい取り組みを始めた。2019年度も積極的な連携から一層入居者の大きな安心として要望に応じていきたい。

地域住民とは、2018年度地域合同防災避難訓練を共に実施した。地域行事の参加や入居者とのふれあいある活動を実施し、地域に信頼していただく貢献できる施設運営に努めていく。

【施設理念】

『明るく楽しく共に輝いて生きる』

わたしたちは、ご入居者の喜びや願いを見出し、そのお一人おひとりの幸福（しあわせ）づくりを支援、援助できることに大きな喜びを見出す

【経営方針】

1. 入居募集と経営の安定
2. 人材の確保と育成
3. よりよいサービスの提供
4. 安心安全な施設環境づくり
5. 医療法人聖愛会との連携
6. 地域における公益的な取組

【事業・運営計画】

1. 安定した園運営を永続するための入居率の向上
 - (ア) 新規契約戸数 11戸12名
 - (イ) 充実した園の生活や楽しみを知って頂く募集活動への取り組み
 - (ウ) 入居検討者のニーズに応じた受入れ対応（介護棟への直接入居）

(エ) 快適な生活空間となる環境及び設備更新

2. 人材の確保と育成

- (ア) 人材の採用と定着への環境づくり
- (イ) 職員のキャリアアップができる職員の育成
- (ウ) 聖隷理念・施設理念に基づく職員倫理・接遇意識の向上
- (エ) コミュニケーション能力の向上

3. よりよいサービスの提供

- (ア) 入居者に安心と信頼を感じて頂ける生活サービス支援の実施
- (イ) 入居者の健康管理・認知症予防・介護予防活動の積極的支援
- (ウ) “おもてなし”の心を大切にされた食事満足度の更なる向上
- (エ) 入居者の気持ちを大切にされたターミナルケアの実践
- (オ) 職員・職場間の連携と協力

4. 安心安全な施設環境づくり

- (ア) 苦情、リスク発見時の迅速かつ連携できる対応
- (イ) 災害発生時の対応・意識強化
- (ウ) 感染予防対策の徹底と迅速な対応

5. 医療法人聖愛会との連携

- (ア) 人事交流等実務面における連携強化
- (イ) 入居者へのよりよい医療体制の強化

6. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域を巻き込んだ防災避難活動、環境保全活動への取り組み
- (イ) 地域の医療・介護連携への参画

【数値指標】

2019 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数	102 戸／109 戸		33 戸／35 戸		135 戸／142 戸			
入居者数	120 名／134 名		33 名／35 名		153 名／169 名			
入居率	93.4%		94.3%		95.1%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	22 名	8 名	10 名	8 名	11 名	8 名	8 名	75 名
職員数（常勤換算）	54.2 名							
サービス活動収益	317,250 千円							

介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園

2018年度は2017年来のメディア効果等の余力があり、予算を上回る募集実績となり、多くの新入居者を迎えることができた。改めて見学会、セミナーなど入居者の皆様の協力と職員の奮闘に感謝する。また、2階事務所のフロント周りの充実を図り、各部署にとって、さらなるサービス向上につなげる施設改修を実施した。2018年度に注力すべき取り組みとして、新入居者のソフトランディングを掲げたが、園生活に馴染むことが難しい事例も数件あり、今後の課題となった。

さて、2019年度は新たに「油壺プライド」を事業計画全体のテーマとして掲げ、職員が油壺エデンの園の職員であるという確固たる誇りを持ち、油壺ならではの「安心なサービス提供と質向上」「職員育成」「安定した施設運営」を重視した取り組みを行う。「安心なサービス提供と質向上」については、サービス可視化を推進することにより、業務効率を高めていく。食事部門においては、メニュー改革やメニューアピールを図り喫食率向上に努める。「職員育成」では、さらに女性職員が活躍できる環境づくりを目指し、長時間労働の改善など体制整備していく。役職者が中心となり、職員個々が直面する課題を課題と感じる感性に磨きをかける働きかけを行う。「安定した施設運営」については、入居募集は、2018年度の流れを維持し、さらに入居率向上に努める。新入居者が園生活に馴染めるための取り組みについては、日々の声掛け強化など全職員が意識したい。また、施設整備では、老朽化対策として旧棟より順次改修工事を実施していく。

開園33年目に入り、入居者の年齢層、価値観も様々となり、一人ひとりの個別性をさらに尊重し、皆様が安心して穏やかな園生活が送れるような運営をしていきたい。

【施設理念】

私達は『ひとり一人と ここちよく 共に暮らす』ことを目指します

【経営方針】

1. 安心、安全を基盤としたサービス提供と質向上
2. 自ら考え課題解決できる職員の育成
3. 安定した施設運営・経営
4. 環境・省エネルギーへの取り組み強化と地域における公益的な取組
5. 災害時の対策、防災教育の徹底

【事業・運営計画】

1. 安心、安全を基盤としたサービス提供と質向上
 - (ア) 募集から退去までのトータルサービスの提供
 - (イ) サービスの標準化と可視化
 - (ウ) 入居者ニーズに沿った行事企画の充実
 - (エ) 「美味しいのは当たり前」と言える食事サービスと喫食率向上
 - (オ) 接遇向上のための知識と技術の習得
 - (カ) リスク対策の強化（評価の徹底による再発防止）

2. 自ら考え課題解決できる職員の育成
 - (ア) やりがいのある職場風土の醸成
 - (イ) 各課の情報連携の強化
 - (ウ) 人材採用力の向上
 - (エ) 職員個々の質向上のためのスキルアップ
 - (オ) 他部署の業務を知る機会づくり

3. 安定した施設運営・経営
 - (ア) 園内設備の計画的な改修検討と実施
 - (イ) 全課が募集活動に参画し、入居率 94%（期末）以上確保
 - (ウ) 介護サービスへの適切な移行と介護報酬収益の確保
 - (エ) 介護予防活動見直しによる健康維持増進
 - (オ) 診療所入院ベッドの適正利用
 - (カ) EQC（EDEN QUALITY CONTROL）の活用による生産性の向上

4. 環境・省エネルギーへの取組み強化と地域における公益的な取組
 - (ア) コスト意識を持った省エネルギーへの取組み
 - (イ) 地域貢献活動（環境保全）への参加
 - (ウ) 職場環境整備のための 5S 運動（整理・清掃・整頓・清潔・躰）の継続
 - (エ) 障害者の就労機会を増やすための取組み

5. 災害時の対策、防災教育の徹底
 - (ア) 災害防災・防犯訓練の質の向上
 - (イ) 入居者・職員の防災意識の向上
 - (ウ) 地域と連携した災害協力体制の構築

【数値指標】

2019 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	358 戸／379 戸	43 戸／45 戸	401 戸／424 戸
入居者数／定員	447 名／500 名	43 名／50 名	490 名／550 名
入居率	94.5%	95.6%	94.6%

要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
	16 名	20 名	25 名	20 名	14 名	18 名	17 名	130 名

職員数(常勤換算)	142.5 名
サービス活動収益	1,003,750 千円

介護付き有料老人ホーム 浦安エデンの園

2018年度は、支援を必要とする入居者の「居場所づくり」に重点を置き、デイルーム増設と共用部などの見直しをすすめた。さらに個別の入居者の希望に寄り添ったケアサービスを提供することに心掛けた。週6回10年以上継続実施している園内体操プログラムについて、蓄積したデータの分析と評価を行い、入居者の健康長寿への影響を学会にて報告することができた。EOL (End of Life) を意識したイベントを開催し、尊厳死や園の看取り、緩和ケアについて考える機会を設けることができた。職員については特に介護・看護の欠員が続いたが、補充をすすめ、厳しい状況を乗り越えることができた。

2019年度は、新しくできた「居場所」や共用部の活用について、これまで以上に入居者の声を反映した運営を進める。2019年1月より食事料金を改定したため、より満足いただける食事の提供とレストランの環境整備を進め期待に応えたい。また、安心できる生活の場として、感染症対策、防犯・防災に注力する。地域における公益的な役割を常に意識し、地域貢献と地域に開かれた施設づくりを目指す。さらに提供するすべてのサービスにおいてエデンブランドを確立することを目的に標準サービスの試行と修正を加えていく。入居率95%以上を維持することを目指し、新規顧客についてはニーズのある浦安市内を中心とした募集活動を継続することと、適正な介護居室への住替えを進めていく。職員については、聖隷理念の浸透とプロとしての技術向上のための教育支援、安心して働ける環境づくりで全職員のスキルアップとモチベーションアップを図っていききたい。

【施設理念】

ご入居者を真ん中においた生活の創造

【経営方針】

1. 良質なサービスの追求
2. 働きがいのある職場風土の醸成
3. 安心・安全な施設づくり
4. 安定した施設経営の実現
5. 地域における公益的な取組

【事業・運営計画】

1. 良質なサービスの追求
 - (ア) エデン・クオリティ・コントロール (EQC) によるサービスの標準化
 - (イ) 入居者満足度調査結果を踏まえた改善の取り組み
 - (ウ) 入居者参画型の楽縁プロジェクトの推進
 - (エ) 入居者の声を反映した楽しめる食事の提供
 - (オ) 標準サービスの試行
 - (カ) EOL (End of Life) ケアツールの導入

2. 働きがいのある職場風土の醸成
 - (ア) 聖隷理念・事業部経営方針及び施設運営方針の浸透
 - (イ) 働きがいのある職場作り
 - (ウ) 職員のキャリアアップの支援
 - (エ) メンタルヘルス向上への取り組み

3. 安心・安全な施設づくり
 - (ア) 安心できる居場所づくり
 - (イ) 感染症発生時の早期対応と感染拡大ゼロ
 - (ウ) リスク回避と発生時の迅速な対応
 - (エ) 防犯・防災の実践的な訓練の実施

4. 安定した施設経営の実現
 - (ア) 各課参画した募集活動の推進～入居率 95%の維持
 - (イ) 環境・省エネルギーへの取り組み

5. 地域における公益的取組
 - (ア) 地域開放型イベントの充実
 - (イ) 地域防災活動の実践
 - (ウ) 地域清掃活動への参加

【数値指標】

2019 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	188 戸／195 戸	26 戸／29 戸	214 戸／224 戸
入居者数／定員	221 名／294 名	27 名／30 名	248 名／324 名
入居率	96.4%	89.7%	95.5%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	14 名	5 名	16 名	8 名	9 名	9 名	5 名	

職員数（常勤換算）	71.9 名
サービス活動収益	437,260 千円

介護付き有料老人ホーム 横浜エデンの園

2018年度は、各種ケアサービスの質の向上を目指し、「チームケア」を実践した年であった。「認知症ケア」については、認知症専門ケア加算をきっかけに、これまでの「認知症ケアマッピング」に加え認知症予防活動から進行防止活動等、様々なアクティビティ活動を日常生活に取り入れることにより「一人ひとりに寄り添えるケア」となった。

「エンド・オブ・ライフケア」については、聖隷横浜病院との協力・連携のもと、本人・家族の想いをタイムリーに受けとめ、適宜サービス担当者会議を開催し、継続的な「チームケア」へとつなげることができた。リスク対策の強化については、PDCAを繰り返す体制を維持することで事故発生件数は大幅に減少している。一方、介護保険収益については、入居率は2017年度と同様95%前後で推移したが、平均要介護度が2017年度の3.0から2.5に低下したことで介護保険収益が低下し、予算達成は厳しい状況が続いている。

2019年度は、2018年度と同様に人員の確保が増々重要となる見込みである。「働き方改革」にも積極的に取り組み職場環境の改善を図り、人財定着の強化を図ると同時に職員のキャリアアップについても、専門的知識・技術の取得の他にも、支援を拡大していく予定にしている。

地域連携についても従来の園主催のセミナー開催等の活動に加え、地域で開催されている活動にも積極的に参加する。2018年度は全国的にも「災害」の多い一年でもあったため、2019年度は特に「地域防災連携」の強化と災害時を想定しての実践訓練を行い、災害時にも安心して行動できる職員の育成と、入居者や地域の方々の安全の確保を目指していきたい。また隣接する聖隷横浜病院の新外来棟開設に伴い、地域の方々の安全・安楽な通院についても、支援していきたい。

2020年度に横浜エデンの園は開設10周年を迎える。2019年度はこれまでのサービス実践や地域連携活動等を振り返り「地固め」となる一年になるよう、入居率98%を維持し安全・安心・良質なサービス提供を行う。

【施設理念】

「ひとりひとりの笑顔のために」

私たちは、横浜エデンの園で出逢えたすべての方々が、生き生きとした笑顔で自分らしく暮らし、いつまでも自分らしく輝けることを目指して、精一杯の笑顔とまごころを込めてサービスを提供いたします。

【経営方針】

1. 安全・安心・良質なサービス提供
2. 人財の育成、定着の強化
3. 経営基盤の安定と持続性の確保
4. 地域における公益的な取組
5. 環境・省エネルギー活動への取組の強化

【事業・運営計画】

1. 安全・安心・良質なサービスの提供

- (ア) 現状に即した情報交換・共有とチームケアの充実
- (イ) リスク対策の強化（事故発生後の迅速な検討会議開催と PDCA：感染・苦情相談を含む）
- (ウ) PCC 理念に即したチームケアの定着
- (エ) 入居者に適したエンド・オブ・ライフケアに向けて聖隷横浜病院と医療連携の維持強化
- (オ) 入居者満足度調査の結果の評価・分析による改善への取組

2. 人財の育成、定着の強化

- (ア) 職員同士で感謝等を言語化することによるモチベーション向上活動の継続
- (イ) 「働き方改革」の推進、メンタル不全者発症ゼロ化
- (ウ) 教育システムの実践と職員のキャリアアップ支援（認知症専門研修・キャリア段位認定資格への取得支援等）

3. 経営基盤の安定と持続性の確保

- (ア) 平均入居率 98%の維持（平均要介護度 3.0 以上）
- (イ) 職員全員のコスト意識の強化
- (ウ) 収益構造の改善に向けた取組みの実践
- (エ) 経年劣化を見込んだ計画的な修繕・修理の実践

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域防災連携の構築（近隣高齢者福祉施設等周辺状況の調査、災害支援ナースの設置）
- (イ) 地域貢献への活動の継続（市や区主催のイベントへの協賛、聖隷横浜病院通院への支援）

5. 環境・省エネルギー活動への取組の強化

- (ア) 入居者と協働したエコロジー活動
- (イ) 省エネルギー・エコロジー活動の啓蒙の継続
- (ウ) 事業ゴミの削減による環境保全

【数値指標】

2019 年度期末

	2019 年 3 月末	2019 年 4 月 ～2020 年 3 月	計（退去 8 戸除く）
契約戸数／総戸数	49 戸／50 戸	50 戸／50 戸	50 戸／50 戸
入居率	98.0%	100.0%	100.0%

要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
	1 名	4 名	6 名	11 名	10 名	9 名	9 名	50 名

職員数(常勤換算)	49 名
サービス活動収益	270,630 千円

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

2018年度は、診療報酬と介護報酬の同時改定が実施され、当施設の各事業の運営方針、体制、サービスの質が厳しく評価された一年であった。これまで毎年行われてきた外部監査法人や法人本部による監査の他に、藤沢エデンの園一番館では「第三者評価」、藤沢エデンの園二番館及び藤沢愛光園、在宅部門では「神奈川県介護サービス情報の公表・訪問調査」、「藤沢市ケアプラン点検事業」、「地域ケア会議」が実施され、それらの結果から聖隷藤沢ウェルフェアタウンが成長していくために必要な機能や資源等をチェックすることができた。そこから得られた課題・改善点を、自ら主体的に解決・改善するという視点で、以下2019年度の事業計画を取りまとめた。

開設9年目を迎え、藤沢エデンの園をはじめ施設内の各事業所に求められるニーズは、開設当初と比較して緩やかに、また場面によっては急激に変化している。2019年度は、変化を早期に察知し、適切なサービスの提供が後追いにならないよう体制を整備する。そのためには、高齢者複合施設の強みである多事業・多職種の連携をさらに強化し、そこから得られる多くの知識・技術・アイデアによって利用者サービスの質をさらに高めていく。

これまでも「パーソン・センタード・ケア」「認知症ケア」「看取りケア」には、当施設全体の取り組みとして注力してきたが、2019年度は「End of Life Care」の確立にも積極的に取り組み、他の高齢者施設や在宅事業所のベンチマークとなるようなツールを構築する。

また、藤沢市の地域包括ケアシステムの更なる発展に寄与するため、当施設が有する機能を積極的・効果的に活用頂けるよう、行政、医療機関、他法人に働きかけると共に、社会福祉法人の重要な役割である地域社会への貢献を実践する。聖隷藤沢ウェルフェアタウンの各事業所は、本来の事業活動に加え、地域の自治活動やボランティア活動にも深く関わりを持つことで、地域と当施設がより近い関係でサポートし合える環境づくりを目指す。その他、近年季節や地域を問わず頻発している自然災害に対する体制の整備についても、隣接マンションや行政等とより強固な協力体制を整えることで、当施設だけでなく湘南大庭地区における「安心・安全」の充実を図る。

2019年度も、利用者の皆様が「聖隷藤沢ウェルフェアタウンで生活することの幸せ」と、職員が「聖隷藤沢ウェルフェアタウンで働くことの幸せ」を感じることができるよう、運営を行っていく。

【施設理念】

『私たちの目指すもの ～笑顔あふれる幸せの街づくり～』

良質のサービスは「笑顔」、福祉の心は「幸せ」、地域への貢献は「街づくり」とそれぞれの言葉に我々の思いが込められている。

【経営方針】

1. 安全・安心の施設づくり
2. 効率的な運営
3. 人材確保と育成の強化
4. 地域における公益的な取組への注力（地域・社会とのつながりの推進）

【事業・運営計画】

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

1. 最善を追求したサービスの提供
2. 「提案・改善・改革」の継続（PDCA/企画力・実践力の強化）
3. その時その場が育成の機会（OJT/接遇の強化）
4. 自然災害に備えた地域との連携体制の確立
5. 地域の行方不明高齢者ゼロ活動への参画

藤沢エデンの園（一番館・二番館）

一番館、二番館、さらには聖隷藤沢ウェルフェアタウン内外の介護サービス事業所や医療機関、また多職種連携により、これまで以上に「安心・安全」を目指した体制を整備する。

【藤沢エデンの園 一番館】

1. 各種サービスの可視化（よりわかりやすく）
2. コミュニケーション力と接遇力の向上
3. 二番館および介護サービス事業所との連携強化

（数値指標）

2019 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	208 戸／209 戸	—	208 戸／209 戸
入居者数／定員	267 名／418 名	—	265 名／418 名
入居率	99.5%	—	99.5%

職員数(常勤換算)	54.2 名
サービス活動収益	411,510 千円

【藤沢エデンの園 二番館】

一番館から住み替える入居者が増加していることから、一番館、在宅サービス事業所との連携体制を構築し、これまで以上に質の高いサービスを提供する。

（数値指標）

2019 年度期末

	2019 年 3 月末	2019 年 4 月 ～2020 年 3 月	計
契約戸数／総戸数	42 戸／50 戸	46 戸／50 戸	47 戸／50 戸
入居率	84.0%	92.0%	94.0%

要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
	0 名	2 名	6 名	7 名	13 名	12 名	7 名	47 名

職員数(常勤換算)	37.9 名
サービス活動収益	196,780 千円

藤沢愛光園

2019年度は、引き続き入居者・利用者への安全と安心のサービス提供に努めると共に、2018年度好評であった家族参加型のアクティビティの実施を継続し、入居者・利用者が楽しみを持ち笑顔あふれる生活ができるようにしていく。経営面では安定した入居率を確保するため、入居・短期入所共に空床期間の短縮を目指す。積極的に他事業所から情報収集を行い、待機登録者を確保し短期入所の利用からスムーズな入居ができる仕組みづくりを行っていく。

人材確保では、職員が業務に専念できるよう体制を見直し、働きやすい環境づくりを目指していく。EPA介護福祉士候補生には、介護福祉士資格取得に向けた計画的な支援を行っていく。

【藤沢愛光園】

1. サービスの質の向上
2. 安定経営
3. 人材確保体制の構築

(数値指標)

	特養入所	短期入所
利用者定員	100 床	20 床
利用者延べ人数	36,234 人	6,954 人
営業日数	366 日	366 日
一日平均利用者数	99.0 人	19.0 人
稼働率	99.0%	95.0%
単価（1人1日あたり）	14,580 円	14,133 円
サービス活動収益	529,400 千円	93,110 千円
職員数（常勤換算）	66.5 人	13.9 人
職員数（常勤換算）	80.4 人	

【聖隷デイサービスセンター藤沢】

利用者自らが、健康維持・管理の一環として機能訓練に取り組めるよう全職員で支援する。また、個別機能訓練の構築、そのための人材育成を行い地域に選ばれるデイサービスを目指す。

(数値指標)

	介護給付			総合事業		単価		サービス活動収益
	平均利用者数	月利用者数	年間利用者数	月利用者数	年間利用者数	介護給付(回)	総合事業(月)	
一日	25.4 件	656.8 件	7,881.4 件	22.3 件	268 件	10,000 円	40,300 円	95,790 千円
半日	3.3 件	85.7 件	1,028.7 件	—	—	6,000 円	—	

【聖隷ケアプランセンター藤沢】

ケアマネジャーに必要な基礎知識に加えて、困難事例をはじめとした地域のニーズに対応できるスキルを身に着ける。

藤沢エデンの園の利用者の介護度重度化を防止するために、各部署と連携を図る。

(数値指標)

年間請求件数		単価		訪問調査		サービス活動収益
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価	
1,549 件	636 件	16,780 円	4,405 円	105 件	5,000 円	29,320 千円

【聖隷ヘルパーステーション藤沢】

2019 年度は地域の関係機関との連携を強化し、様々なニーズに対応できるよう人材確保に努める。また、サービス向上のための人材育成を行いながら、利用者のニーズに柔軟に 대응される体制づくりを目指す。

(数値指標)

介護給付			総合事業		障害者		
平均利用者数	月訪問数	年間訪問数	月利用者数	年間利用者数	平均利用者数	月訪問数	年間訪問数
35.5 名	424.7 件	5,096 件	31.5 件	378 件	27 件	257 件	3,084 件

単価			サービス活動収益
介護給付 (回)	総合事業 (月)	障害者 (回)	
3,600 円	18,900 円	4,400 円	42,780 千円

【聖隷訪問看護ステーション藤沢】

在宅生活をその人らしく暮らせるよう安全・安心な在宅ケアを提供するために、人材育成に取り組む。地域の中で訪問看護のニーズを再考し、地域での連携強化に努め、地域に選ばれる事業所を目指す。

聖隷藤沢ウェルフェアタウン内の各事業所との連携強化に努める。

(数値指標)

平均利用者数	月訪問数	年間訪問件数	単価 (円)	サービス活動収益
99.3 名	617.8 件	7,413 件	9,326 円	69,190 千円

ウエル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園

2018年度、有料老人ホームの一般居室は高い入居率を確保し、新規契約戸数も予算を上回る事ができた。介護居室については11月に4室の増室工事を実施したことで、住替えが必要とされる方へ円滑に行うことができた。また、2017年度に全面改修を行った男女大浴場濾過設備の更新、図書コーナーのリニューアル等環境整備を行った。入居者の皆様には、「健幸生活」を推進していくにあたり、いきいき生活室の立ち上げと「エデン版地域包括ケアシステム」の運営をスタートすることができた。奈良ベテルホームは介護報酬改定により区分が5段階に分けられ厳しいスターとなった。そのような中で収入増加を図るため10月に訪問リハビリテーションを新規開設し、11月より在宅強化型施設として運用を開始した。在宅部門は河合町や地域事業所との連絡会等に参加することで連携を強化し、さらには地域支援への取り組みに努めた。安心・安全面では地震・火災・防犯訓練を引き続き実施した。

2019年度も新規契約戸数の予算達成に注力し、好調な高い入居率を継続する。施設全体の中心的な取り組みである「健幸生活」や「エデン版地域包括ケアシステム」を利用者、入居者の皆様がよく理解していただけるように情報発信をしていく。また、2年目に入ったいきいき生活室は運営をしっかりと定着させ、内容の見直しや強化を行う必要がある。安心・安全面の取り組みとして、災害対策に力を入れることが必要であり、防災訓練もより実際に即した訓練や、近隣との協力体制も含めて取り組んでいきたい。WAC 第一号施設として継続してきた複合施設の強みを活かし、新たな活動に向けて全職員で取り組んでいきたい。

【施設理念】

私たちは、ひとりひとりを尊重し、「健康」・「生きがい」・「安心」を支援し続けます

【行動方針】

1. 私たちは、ひとりひとりのいのちと尊厳を守ります
2. 私たちは、最高のサービスを提供するために最善をつくします
3. 私たちは、地域との絆を育み、地域社会に貢献します

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継続とトータルケアサービスの実践
 - (ア) 聖隷理念の浸透と実践
 - (イ) その人らしさを最後まで支えるケアの推進
 - (ウ) エデン版地域包括ケアシステムの強化
 - (エ) 食べる楽しみの追及と安定した食堂運用
2. 安定した経営基盤の確立
 - (ア) 適正な収益確保に向けた加算取得や利用者・患者数アップに向けた取り組み
 - (イ) 複合施設の連携を活かした入居者・利用者ニーズの把握と確保
 - (ウ) 経営指標の可視化共有による経営意識向上

- (エ) エコロジー活動による省エネルギー資源活動への取り組み
- 3. 人財の育成・活用・定着の強化
 - (ア) 働き方改革への取り組み
 - (イ) 採用力強化と定着への取り組み
 - (ウ) 障害者の就労の場を提供し、雇用率2.4%以上を確保
 - (エ) 目標参画・各種ラダーを活用した職員教育の実践
 - (オ) 交換研修・専門研修等への計画的参加と資格の取得支援
 - (カ) 活気ある明るい職場づくりと職員の心身の健康管理への取り組み
- 4. サービスの質・安全・効率の向上
 - (ア) 身体拘束、虐待防止への取り組み
 - (イ) 感染予防対策の徹底と集団感染の防止
 - (ウ) リスク分析力の向上による重大事故防止
 - (エ) コンプライアンス意識の向上と職員間で指摘し合える風土づくり
 - (オ) EQC (エデン・クオリティ・コントロール) の定着と実践
 - (カ) 接遇マナーの向上
 - (キ) 施設設備の計画的更新と園周辺環境の美化・整備
 - (ク) 防災・防犯対策・教育と訓練の強化
 - (ケ) 満足度調査結果の分析と課題解決への取り組み
- 5. 地域における公益的な取組
 - (ア) WAC 施設としての地域貢献・交流
 - (イ) 地域との災害時の協力協定の締結と防災の協力
 - (ウ) 地域における「学び」の拠点となるための活動
 - (エ) 地域支援事業への積極的な参画

◆有料老人ホーム「奈良ニッセイエデンの園」

2018年12月1日現在において、入居契約件数400戸（一般居室353戸、介護居室47戸）入居率は97.1%（一般居室97.5%、介護居室94.0%）である。また、入居者の平均年齢は全体で82.1歳である。2019年度も引き続き職場間の連携を密に行い、増室した介護居室を含めて必要な方への適切な住替えを進める。各種ラダーの活用、標準サービス試行導入に向けた取り組みなど、より安心、安定したサービスの提供を目指す。また、いきいき生活室を中心として、エデン版地域包括ケアシステムの更なる認知向上のため、世代間交流などを通して入居者の生きがいがいづくりへとつなげていく。設備整備では、食堂中庭整備と30周年に向けた段階的な大規模植栽整備を実施予定である。また社会情勢により、働き方改革や労働人口の減少に対応した“多様な働き方”を踏まえた運営が今後さらに求められる。

【事業・運営計画】

- 1. 聖隷理念の継続とトータルケアサービスの実践
 - (ア) マイメモリーシートを活用し、その人らしさを最期まで支えるケアの推進
 - (イ) 施設内連携の実践によるエデン版地域包括ケアシステムの運用

- (ウ) 認知症にやさしいエデンづくり
- (エ) 安定した食堂運営の確立と食の満足度向上
- (オ) 介護予防プログラム見直しによる機能維持向上
- 2. 安定した経営基盤の確立
 - (ア) 介護認定が必要な方に向けた適切な介護保険契約の推進
 - (イ) 入居募集活動への協力と連携
 - (ウ) 住替えが必要とされる方への適正な対応
 - (エ) エコロジー活動による省エネルギー資源活動への取り組み
- 3. 人財の育成・活用・定着の強化
 - (ア) 働き方改革への取り組み
 - (イ) 多様な働き方への対応した採用力強化への取り組み
 - (ウ) 障害者雇用に向けた各職場間の連携
 - (エ) 目標参画・各職種のラダーを活用し自ら考え行動できる職員の育成
 - (オ) 他施設・他部署との計画的な交換研修の推進と職場の活性化
 - (カ) ストレスチェックの活用による職場環境整備と風土づくり
- 4. サービスの質・安全・効率の向上
 - (ア) 身体拘束、虐待防止への取り組み
 - (イ) 感染予防対策の徹底と集団感染の防止
 - (ウ) リスク分析能力向上と対策評価の徹底による重大事故防止
 - (エ) EQC の定着と実践による各種サービスの標準化の推進
 - (オ) 接遇の向上を目指した職員教育の徹底と推進
 - (カ) 施設設備の計画的更新と園周辺環境の整備
 - (キ) 防災・防犯対策教育と訓練の実施・強化
 - (ク) 満足度調査の結果をふまえたサービスの質の向上
- 5. 地域における公益的な取組
 - (ア) WAC 施設としての地域貢献・交流
 - (イ) 地域との災害時の協力協定の締結と防災の協力
 - (ウ) 地域における「学び」の拠点となるための整備
 - (エ) 地域支援事業への積極的な参画

【数値指標】

2019 年度期末

	一般居室			介護居室				計
契約戸数	355 戸			47 戸				402 戸
入居者数	465 名			48 名				513 名
入居率	98.1%			94.0%				97.6%
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	28 名	28 名	36 名	21 名	10 名	14 名	8 名	145 名
職員数(常勤換算)	99.50 名							※有料老人ホーム部分

◆ 高齢者総合福祉センター

2018年度は、「教養講座」「ホールイベント」「外出企画」いずれもの事業も2017年度を上回る受講・参加者数となることが見込まれる。

2019年度においては、安全・安定した事業継続のための再検証を行う。「教養講座」では、新規講座を実現させる事により、より広いニーズへの対応を図りたい。

◆ 介護老人保健施設「奈良ベテルホーム」

2018年度は、4月の介護報酬改定を受けて「在宅強化型老健施設」を目指し、10月には訪問リハビリテーションを新規開設、11月には届け出ることができた。上半期は「在宅強化型老健施設」となるべく改革を行ったことで、利用者数減少、収益減となったが2019年度以降の安定運営に向けての土台作りができた。ケアサービスにおいては、在宅復帰の為に個別ケアの充実を図ることで在宅復帰率を高めることができた。環境面においては、ベッドの更新、棚や洗面、壁紙、照明等大規模な設備改修ができ、利用者にとって更なる快適な環境を提供することができた。

2019年度は、リニューアルされた設備のもと、在宅復帰を目指した「在宅強化型老健施設」としてしっかりと地盤作りを行っていき、収益確保・予算達成ができる事業運営を目指す。

◆ ニッセイ聖隷クリニック

2018年度は診療報酬・特定健診・特定保健指導の制度改定に伴い迅速な対応を行った。入院は積極的な受け入れを行い予算達成、また病床5床の改修を行った。外来については患者数の減少により予算未達となっている。

2019年度は改修した個室には室料差額を算定し、新たな施設基準取得に向けて調整を行う。また、外来では認知症外来を行うことで、主に地域患者数の確保につなげたい。健診は受診者数確保に向けて各種キャンペーンを行っていく。

◆ ニッセイせいでい在宅介護サービスセンターベル・西大和店

2018年度は、総合事業の訪問介護は予算達成できたが、それ以外は入院・施設入所が相次ぎ予算未達であった。特にヘルパー不足が大きく影響し、新規ケースの受入れが困難であった。

2019年度は、採用力を高め人材確保を図ることで、新規利用者の獲得を目指す。また、福祉用具貸与・販売事業の運用、各種利用料金の見直しを図り、事業の安定化を目指す。

◆ 訪問看護ステーション西大和

2018年度は、リハビリ職員の訪問単価の減少はあったが、医療・介護保険共に訪問件数の増加で予算達成できた。ターミナル期の訪問依頼には積極的に応じ、退院前カンファレンスやサービス担当者会議へ参加し情報の共有と連携に努め、利用者のニーズに応じる事ができた。

2019年度は近隣事業所・医療機関との連携をさらに密に取り、新規利用者獲得による事業安定を目指す。

◆ ニッセイせいでいケアプランセンター西大和

2018年度は、介護保険制度改定に対応しつつ、「西和地域7町における入退院連携マニュアル」の活用や地域ケア会議への参加などにより医療・介護・地域との連携を強化したことが利用者数増につながり、予算を達成した。

2019年度は、さらに地域包括ケアシステム構築に向けて関係者と協働し、連携強化とケアマネジメントの質の向上を推進、地域の中で頼りにされる選ばれた事業所運営を目指していく。

ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園

2018年度、入居状況はここ数年の好調を維持し、一般居室の入居率はほぼ100%の状況であった。しかし、開園から21年が経過し、入居者の平均年齢は84.6歳、100歳以上の方2名を含め90歳以上の入居者が110名となり、介護認定を受けられる方も約140名と増加している。2019年度も引き続き提供すべきサービスの内容・量とも増加していくことが予想される。介護保険法では（国民の努力及び義務）として、国民は自ら要介護状態となることを予防することに努めることと記されており、当園のような自立型の有料老人ホームは、介護を必要としない、重度化させない取り組みが使命の一つである。そのためにも入居者一人ひとりの状態を把握し、各職場がそれぞれの専門性を持ってタイミングを逸することなく、必要なサービスを適宜提供していくことが重要である。部門間の連携、情報共有を密にしながら入居者個々の状態に合わせた支援体制の強化に取り組んでいきたい。早期発見、早期診断には入居者の少しの変化を感じとれる感性が大切であり、入居者の日常をしっかりと観察し、気づきのある職員の育成にも尽力していきたい。

また、安心して暮らしていただくため、経営面の安定と人材の確保・定着についても課題として考え、中長期的な計画を明確にしながら実行に移していきたい。

2018年度の目標とした「松戸市しあわせ村構想の次なるステップを具体化する」については、明確な方針が決まるには至らなかったが、引き続き松戸市及び松戸市立福祉医療センター東松戸病院等との連携、情報共有を密にし、計画を前進させていきたいと考える。

以上を踏まえ、以下のような2019年度の重点目標を掲げ、目標達成に向けて取り組みたい。

【施設理念】

私たちは一人ひとりを尊重し、“ここを選んで良かった”と思っただけのような施設づくりを目指します。

【経営方針】

1. サービスの質の向上
2. 人材の育成
3. 経営基盤の安定
4. リスク管理体制の強化
5. メンタルヘルスへの取り組み強化
6. 地域社会と連携した事業展開
7. 環境・省エネルギーへの取り組み強化

【事業・運営計画】

◆有料老人ホーム「松戸ニッセイエデンの園」

1. 各課の協力と情報の融合による総合力の発揮とサービスの向上
(ア) 入居検討時から最期まで、その人らしい生活を支えるシームレスなサービス体制の運用
(イ) 入居者一人ひとりのライフスタイルに合わせた食生活支援

- (ウ) 部門間情報共有の強化と各システムの情報統合への取り組み
- (エ) 入居者参画型の企画・行事の充実（園行事の見直しと充実）
- (オ) 関わりの少ない入居者へのアプローチ（セカンド含む）

2. 人材育成と連携

- (ア) 聖隷理念（隣人愛精神）の継承
- (イ) 気づきと行動力のある専門職の育成
- (ウ) 不適切なケア、接遇の知識・技術の向上と定着
- (エ) 新入職員へのサポート体制の構築
- (オ) 他課との連携を意識した業務整理と新たなサービスへの取り組み
- (カ) お互いを認め合い、やりがいのある職場風土の醸成

3. 経営基盤の安定

- (ア) 全職員による新入居者募集（園に関する知識の向上）
- (イ) 人材の確保・定着への取り組み
- (ウ) 一時介護室およびクリニック病床の適正利用
- (エ) 選ばれる食堂に向けた取り組み強化（喫食率の向上）
- (オ) 多様な働き方に対応できる労働環境の整備

4. リスク管理体制の強化

- (ア) 感染予防対策の強化
- (イ) 園内における防災体制の見直し
- (ウ) セキュリティ及び防犯の強化
- (エ) I/A の活用による事故の再発防止（対策立案能力の向上）
- (オ) コンプライアンスの徹底
- (カ) メンタルヘルス予防活動の推進

5. 地域における公益的な取組

- (ア) WAC 施設としての取り組みの更なる充実
- (イ) 地域に求められる中期計画の策定
- (ウ) エデンの園のノウハウの還元（地域における公益的な取組）
- (エ) 社会的責任への取り組みの充実

【数値指標】

2019年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	312戸／315戸	36戸／37戸	348戸／352戸
入居者数	390名／419名	37名／37名	427名／456名
入居率	99.0%	97.3%	98.9%

要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
	35名	18名	29名	21名	11名	15名	10名	139名

職員数（常勤換算）	118.14名	※有料老人ホーム部分
-----------	---------	------------

◆診療所「松戸ニッセイ聖隷クリニック」

園の入居者の平均年齢は 84.6 歳となり高齢化がさらに進んできている。それに伴い、より幅広い疾病への対応が求められ、今まで以上に各職種の専門性が必要となってきた。そのため、チーム医療の実践は当然のことながら、さらなる個人のスキルアップの取り組み強化にも努めていきたい。経営面においては、入院外来ともにここ数年は患者数が横ばいとなっており、収益全体でも微増にとどまっている。今後は外部患者や住民健診の受け入れ拡大も視野に入れ、収益増を図っていくことが、将来を見据えた安定した経営のためにも必要であると考えている。

また、2019 年度も安定した医療サービスの提供を行うために、組織内の連携を大事にし、リスクの軽減を図りながら、入居者・利用者へ安心と信頼を提供していきたい。そのために、以下の重点目標を掲げ目標達成に向けて取り組んでいく。

1. 医療・看護サービスの充実

(ア) 各課との連携を強化し、各職種の特性を活かしたチーム医療の実践

(イ) 入居者の定期健康診断の受診率向上

(ウ) 看取り看護の充実

(エ) 地域への貢献、地域医療連携の充実

2. 人材育成と連携

(ア) 専門職としてのスキルアップ

(イ) 園内教育、研修制度の変革

(ウ) 離職防止への取り組み

3. 経営基盤の安定

(ア) 病床稼働率の向上

(イ) 外部患者（外来・住民健診）受入れ拡大の検討

(ウ) 次期診療報酬改定への対策検討

4. リスク管理体制の強化

(ア) IA（レポート）システムの有効活用

(イ) 電子カルテシステムの活用

(ウ) 感染拡大防止策の徹底

(エ) 働き方改革に対応した労務管理

2019 年度数値指標

【診療部門】

	一日平均患者数	単価	診療実日数
外来部門	55.0名	4,450円	241日
入院部門	17.0名	11,500円	366日

【検診部門】

	定期検診延べ受診者数	簡易検診延べ受診者数
入居者検診	760名	840名
職員検診	192名	

◆高齢者福祉総合センター「ニッセイ松戸アカデミー」

ニッセイ松戸アカデミーでは、入居者と近隣にお住まいの方が、趣味活動などを通じて、生きがいと仲間づくりをしていただくことを目的としている。2019年度も多くの入居者及び近隣にお住まいの方が参加できる季節のイベントや各種教室、大ホール・エントランスロビーでのコンサートを引き続き開催していく。また、「エデンの園のノウハウを地域にお住まいの方にも還元できる活動」についても2018年度以上に実施していきたい。

1. エデンの園のノウハウを近隣の皆様に還元できるイベントの企画・立案
2. 地域交流につながる広報活動の充実
3. 入居募集の支援

◆ニッセイエデン・ヘルパーステーション

2019年度事業計画

1. 地域が求めている訪問介護支援への要望を情報収集し、期待に応える事のできる事業展開を引き続き実施する
2. 2018年度に関係を新たに築いた介護支援事業所からの利用者の増加を狙い営業活動を行う
3. 入居者へのベル対応の拡充に注力していく
4. 障害者支援サービス、多様化する介護保険サービスに対応できるよう、介護員のスキルアップ及び積極的な研修参加を実施する

2019年度重点施策

求められる事業所

- *事業拡充による収支の安定
- *ベル事業の拡充
- *専門性を持った職員の育成
- *地域との連携強化による地域貢献

2019年度数値指標

【介護保険】

	利用者数	単価
介護給付（日平均）	25.0名	4,100円
予防給付（月利用者数）	14.0名	18,000円
有償（入居者）サービス（月利用者数）	10.0名	8,000円

営業日数=310日（月平均26日）

ケア付き高齢者住宅 明日見らいふ南大沢

2018年の厚生労働省からの発表では、平均寿命が男性81.09歳、女性87.26歳、総務省からの報告では日本の高齢化率が28.1%といずれも過去最高を記録した。急速に変化していく超高齢社会の中で、働く人口の減少、医療・介護の問題など、明日見らいふ南大沢においても様々な課題に直面していくことが予想される。今後も社会情勢にアンテナを高くし、安定した施設運営に努めていく。

さて、明日見らいふ南大沢を見てみると、入居者の平均年齢は、2017年同時期と比較し0.4歳高くなり85.6歳（2018年11月末）となった。平均年齢の上昇に伴い、何らかの支援を必要としている入居者も増えてきている。入居から看取り期までのどの段階においても、心地よい生活を支援できるよう、人材確保、職員の質の向上に努め、今後も入居者が安心して暮らせる支援体制の充実に取り組んでいく必要がある。

2019年度は、健康長寿の延伸にむけた取り組みの充実のため、現在行っているに企画に加え、新たなプログラムの実践に取り組んでいく。そして、楽しみの時間が増えるよう、行事の見直しと新たな企画や講演会の開催を行う。また、2018年から取り組んでいる、生活サービスフロントが真の窓口となり“自立した生活から支援が必要となる移行期”の方に早期に気づき、適切な時期に適切な支援を提供できるよう、職員の資質向上に努める。そして、よりよい支援を提供するための取り組みのひとつとして、元気なうちに、将来受ける可能性を視野に入れた“医療・介護への希望や意志”を確認するための体制づくりに取り組んでいきたいと考える。

【施設理念】

私たちは、ご入居者が終の棲家として、お互いがふれあい、孤独ではなく安心して生活できる施設創りを目指します。

【経営方針】

1. サービスの質の向上
2. 安心・信頼できる施設運営
3. 人材確保と育成の強化
4. 東京都住宅供給公社と連携した施設運営

【事業・運営計画】

1. 入居から看取りまでその人らしく生活することを支えるサービスの提供
 - (ア) 「健康長寿」に繋がるプログラムの定着と新しいプログラムの開発
 - (イ) 介護・生活利便サービスの充実に向けた取り組み
 - (ウ) 要介護未認定入居者や困難事例に対する支援の実践
 - (エ) 入居時からシームレスな情報共有の仕組みづくり
 - (オ) 入居者の意志を聞き取る体制づくり

2. 人材の育成

- (ア) 役職者のマネジメント能力の向上（問題発見・解決能力、判断力、組織性・専門性の両立、動機づける力、承認できる力）
- (イ) 自信につながる専門領域の習得
- (ウ) 各課の役割を理解し、連携強化を図れる職員の育成
- (エ) 権利擁護・リスクマネジメント能力の向上

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 納涼祭・介護セミナー等を通じて開かれた施設づくり
- (イ) 高齢者あんしんセンターとの繋がりによる専門職としての活動の機会づくり
- (ウ) 入居者の経験や知識を活かした地域貢献活動の場所づくり

4. 環境・エコロジー活動への取組

- (ア) 入居者と共同・協働による活動（ペットボトルキャップ回収等）
- (イ) 環境美化活動の継続（周辺ゴミ拾い活動）
- (ウ) 省エネルギーへの取り組みの継続

5. 入居者募集

- (ア) セミナー他、公社募集業務への協力と連携
- (イ) 募集事務所と連携して新規入居者のスムーズな受入れ
- (ウ) 職員全員が入居者募集担当であるとの自覚を持って入居検討者を迎える

【数値指標】

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数/総戸数	295/317 戸		44 戸/53 戸		339 戸/370 戸			
入居者数/定員	332 名/482 名		44 名/53 名		376 名/535 名			
入居率	93.1%		83.0%		91.6%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	19.1 名	18.1 名	26.2 名	16.1 名	11.8 名	16.8 名	10.1 名	118.2 名
職員数（常勤換算）	108.67 名							
サービス活動収益 ※	122,000 千円							

※クリニック南大沢施設診療所のみ

法人本部

2019年度は改元、消費税増税や働き方改革の推進など、国の政策への対応が迫られるなか、新規事業の開設、指定管理受託、大規模増改築工事の完成などが予定されており、規模が大きく拡大する年となる。持続可能な事業の発展を支えるため、外国人人材や障害者雇用を含め人材確保に引き続き注力すると共に長時間労働の改善やホワイト500認定取得など、職員が働きやすい環境の整備を継続して行っていく。さらに施設整備における資金調達、電子カルテ、業務システムの導入支援、効率的な内部監査体制、防災体制などにおいて本部機能を活かし施設経営に資する取り組みを進める。

また、引き続きキャッシュ・フロー経営を推進し、中期事業計画の達成を目指すと共に、今後の新たな法人組織の在り方を検討していく。本部各部の機能を活かし総合的に関連法人への支援も進めていく。

法人本部では次の項目を2019年度重点目標として掲げる。

1. 人材確保・育成と働き方改革への対応
2. 社会福祉法人の使命として地域共生社会の実現
3. 先駆的取り組みへの挑戦と健全経営
4. 災害対策への取り組み

各部は、次の年度事業目標（重点施策）を策定する。

[総務部]

1. 育児・介護・病気に関する両立支援制度の実施と検討
2. 働き方改革（長時間労働の是正・定年延長の検討・非正規職員の処遇検討）の推進
3. 健康管理業務の推進と体制整備の検討
4. 医師等専門職の働き方及び処遇の検討
5. 地域における公益的な取組等の適切かつ積極的な情報開示
6. ICT等の活用による業務の省力化とペーパーレス化による省資源化の検討
7. 総務業務における生産性向上への取り組み推進
8. 定型業務の効率化による事務専門業務の高度化を目指した体制構築の検討
9. 広域防災対策本部としての役割の明文化と訓練の実施
10. 災害備蓄品の精査と管理方法の検討
11. 各施設への安否確認システム「ANPIC」の導入推進

[人事企画部]

1. 地域における採用対象校や小中高校とのつながりを強化する
2. 地域に根差した多様な人材、潜在的な人材が事業団で活躍するための取り組みをする
3. 募集活動から事業団への就職を促す動機付けを効果的に行う
4. 障害者雇用の更なる推進を行う

5. 外国人人材の採用を強化する
6. 働き方改革を推進する
7. 多様な働き方への対応と処遇の見直しを検討する
8. 多様な人材が能力を生かし、活躍することができる人材育成体制を構築する
9. 生活援助従事者研修を開講し法人内外の介護人材のすそ野拡大に寄与する
10. 看護師特定行為研修の開始に向けた準備を行う
11. その他外部研修事業の実施

[財務部]

1. キャッシュ・フロー経営の推進による事業団経営管理機能強化
2. 財務部門における生産性・効率性向上に向けた取り組み
3. 経営視点を持った職員の育成
4. 災害対策への取り組み

[総合企画室]

1. 新たな法人組織の在り方の研究・検討
2. 中期事業計画 2016-2020 の達成に向けた中間振り返りと進捗確認および支援
3. 事業部、関連法人の経営改善支援とノウハウの蓄積
4. 社会福祉法人への理解を深める広報を展開する
5. 2020 年聖隷創立 90 周年事業の準備

[総合情報システム部]

1. 働き方改革を実現する情報部門の在り方と人材育成
2. 地域共生社会実現に向けた各事業部への支援強化
3. ICT を活用した業務基盤の確立と経営の見える化
4. 災害対策への取り組み強化

[監査室]

1. リスクベースによる内部監査を 2020 年度に実現するための準備を行う
2. 内部監査を効率的・効果的に実施する
3. コンプライアンス経営への側面支援を行う